

盛岡市内遺跡群

—平成 29・30 年度発掘調査報告書—

赤裳遺跡	第 5 次
大新町遺跡	第 84 次
繫 V 遺跡	第 38 次
里館遺跡	第 65 次

2020.12

盛岡市教育委員会

盛岡市内遺跡群

—平成 29・30 年度発掘調査報告書—

赤裳遺跡	第 5 次
大新町遺跡	第 84 次
繫 V 遺跡	第 38 次
里館遺跡	第 65 次

2020.12

盛岡市教育委員会

序 言

盛岡市は、北上平野を縦断する北上川と、その東西に位置する奥羽山脈と北上山地から流れ出る雫石川・中津川との合流点に位置し、雄大な岩手山や姫神山を望む約30万人の人口を抱える岩手県の県都です。北東北の拠点都市として緑豊かな環境と高度都市機能の調和したまちづくりを目指しています。

市内には、旧石器時代から江戸時代まで、およそ780箇所の遺跡が存在します。その中には、国・県・市指定の史跡として保存・活用が図られているものもありますが、各種開発等によって姿を変え、消滅していく遺跡があることも事実であります。

盛岡市では、文化財保護の立場から、国の補助を受け市内各地の個人住宅建築に伴う調査を継続的に実施しており、当市の歴史を紐解くうえで、大変貴重な成果をあげております。

本書は、平成29・30年度に実施した市内遺跡群の発掘調査報告書であります。市民の皆様の地域理解の一助として、また学術的な研究資料として広く活用いただけましたら幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なる御指導や御助言を賜りました文化庁文化財第二課、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課、発掘調査に御理解と御協力を頂いた地権者各位及び地元関係者の皆様に厚く御礼申しあげます。

令和2年12月

盛岡市教育委員会

教育長 千葉 仁一

例 言

- 1 本書は、平成 29・30 年度国庫補助事業「盛岡市内遺跡群」の発掘調査報告書である。
- 2 本書は遺構及び遺物の実測図などの資料呈示を意図して、執筆・編集を鈴木俊輝、各遺跡の執筆を花井正香、似内啓邦、今野公顕、今松佑太が担当し、室野秀文、菊地幸裕、津嶋知弘、佐々木あゆみ、鈴木郁美が協力した。
- 3 遺構の平面位置については、大新町遺跡は世界測地系、繫V遺跡・里館遺跡は日本測地系を用い、平面直角座標系X系を座標変換した調査座標で表示した。なお、方位は座標北を表している。
大新町遺跡 調査座標原点 X - 31,200,000 m Y + 23,900,000 m = RX ± 0.000 RY ± 0.000
繫V遺跡 調査座標原点 X - 36,000,000 m Y + 16,000,000 m = RX ± 0.000 RY ± 0.000
里館遺跡 調査座標原点 X - 32,000,000 m Y + 24,500,000 m = RX ± 0.000 RY ± 0.000
- 4 高さは標高値をそのまま使用している。
- 5 土層図は堆積のあり方を重視し、線の太さを使いわけた。土層註記は層理ごとに本文でふれ、個々の層位については割愛した。なお、層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（2013 小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業所発行）を参考にした。
- 6 遺構の名称及び記号は次のとおりである。また「竪穴建物跡」の名称については、『発掘調査のてびき - 集落遺跡発掘編 -』（2010 文化庁文化財部記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編集）に倣っている。

大新町遺跡・繫V遺跡

遺 構	記 号	遺 構	記 号
竪穴建物跡	RA	土 坑	RD
竪 穴 跡	RE	焼 土 遺 構	RF

里館遺跡

遺 構	記 号
堀・溝 跡	SD

- 7 本書中の地図は、国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1「盛岡」「小岩井農場」の地形図を使用し、5万分の1に縮小・編集したものを掲載している。
- 8 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管してある。
- 9 本調査の一部については発掘調査成果報告会や速報展等で報告・発表しているものがあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

10 調査体制 -平成29年度～令和2年度-

〔調査主体〕 盛岡市教育委員会

教育長 千葉 仁一
 教育部長 豊岡 勝敏
 教育次長 大倉 慎澄（～H30年度） 大澤 浩（R1年度～）

〔調査総括〕 歴史文化課 遺跡の学び館

課長兼館長 杉本 浩（～H30年度） 福田 淳（R1年度～）
 館長補佐 多田 秀明（～H30年度） 三浦 志麻（R1年度～）

〔調査〕

文化財副主幹 室野 秀文 ※調査（赤袋遺跡）
 文化財副主幹 菊地 幸裕
 文化財主査 津嶋 知弘
 文化財主査 神原雄一郎（～H29年度）
 文化財主査 今野 公顕（H30年度～）※調査・整理（里館遺跡）
 文化財主査 花井 正香 ※調査・整理（大新町遺跡）
 文化財主査 佐々木亮二（～R1年度）※調査・整理（里館遺跡、繫V遺跡）
 文化財主任 似内 啓邦（R2年度）※整理（繫V遺跡）
 文化財主事 鈴木 俊輝 ※調査（赤袋遺跡、大新町遺跡）
 文化財調査員 今松 佑太 ※調査・整理（繫V遺跡）
 文化財調査員 及川 菜里（～H29年度） 上柿 南（H30年度）
 文化財調査員 佐々木あゆみ（R1年度～）
 文化財調査員 鈴木 郁美（R2年度）

〔管理・学芸〕 主任

川村 忠（～H30年度） 菊池 好文（R1年度）
 杉浦 雄二（R2年度）
 文化財調査員 日野杉順子（～H29年度） 新井 順（H30年度）
 文化財調査員 金 俊教（R1年度） 伊藤 聡子（R2年度）
 学芸調査員 樋下 理沙（～H30年度、R2年度）
 学芸調査員 坂本 志乃（～H29年度） 千葉 貴子（H30年度～）

〔発掘調査・室内整理作業〕

浅沼諭，天沼芳子，伊藤敬子，及川亜矢子，及川京子，川村久美子，熊谷あさ子，小松愛子，
 佐々木あゆみ，佐々木富士子，佐藤美智子，佐野光代，千葉ふさ子，野坂次郎，袴田英治，
 樋口泰子，藤田友子，山下摩由美，武蔵真由美

〔地権者・助言・調査協力〕

大竹純，小山恵子，高橋徹，岩田貴之（北上市埋蔵文化財センター），中村哲也（青森県埋蔵文化財センター），春成秀爾（国立歴史民俗博物館名誉教授），岩手県教育委員会

《遺物の表現について》

(1) 土器

- 土器の区分は、縄文土器・弥生土器・土師器に大別した。
- 縄文時代早期・前期初頭に属する土器の実測図・拓本の縮小率は1/2とし、その他は1/3とした。
- 挿図の配列については、器種・器形・出土層位・文様モチーフ及び施文技法でまとめた。
- 縄文土器で稜線・沈線は実線・破線で表現し、陰影は表現していない。

(2) 石器

- 剥片石器の縮小率は2/3、礫石器は1/3及び1/4とした。
- 石器の展開順序は、基本的に左側に表面（背面）、中央に右側面、右側に表面（腹面）を配列し、必要に応じて縦断面・横断面を付け加えた。
- 挿図の配列については、器種ごとにまとめ、層位順に配列した。
- 磨減痕は網目（スクリーントーン）で示し、自然面はドットで表現した。

(3) 土製品、石製品

- いずれも縮小率を2/3とした。

(4) 挿図中の記号・番号は遺物の出土位置及び出土層位を表している。

（例） RA 369 C層 → RA 369 竪穴建物跡内埋土C層より出土

（例） G 9 - D 21 IV層

↓ ↓ ↓
※1 ※2 ※3

- ※1 調査座標原点RX±0 RY±0を起点として、X・Y両軸を50mごとに区切る大グリッドを設定し、X軸線上を西から東へA・B・C…W・X・Y（東から西への場合は-A・-B・-C…-W・-X・-Y）、Y軸線上を北から南へ1・2・3…23・24・25（南から北への場合は-1・-2・-3…-23・-24・-25）と付し、北西隅のこれらのアルファベットとアラビア数字の組み合わせを、大グリッドと呼称した。
- ※2 大グリッドを2mごとに細分割し、小グリッドを設定し大グリッドの呼称を再び用いた。よって大グリッド-小グリッドという組み合わせで、遺物の平面出土地点を2mごとに表示した。
- ※3 遺物の出土層位を表している。

《遺構の表現について》

遺構の挿図中、説明する当該遺構については実線で表現した。また、説明遺構と切り合った遺構については、一点鎖線で表現した。

目 次

序 言	
例 言	
目 次	
表 目 次	
挿 図 目 次	
写 真 図 版 目 次	

I 平成29・30年度発掘調査の概要	1
II 大新町遺跡（第84次調査）	7
III 繫V遺跡（第38次調査）	55
IV 里館遺跡（第65次調査）	97

写 真 図 版	
報 告 書 抄 録	

表 目 次

第1表 平成29年度 盛岡市内遺跡群発掘調査事業調査遺跡一覧	1
第2表 平成30年度 盛岡市内遺跡群発掘調査事業調査遺跡一覧	2
第3表 大館町遺跡・大新町遺跡調査一覧	10
第4表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 縄文土器（1）	51
第5表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 縄文土器（2）	52
第6表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 縄文土器（3）	53
第7表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 弥生土器	53
第8表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 土製品	53
第9表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 石器・石製品	54
第10表 繫V遺跡調査一覧	58
第11表 里館遺跡調査一覧	100
第12表 里館遺跡第65次調査 小ビット観察表	104
第13表 里館遺跡第65次調査 S D300堀跡埋土観察表（1）	105
第14表 里館遺跡第65次調査 S D300堀跡埋土観察表（2）	106

挿 図 目 次

第1図	地形分類と周辺の遺跡分布	5・6
第2図	大新町遺跡の位置 (1:50,000)	7
第3図	大館町遺跡・大新町遺跡全体図	11・12
第4図	大新町遺跡第84次調査全体図	13
第5図	調査区土層断面図	14
第6図	R A6515竪穴建物跡, ビット	17
第7図	R A6516竪穴建物跡, R D6656土坑	19
第8図	R A6515・6516竪穴建物跡出土遺物 (1)	20
第9図	R A6516竪穴建物跡出土遺物 (2)	21
第10図	R A6516竪穴建物跡出土遺物 (3)	22
第11図	R A6517竪穴建物跡	24
第12図	R A6517竪穴建物跡出土遺物 (1)	25
第13図	R A6517竪穴建物跡出土遺物 (2)	26
第14図	R A6517・6520竪穴建物跡, R D6650土坑出土遺物	27
第15図	R A6518・6519竪穴建物跡, ビット	29
第16図	R A6520・6521竪穴建物跡	30
第17図	R D6650・6654・6655土坑	33
第18図	R D6651~6653土坑	35
第19図	R D6653土坑出土遺物	36
第20図	R D6654土坑出土遺物	37
第21図	R D6657~6661土坑	41
第22図	R D6655・6658土坑出土遺物	42
第23図	遺物包含層・遺構外出土遺物 (1)	45
第24図	遺物包含層・遺構外出土遺物 (2)	47
第25図	大新町遺跡出土押型文土器文様模式図	50
第26図	繫V遺跡の位置 (1:50,000)	55
第27図	繫V遺跡全体図	59・60
第28図	繫V遺跡第38次調査全体図	62
第29図	R A294竪穴建物跡 (1)	64
第30図	R A294竪穴建物跡 (2)	65
第31図	R A294竪穴建物跡出土土器	66
第32図	R A294竪穴建物跡出土土器	67
第33図	R E295竪穴跡, R A296竪穴建物跡	69
第34図	R E295竪穴跡出土土器 (1)	70
第35図	R E295竪穴跡出土土器 (2) 石器, R A296竪穴建物跡出土土器	71

第36図	RE297竪穴跡, RD550・551・552土坑(1), ビット(1)	74
第37図	RD550・551・552土坑(2), RF105・106焼土遺構, ビット(2)	75
第38図	RE297竪穴跡, ビット8出土石器	75
第39図	遺物包含層土層断面	79
第40図	遺物包含層IV層, III層, IIb層(1)出土石器	80
第41図	遺物包含層IIb層(2)出土石器	81
第42図	遺物包含層IIb層(3)出土石器	82
第43図	遺物包含層IIb層(4)出土石器	83
第44図	遺物包含層IIb層(5)出土石器	84
第45図	遺物包含層IIa層(1)出土石器	85
第46図	遺物包含層IIa層(2)出土石器	86
第47図	遺構外, 落込み, 表土出土石器, 土製品	87
第48図	遺物包含層IV層, III層, IIb層(1)出土石器	88
第49図	遺物包含層IIb層(2)出土石器	89
第50図	遺物包含層IIb層(3), IIa層(1)出土石器	90
第51図	遺物包含層IIa層(2)出土石器	91
第52図	遺物包含層IIa層(3)出土石器	92
第53図	遺物包含層IIa層(4)出土石器	93
第54図	落込み, 表土出土石器	94
第55図	里館遺跡の位置(1:50,000)	97
第56図	里館遺跡全体図	101
第57図	里館遺跡第65次調査全体図	102
第58図	S D305堀跡	103
第59図	A区小ビット	106

写真図版

第1図版	赤裳遺跡第5次調査現場写真
第2～7図版	大新町遺跡第84次調査現場写真
第8～16図版	大新町遺跡第84次調査出土遺物写真
第17～20図版	繫V遺跡第38次調査現場写真
第21～23図版	繫V遺跡第38次調査出土遺物写真
第24図版	里館遺跡第65次調査現場写真

I 平成 29・30 年度発掘調査の概要

1 平成 29 年度事業の概要

発掘調査 平成 29 年度は、発掘調査・試掘調査をあわせて 28 件実施した（学術調査・現状変更除く）。このうち国庫補助事業（盛岡市内遺跡群発掘調査事業）で実施した発掘調査は本調査 1 件、試掘調査 5 件である（第 1 表）。本調査は赤袋遺跡第 5 次調査である。

赤袋遺跡 赤袋遺跡第 5 次調査区は赤袋遺跡の南部に位置し、平成 27 年度に行われた第 3 次調査区の北側に隣接している。住宅・給排水管部分及び通路・駐車場予定部分について事前の試掘確認調査を実施したところ、いずれにおいても遺構が確認されたため、地権者と協議のうえ、通路及び駐車場予定部分については現状のまま使用（後に第 8 次調査として本調査済み・市費）することとし、住宅及び給排水部分についてのみ第 5 次調査として本調査を実施した。

調査区内で確認された基本層序はⅠ～Ⅳ層に大別され、Ⅰ層は表土（耕作土）である。Ⅱ層は黒色ないし黒褐色土で、地形的低みや遺構の上面に堆積しており、隣接する 3・4 次調査では確認されているが、本調査では確認されなかった。Ⅲ層は褐色ないし黄褐色土層。Ⅳ層は黄灰色土で、一部の遺構底面で確認している。Ⅲ層以下の層は地山であり、Ⅰ層を除去したⅢ層上面で遺構の検出を行った。検出面までの深さは現地表面から 0.2m 前後である。調査区はもともと畑地であったが、耕作による攪乱は軽微であった。調査区内はほぼ平坦で、検出面の標高値は 136.700m 前後である。

検出された遺構は古代以降の土坑 2 基（RD19・RD20）、近世以降の土坑 1 基（RD03）である。RD03 は隣接する第 3 次調査で確認された遺構の一部であり既報告（2017 盛岡市・国庫補助）である。また、RD19・RD20 についても、平面図及び断面図等の詳細は既報告（2020 盛岡市・市費）のため、いずれもそちらを参照されたい。

赤袋遺跡第 5 次調査以外の試掘調査については、遺構・遺物なし若しくは攪乱に混入した土器片の出土のみであったため、第 1 表に所在地・調査期間・調査面積を示すのみとした。

遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因
赤袋遺跡（第 5 次試掘）	盛岡市西青山一丁目 21 番	17.05.19	131.1㎡	個人住宅建築
赤袋遺跡（第 5 次）	盛岡市西青山一丁目 21 番	17.06.28	94.3㎡	個人住宅建築
西鹿渡遺跡（第 34 次試掘）	盛岡市三本柳 2 地割 29 番 2 外	17.11.21	20.2㎡	個人住宅建築
大新町遺跡（第 83 次試掘）	盛岡市大新町 13 番 18	17.12.06	26.6㎡	個人住宅建築
三百刈田遺跡（第 3 次試掘）	盛岡市西見前 19 地割 44 番 25	18.03.19	14.5㎡	個人住宅建築
小屋塚遺跡（第 43 次試掘）	盛岡市大新町 168 番 7	18.03.20	20.5㎡	個人住宅建築

第 1 表 平成 29 年度 盛岡市内遺跡群発掘調査事業調査遺跡一覧

2 平成 30 年度事業の概要

発掘調査 平成 30 年度は、発掘調査・試掘調査をあわせて 22 件実施した（学術調査・現状変更除く）。このうち国庫補助事業（盛岡市内遺跡群発掘調査事業）で実施した発掘調査は本調査 3 件である（第 2 表）。本調査は大新町遺跡第 84 次調査、里館遺跡第 65 次調査、繫 V 遺跡第 38 次調査である。

遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因
大新町遺跡（第 84 次）	盛岡市大新町 13 番 18	18.04.09～05.28	74㎡	個人住宅建築
里館遺跡（第 65 次）	盛岡市天昌寺町 247 番 4	18.06.06～06.26	136.5㎡	個人住宅建築
繫 V 遺跡（第 38 次）	盛岡市萩内沢 94 番 1	18.07.19～09.19	198.3㎡	個人住宅建築

第 2 表 平成 30 年度 盛岡市内遺跡群発掘調査事業調査遺跡一覧

3 盛岡の地形・地質

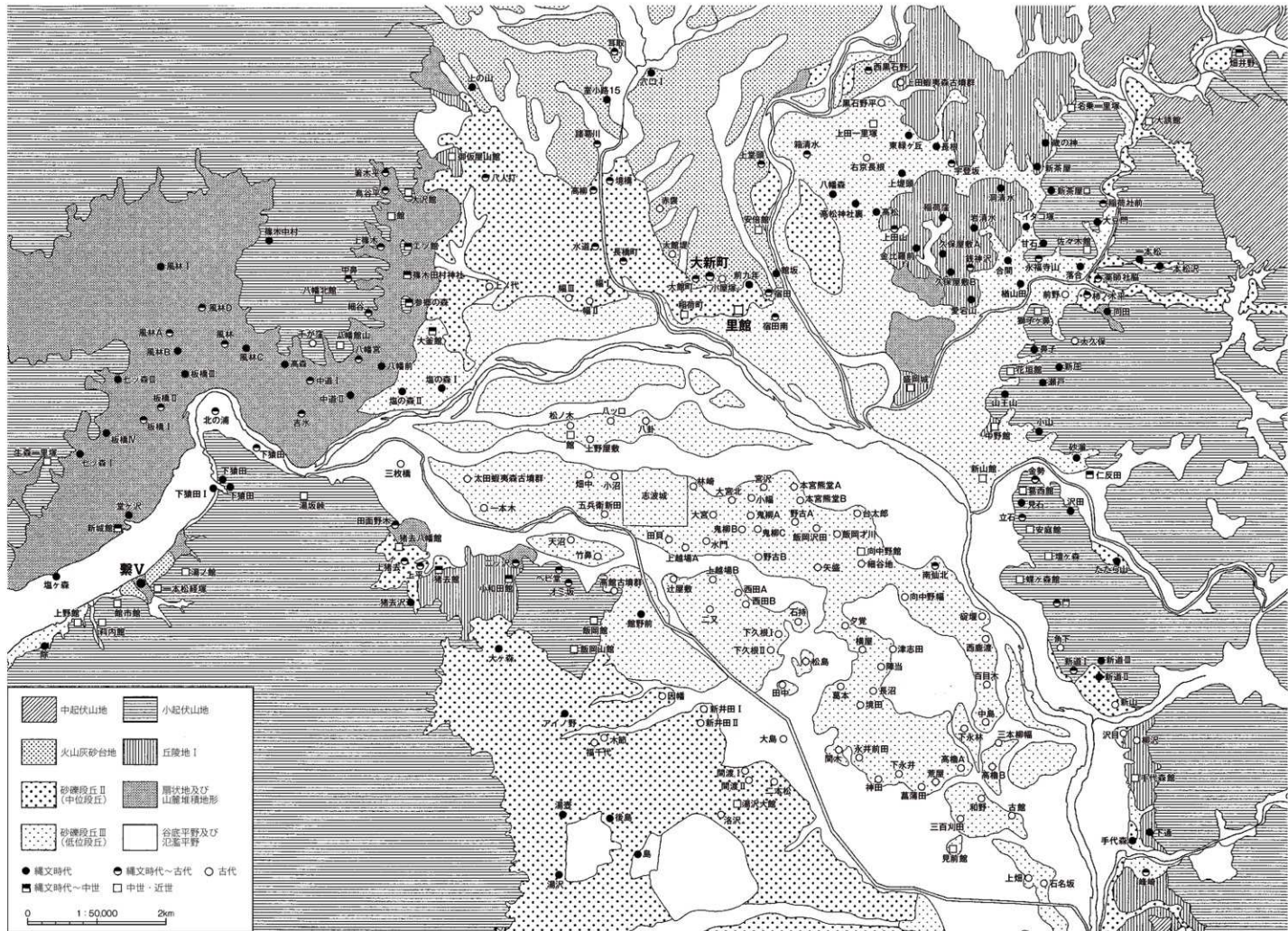
盛岡市は東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山（標高 2,038 m）を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は、構成する地質やその形成年代が異なるため、東西の地形の様相は大きく異なる。また、岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地形・地質に大きく影響を及ぼしている。

北上山地 北上山地は日本列島の中でも形成年代の古い地層が分布する地帯であり、古生代や中生代の堆積岩及び花崗岩からなる。これまで、北上山地の地質を南北に区分する境界新層帯は「早池峰構造体」と呼ばれていたが、近年の研究によって地帯区分の整理が進み、現在、北上山地の地質はその構造史より、北部北上帯、南部北上帯とその間に分布する根田茂帯の大きく三つに分けられる。盛岡市東部は、根田茂帯の西縁にあたる。これらの山地縁辺には、中津川・築川などの北上川水系の河川やその支流により浸食された丘陵地や中位・低位の段丘が発達している。

盛岡市北東部を流れる中津川は、その最大支流である米内川と盛岡市浅岸付近で合流して水量を増し、市街地を西流して北上川と合流する。

築川は盛岡市東部、北上山地の分水嶺となる岩神山（標高 1,103 m）の西斜面より流れ、最大支流である根田茂川と盛岡市水沢付近で合流し、開伊街道（宮古街道）に沿って蛇行しながら、盛岡市東安庭付近で北上川と合流する。その流れは丘陵地や高位段丘面を開析して流域沿いに中小規模な低位段丘を形成する。

奥羽山脈 奥羽山脈は北上山地に比べると比較的新しい新第三紀からなる非火山地域と、第四紀に形成された新規火山地域に区別される。岩手山はこの新規火山地域に含まれる。雫石川は奥羽山脈より東流し、雫石盆地を形成する。その流れは烏泊山と箱ヶ森に挟まれた盛岡市北の浦付近において急激に流路が狭められ、その狭窄部を抜けて北上平野に流れ込む。雫石川北岸および南岸ではその地質が大きく異なり、雫石川北岸には、岩手山起源の大石渡岩層なだらな堆積物を基盤とした



第1図 地形分類と周辺の遺跡分布

火山灰砂台地（滝沢台地）が広がっている。その範囲は盛岡市北部から滝沢市北部まで広範囲に及んでいる。

雫石川南岸には、雫石川の流路転換によって運ばれた土砂で形成された沖積段丘が広がっている。雫石川は、これまでに何度も流路を変えており、雫石川南岸に広がる沖積段丘の形成に大きな影響を及ぼしている。この沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上層に水成シルト、さらに表土が覆っている。このシルト層は旧河道などの低地形ばかりではなく、微高地上にも堆積している。これは沖積段丘が、河道の定まらない雫石川の下刻が周辺山地からもたらされる砂礫やシルトによって形成され、何度も堆積が繰り返されたことによるものである。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、大きなものは4条、その他にも網目状に細かな旧河道が沖積段丘に広がっている。現在は圃場整備や宅地造成が進み、旧地形を留めているところは少なくなってきたが、航空写真などを見ると旧河道の流路が残された水田や古い住宅街の区割り等で確認できるところもある。

4 歴史的環境

旧石器時代 旧石器時代の遺跡は、市街地から北東へ約20kmの葦川字外山に小石川遺跡が所在する。山間部の小河川に臨む台地上にあり、後期旧石器時代の遺跡で珪岩製の尖頭器や黒曜石製の石核、剥片などが多数出土している。また、岩洞湖を隔てた対岸には細石刃や石核の採集された大橋遺跡がある。

縄文時代 滝沢台地上に立地する大新町遺跡・大館町遺跡・安倍館遺跡からは、縄文時代草創期の「爪形文土器」が出土している。滝沢台地上には後続する縄文時代早期の遺跡が数多く存在し、前述の3遺跡以外にも大館堤遺跡・館坂遺跡・前九年遺跡・宿田遺跡などで縄文時代早期初頭～末葉の土器が出土している。

縄文時代前期は日本列島全体で温暖化が進み、遺跡数が増加し大規模な集落が出現する時期である。しかし、盛岡周辺に限っては北上山地内に散見するのみで遺跡の数は少なく、上八木田I遺跡・畑遺跡などで確認されている程度である。これは、約6,000年前に起こった岩手山の山体崩壊による自然災害の影響が関連していると考えられている。

縄文時代中期になると遺跡数は爆発的に増加し、雫石川南岸の沖積平野を除く、広い地域に分布する。繫V遺跡・大館町遺跡・柿ノ木平遺跡・川日C遺跡・湯沢遺跡など、主要河川の流域や山麓の扇状地状の地形などに大規模な拠点集落が営まれるようになる。

縄文時代後期から晩期には、集落の規模は小さくなり、遺跡数も減少する。柿ノ木平遺跡や大葛遺跡では後期初頭の集落、萩内遺跡や湯壺遺跡では後期から晩期の集落が確認されている。また、宇登遺跡・上平遺跡では晩期の遺物包含層、手代森遺跡では晩期の集落と遺物包含層が確認されている。

弥生～古墳 弥生時代の遺跡数は少ないが、繫VI遺跡では前期の堅穴建物跡と中期の再葬墓が確認されており、浅岸地区の向田遺跡、堰根遺跡では、前期（砂沢式期）や終末期（赤穴式期）の土器を伴う堅穴建物跡が確認されている。

古墳時代の集落遺跡は現在のところ確認されていないが、永福寺山遺跡や薬師社脇遺跡で4～5世紀の北海道系の形態をもつ土坑墓群が確認されている。永福寺山遺跡では後北C2-D式土器と4世紀の土師器が伴見し、薬師社脇遺跡では、5世紀の土師器壺、甕、鉢、鉄鍬等の鉄器、管玉等の玉類が埋納されていた。

古 代 古墳時代終末から奈良時代にかけて、雫石川南岸等沖積面の遺跡が飛躍的に増加する。7世紀前半の遺構・遺物は少ないが、竹鼻遺跡で確認されている。7世紀中ごろには上田蝦夷森古墳群、8世紀代には太田蝦夷森古墳群、高館古墳群などの終末期古墳が築造され、野古A遺跡、台太郎遺跡、百目木遺跡などで安定した集落が形成される。

平安時代になると、803年に陸奥国最北端の城柵志波城が造営された。志波城は陸奥北部地域の経営拠点であると同時に、北方地域との結節点でもあったが、雫石川の洪水を理由に、811年～812年頃には徳丹城（矢巾町）へ規模を縮小して移転している。その後9世紀中ごろより、陸奥北部の経営体制は鎮守府胆沢城に集約されていく。志波城東側の林崎遺跡、大宮北遺跡、小幡遺跡では、集落の中に官衙的な建物群が存在している。同様の建物跡は堰根遺跡でも確認されており、在地の有力者が律令体制を背景に台頭する様子が見える。この時期の集落は沖積面だけでなく、上猪去遺跡・猪去館遺跡・新道Ⅱ遺跡など、山麓台地や丘陵の斜面にも拡がりをみせる。

10世紀後半から12世紀までの遺跡は少ないが、大新町遺跡や小屋塚遺跡では、11世紀前半頃の掘立柱建物や堅穴跡と土器が出土しており、境橋遺跡や宿田遺跡、上堂頭遺跡でも11世紀前半の遺構遺物が確認されている。また、赤袋遺跡では土器生産工房跡が確認され、数千点に及ぶ11世紀中葉の土器が出土している。これらは儀礼行為に供されたものとみられ、安倍氏の拠点である厨川橋・瀬戸橋が近くに存在することを裏付けられるような調査成果が上がっている。

12世紀の村落や屋敷、居館の遺構は、落合遺跡・堰根遺跡・稲荷町遺跡などで確認されている。また、奥州藤原氏の影響下にあったとされる宗教遺跡も多数存在する。12世紀以降、街道筋や山頂などに経塚が築かれるようになり、内村遺跡では経塚に埋納したとみられる常滑窯産の大甕が出土しているほか、湯壺経塚からは常滑の三筋文壺、一本松経塚からは渥美窯産の壺が発見されている。大宮遺跡では、大溝から12～13世紀のかわかけが出土している。

中 世 鎌倉時代から室町時代については、台太郎遺跡で居館と村落跡、墓域等が確認されている。戦国期の盛岡周辺は、南部氏、斯波氏などの衝突が激しかった地域であるが、市内に数多く分布する城館跡の多くは、室町時代から戦国時代のもと考えられている。これらの城館跡は丘陵や山頂など見晴らしの良い場所だけでなく、平野部の微高地などにも多数築かれている。現在の盛岡城の場所には南部氏の家臣であった福士氏が築いた北館（慶善館）、南館（淡路館）からなる不來方城が存在した。

近 世 現在の城下の町並みの形成は、その南部氏の盛岡城築城から始まる。九戸合戦終結後の天正19年（1591）、南部信直は帰還する豊臣軍の軍監浅野長吉（長政）から不來方城において、この不來方の地に新城を築くよう、積極的に奨められている（『祐清私記』）。その後、慶長2年（1597）から盛岡城の築城は始まり、寛永10年（1633）に一応の完成をみる。その後、石垣補修の発掘調査により、1～5期の変遷を経て現在に至っていることが判明している。

Ⅱ 大新町遺跡（第84次調査）

1 遺跡の環境

(1) 遺跡の概要

遺跡の位置 大新町遺跡は、JR盛岡駅より北西約2.3kmの大新町地内に所在する（第2図）。かつては畑などが主体を占めていたが、昭和50年代以降、急速に宅地化が進められた。遺跡の範囲は東西約190m、南北約380mと推定され、標高は133～137mである。現況は宅地、農地である（第3図）。

地形・地質 盛岡市周辺を含め、北上川流域には西岩手火山、東岩手火山、秋田駒ヶ岳火山起源の更新世～完新世火山灰が分布しており、大新町遺跡が立地する滝沢台地は、沖積段丘に相当する岩手山起源の大石渡岩屑なだれ堆積物（滝沢泥流）を基盤とし、その上部に後期更新世～完新世の火山灰が覆う火山灰砂台地である。滝沢台地南東部は、西を流れる北上川に沿って南へ舌状に張り出しており、諸葛川・木賊川・菓子川などで間析され、幾筋もの埋没谷が入り込んでいる。大新町遺跡はその滝沢台地南縁の緩斜面上に立地している（第1図）。周辺には縄文時代中期の拠点集落である大館町遺跡（県指定史跡）をはじめ、大館堤遺跡・小屋塚遺跡など縄文時代早期～中期を中心とした遺跡が分布し、各遺跡は埋没谷などによって画されている。

滝沢台地上部は厚い火山灰で覆われており、下層より外山火山灰・渋民火山灰・分火山灰が堆積する。大新町及び大館町遺跡で遺構・遺物が確認されるのは、最上部の分火山灰層中からであり、主に岩手山・秋田駒ヶ岳に噴出起源を持つ火山灰で構成される。分火山灰層は、下層の十和田起源による八戸火山灰（層厚1～2cm）から表土直下までの堆積土を総称している。大新町及び大館町遺跡では、Ⅰ層（表土・表土下に堆積する黒色土）・Ⅱ層（黒色・黒褐色土主体-生出土コリア含）・Ⅲ層（暗褐色土主体）・Ⅳ層（黒褐色主体-赤褐色スコリア含）・Ⅴ層（暗褐色土主体）・Ⅵ層（褐色土主体-上位より柳沢軽石・小岩井軽石・八戸火山灰）の6層に大別され、遺構・遺物が確認されているのは、Ⅵ層上部（縄文時代草創期）より上位の層からである。



第2図 大新町遺跡の位置（1:50,000）

(2) 歴史的環境

周辺の遺跡 本遺跡の立地する滝沢台地上、台地縁辺下の沖積段丘面には、旧石器時代から近世の遺跡が分布する。

旧石器時代 館坂遺跡で、浜民火山灰層中から石器が採取されている。大新町遺跡・大館町遺跡・安倍館遺跡

縄文時代 跡からは縄文時代草創期の爪形文土器が出土し、後続する早期の遺跡が滝沢台地上では数多くあり、前述の3遺跡以外にも大館堤遺跡、館坂遺跡、前九年遺跡、宿田遺跡で早期初頭～末葉の土器が出土している。特に大新町遺跡は草創期から早期に至る濃密な遺物包含層が確認されており、早期の押型文土器や沈線文土器を伴う堅穴建物跡が複数確認されている。前期の遺跡は市内でも数が少なく、滝沢台地上の各遺跡からは遺物が散見する程度であり、主体的なものではない。大新町遺跡西隣の大館町遺跡は、北上川上～中流域における中期の拠点の集落跡として、平成12年度に岩手県指定史跡に指定されている。大館堤遺跡、大新町遺跡、小屋塚遺跡などはその派生的集落と考えられる。後期・晩期になると、明確な集落跡は確認されないが、大新町遺跡東部で後期の遺物包含層が形成され、近傍に集落の存在が推定される。

弥生時代 大館町遺跡の南辺で弥生時代前期初頭の石囲炉を伴う堅穴建物跡1棟が確認されている。

古墳時代 滝沢台地南端の宿田遺跡と宿田南遺跡では、北海道系の後北C2-D式土器が出土し、安倍館遺跡

～古代 遺跡外館では後北C2-D式土器と土師器小型甕が伴って土坑から出土しているほか、近くから石製模造品（双孔円板）が採集されている。古墳時代の集落遺跡は現在のところ確認されていないが、宿田遺跡では北海道系の北大I式土器、5世紀代の土師器、黒曜石製の搔器、東海系土師器の宇田型甕が出土したほか、7世紀の円形周溝墓1基と8世紀の群集墳が確認されている。奈良時代になると、大館町遺跡、大新町遺跡、小屋塚遺跡で集落が営まれ、平安時代も継続する。

平安時代半ばの10世紀末から11世紀前半にかけて、陸奥鎮守府の在庁官人として台頭した安倍氏は、各要衝に拠点となる櫓を設置した。前九年合戦を記した陸奥話記には、野川櫓、堀戸櫓が登場し、古くから盛岡市野川に存在したと考えられてきたが、その遺跡は考古学的に明らかにされていない。この時代の遺構・遺物は、大新町遺跡、大館町遺跡、小屋塚遺跡で堅穴建物跡、掘立柱建物跡、大溝跡などが確認され、土師器の小皿や坏、内面あるいは内外両面にヘラミガキと黒色処理を施した高台付坏が多く出土する。その他、滝沢台地縁辺部に概ね分布する宿田遺跡、境橋遺跡、赤袋遺跡、稲荷町遺跡、上堂頭遺跡などで同様の土器が出土し、これらは安倍氏の拠点または関連施設と推定される。

中世 安倍・清原氏の滅亡後、藤原清衡は平泉に拠点を移し、奥羽两国を統治した。稲荷町遺跡や里館遺跡では、12世紀の堀を備えた居館や外郭施設が確認され、平泉藤原氏関連の館と考えられる。

鎌倉時代中期には、礫石経塚の宿田南経塚が築造される。栗谷川工藤氏の城館である里館遺跡、安倍館遺跡は、13世紀に里館遺跡が先に存在し、戦国期に至って栗谷川城（安倍館遺跡）が築かれ、16世紀に規模を拡大している。

近世 江戸時代には、盛岡城下から秋田領へ向かう秋田街道が雫石川北岸を通じ、安倍館遺跡の西側を鹿角街道が通じていた。里館遺跡や稲荷町遺跡では曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓などの近世の遺構が発見され、本地域は農家が点在する農村地帯となる。

2 調査内容

(1) これまでの調査

大新町遺跡は昭和40年代に武田良夫氏によって発見され、東北地方でも数少ない縄文時代早期前葉の遺跡として紹介された。昭和42年秋、武田氏は小屋塚遺跡（現 大新町遺跡）でV字状文内に横位の平行線を充填する日計式と異なる押型文土器を採取し、昭和44年の考古学ジャーナル第36号で「菱形文の衰退と沈線による平行横線から押型文による平行線状文への発展」という押型文土器の変遷を示し、日計式に後続する土器型式として「小屋塚式」を提唱した（後に「大新式」と変更）。同年秋、武田氏、吉田義昭氏、岩手大学草間俊一教授によって発掘調査が実施され、押型文土器の明確な資料とともに貝殻土器の下層から出土する層位的事実を確認した。さらに武田氏は、昭和57年の赤い本創刊号で大新式が押型文土器から沈線貝殻土器に変遷する過渡期の土器とした。

当市教育委員会による発掘調査は、昭和57年度に第1次調査が実施され、個人住宅建築や下水道管敷設に伴う発掘調査が主体を占め、以後平成30年度で40次にわたって調査され（第3表：調査次数は大館町遺跡と共有している）、上記の武田氏の見解を裏付ける早期資料が多数出土している。第19・21次調査では爪形文土器を中心とする縄文時代草創期の遺物が出土している。当該期の遺構は現在のところ未発見である。早期の竪穴建物跡は、遺跡中央部の頂部から南縁部の斜面部にかけて7棟が検出され（第35・47・62・70次調査）、うち5棟が押型文土器・沈線文土器に伴うものである。早期を主体とする遺物包含層は遺跡中央部から南縁部にかけて形成されており、押型文・沈線文系及び貝殻文・条痕文系土器群を包含している。中期の遺構は、貯蔵穴と考えられる土坑群が台地縁辺に沿う形で分布する以外は散在する状況である。本遺跡の東には、埋没谷を挟んで小屋塚遺跡が隣接し、この埋没谷は後期の遺物包含層となっている（第24・33次調査）。第4・44・50次調査では奈良時代の竪穴建物跡が検出されている。遺跡南の第4・7・19・21・35・44・72・73次調査では竪穴建物跡、掘立柱建物跡、構・柱列跡、大溝跡などが確認され、11世紀前葉～中葉に位置づけられる土器群が出土し、同様の遺構・遺物が確認されている大館町遺跡、小屋塚遺跡とともに安倍氏の拠点または関連施設と推定される。

(2) 平成30年度の調査

大新町遺跡における平成30年度の発掘調査は、国庫補助事業として実施した第84次調査で、個人住宅新築工事に伴う調査である。平成29年12月6日に確認調査を実施し（第83次調査）、縄文時代の土坑及び遺物包含層が確認されたため、平成30年度に本調査を実施した。

位 置 第84次調査区は、大新町遺跡の南西縁辺部に位置し、第62・70次調査区の南西、第56次調査区南の西に隣接する。また調査区の西は小規模な段丘を隔てて、大館町遺跡と接しており、約50m離れた北・北西方向に大館町遺跡第10・13・41次調査区が所在する（第3図）。調査区は耕作等による削平・擾乱を受けており、調査区内は北東から南西方向に緩やかに傾斜する地形で、検出面の標高値は134.800m前後である。

路線名	次番	所在地	種別	距離(キロ)	所要時間	種別	種別
大新町	1	大新町 147.6	個人自走徒歩	330	1909.13.12.16	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	2	大新町 147.11	個人自走徒歩	325	1908.20.12.16	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	3	大新町 205.5	個人自走徒歩	245	1905.13.07.27	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	4	大新町 205.0	個人自走徒歩	305	1904.12.17.28	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	5	大新町 15.9	個人自走徒歩	231	1902.15.18.43	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	6	大新町 3.5	個人自走徒歩	230	1902.18.16.25	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	7	大新町 205.6	個人自走徒歩	196	1902.18.17.27	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	8	大新町 18.1	個人自走徒歩	249	1902.12.12.27	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	9	大新町 16.1	個人自走徒歩	400	1902.11.14.30	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	10	大新町 121.124	個人自走徒歩	394	1902.6.16.18	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	11	大新町 147.0	個人自走徒歩	72	1902.16.17.30	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	12	大新町 18.1	個人自走徒歩	25	1902.5.11.31	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	13	大新町 11.8.12.1	個人自走徒歩	400	1904.10.31.30	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	14	大新町 17.22	個人自走徒歩	36	1905.7.0.12	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	15	大新町 16.1	個人自走徒歩	736	1904.7.16.10.22	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	16	大新町 2.5	個人自走徒歩	77	1904.11.27.12.29	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	17	大新町 205.15	個人自走徒歩	302	1904.4.4.8.20	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	18	大新町 10.11	個人自走徒歩	15	1905.1.1.18	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	19	大新町 3.14	個人自走徒歩	332	1905.6.37.30	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	20	大新町 205.39	個人自走徒歩	174	1906.8.29.10.2	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	21	大新町 1.9.5.19	個人自走徒歩	413	1906.9.10.11.29	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	22	大新町 143.12.13.13.16	自転車	17	1907.4.13.14.18	自転車	自転車
大新町	23	大新町 7	自転車	239	1907.5.19.6.6	自転車	自転車
大新町	24	大新町 210.11	個人自走徒歩	90	1907.6.14.13	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	25	大新町 16.1	個人自走徒歩	135	1907.6.15.16.17	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	26	大新町 20.15	個人自走徒歩	180	1907.30.15.16.18	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	27	大新町 16.16.16.52	個人自走徒歩	303	1908.4.15.5.20	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	28	大新町 17.33	個人自走徒歩	164	1908.5.24.16.16	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	29	大新町 6	自転車	305	1908.7.4.20.27.29.9.16	自転車	自転車
大新町	30	大新町 13.9	自転車	64	1907.2.0.17.28	自転車	自転車
大新町	31	大新町 6	自転車	66	1908.10.3.10.20	自転車	自転車
大新町	32	大新町 205.17	個人自走徒歩	133	1909.4.10.4.14	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	33	大新町 205.7	個人自走徒歩	189	1909.4.18.17	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	34	大新町 17.22	個人自走徒歩	123	1905.10.6.17	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	35	大新町 10.11	個人自走徒歩	48	1905.5.23.30	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	36	大新町 16.6	個人自走徒歩	57	1909.4.13.14.16	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	37	大新町 14.9	個人自走徒歩	302	1905.6.7.23	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	38	大新町 4.13	個人自走徒歩	113	1909.9.18.19.29	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	39	大新町 14.1	個人自走徒歩	13	1909.3.18.29.39	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	40	大新町 147.10.16.18.19	個人自走徒歩	497	1901.47.11.15	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	41	大新町 12.1	個人自走徒歩	419	1901.6.27.11	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	42	南新町 106.14	自転車	1774	1901.6.24.6.28	自転車	自転車
大新町	43	南新町 106.14	自転車	28	1901.6.24.6.28	自転車	自転車
大新町	44	大新町 205.38	個人自走徒歩	136	1902.4.13.5.11	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	45	大新町 15.1	個人自走徒歩	390	1902.5.18.26	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	46	大新町 13.9	個人自走徒歩	144	1902.8.17.9.18	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	47	大新町 17.25	個人自走徒歩	196	1902.8.27.10.14	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	48	大新町 14.1	個人自走徒歩	435	1902.11.12.19	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	49	大新町 21.41	個人自走徒歩	357	1902.1.26	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	50	大新町 205.39	自転車	37	1909.6.7.13	自転車	自転車
大新町	51	大新町 147.3	個人自走徒歩	23	1902.6.10.17	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	52	大新町 11.4	個人自走徒歩	274	1902.11.22.12.22	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	41.18	大新町 12.1	自転車	17	1904.4.18.4.20	自転車	自転車
大新町	53	大新町 11.4	自転車	790	1904.11.12.19	自転車	自転車
大新町	54	大新町 143.3	個人自走徒歩	154	1904.10.11.12.14	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	55	大新町 141.2.147.2.7.148.8	個人自走徒歩	11	1907.7.27	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	56	大新町 13.13.15.17.142.16	自転車	165	1905.10.16.11.18	自転車	自転車
大新町	57	大新町 16.1.5.4	個人自走徒歩	70	1905.3.30	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	58	大新町 141.2.147.2.7.148.8	個人自走徒歩	21	1906.8.21.8.29	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	59	大新町 141.2.147.2.7.148.8	個人自走徒歩	37	1906.9.29.12	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	60	大新町 4.22	個人自走徒歩	146	1906.10.26.12.16	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	61	大新町 13.6	個人自走徒歩	263	1907.5.4.9	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	62	大新町 16.16	個人自走徒歩	230	1907.4.4.20	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	63	大新町 17.9	個人自走徒歩	36	1907.2.29	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	64	大新町 13.1	個人自走徒歩	33	1906.5.25	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	65	大新町 205.19	個人自走徒歩	27	1906.6.4	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	66	大新町 15.15	自転車	130	1906.2.8.3.26.12.15	自転車	自転車
大新町	67	大新町 16.11	個人自走徒歩	30	1909.7.17.15	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	68	大新町 16.7	個人自走徒歩	24	1906.6.17	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	69	大新町 210.12.12	自転車	43	1905.10.15.19	自転車	自転車
大新町	70	大新町 13.12	個人自走徒歩	213	2005.19.4.20	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	71	大新町 207.2.208.1	自転車	280	2007.10.8.10	自転車	自転車
大新町	72	大新町 13.12	自転車	73	2000.12.4.12.19	自転車	自転車
大新町	73	大新町 13.52	自転車	3	2001.4.16.4.29	自転車	自転車
大新町	74	大新町 10.2	個人自走徒歩	14	2003.6.15.17	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	75	大新町 207.2.208.3 の一部	自転車	478	2002.5.8.12.20	自転車	自転車
大新町	76	大新町 17.1.17.19	自転車	122	2002.8.26.9.5	自転車	自転車
大新町	77	大新町 209.1219 の一部	自転車	370	2004.11.6.12.14	自転車	自転車
大新町	78	大新町 209.1219 の一部	自転車	218	2007.12.12.14	自転車	自転車
大新町	79	大新町 17.15	個人自走徒歩	29	2008.4.22	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	80	大新町 17.15	個人自走徒歩	32	2008.6.2.6.4	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	81	大新町 14.1	自転車	330	2008.6.10.11.28	自転車	自転車
大新町	82	大新町 10.10.10.12 の一部	個人自走徒歩	14	2008.8.15.16.21	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	83	大新町 13.14	個人自走徒歩	27	2017.1.26	個人自走徒歩	個人自走徒歩
大新町	84	大新町 13.18	個人自走徒歩	74	2018.4.10.15.28	個人自走徒歩	個人自走徒歩

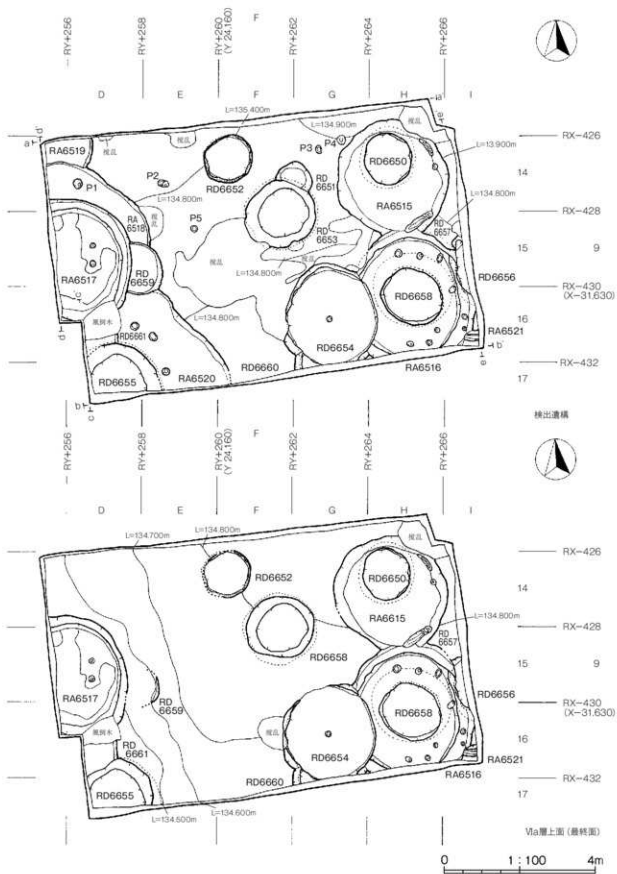
第3表 大館町遺跡・大新町遺跡調査一覧



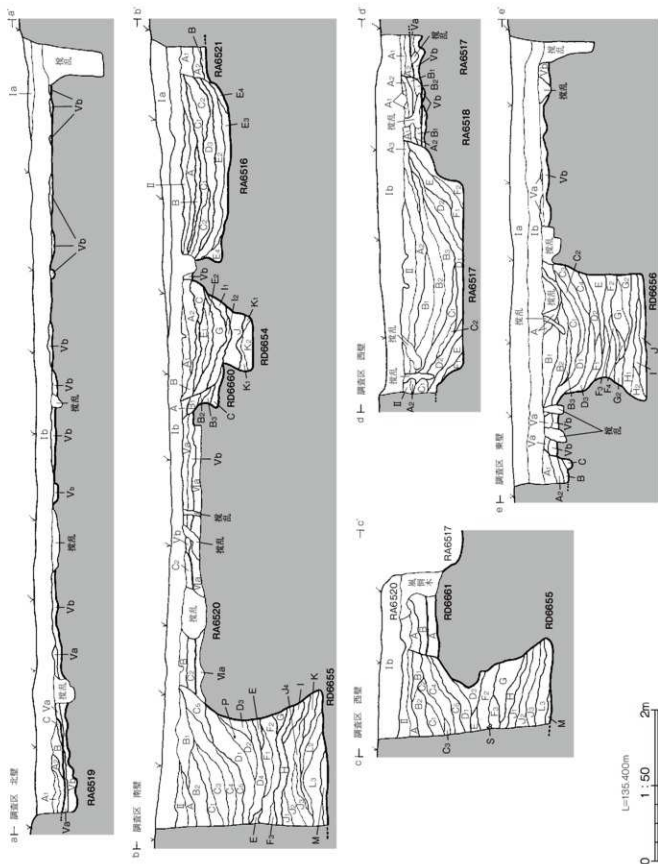
第3図 大館町遺跡・大新町遺跡全体図

0 1:1,000 50m

H・12



第4図 大新町遺跡第84次調査 全体図



第5図 調査区土層断面図

基本層序 調査区内で確認された基本層序は以下のⅠ・Ⅱ・Ⅴ～Ⅶ層に大別され、Ⅰ・Ⅴ・Ⅶ層は2層に細分される。Ⅰa層は砕石等による盛土で調査区東のみ確認される。Ⅰb層は畑の耕作土である。Ⅱ層は縄文時代早期・中期の遺物を微量含む黒色～黒褐色土層で、耕作等の攪乱・削平を受け、調査区南西隅及び中期遺構の最終堆積で確認されるのみである。Ⅴ層は早期を主体とする遺物を含む黒褐色～暗褐色土層で、前述のとおり耕作で削平され、Ⅴa層は調査区南西のみ残存し、Ⅴb層は調査区全面で確認されるが、東部では希薄な分布となる。Ⅵa層は褐色土層、Ⅵb層は赤褐色～青灰色粗粒軽石層（小岩井軽石層）である。その下層のⅦ層は褐色～明黄褐色粘土層（洪民火山灰層）となる。

検出状況 過去の農地耕作で削平されており、盛土及び耕作土のⅠa・b層を除去したⅤa・b層上面で検出作業が行われた。遺構の残存状況から見ると、本来の遺構掘込面（当時の生活面）は既に削平されている。検出された遺構は、縄文時代中期の竪穴建物跡7棟（RA 6515～6521）、貯蔵穴等の土坑12基（RD 6650～6661）、ピット5口、さらに調査区全域から縄文時代早期を主体とした遺物包含層が確認された（第4・5図）。

出土遺物 出土遺物の時代・時期は、縄文時代早期前葉～後葉、中期前葉～中葉の縄文土器、石器が主体である。その他、炭化材やコハクが遺構埋土から出土している。遺物総数は収納コンテナ（54cm×34cm×15cm）10箱分、重量は縄文土器・土製品22.2kg、石器・石製品23.1kgである。

以下、各遺構等について記述を行うが、出土遺物の詳細については観察表（第4～9表）を参照されたい。

（3） 縄文時代の遺構・遺物

遺構検出状況（第4図）

今回の調査では縄文時代中期前葉～中葉の竪穴建物跡群と土坑群が確認され、当遺跡の主体をなす早期の遺構は確認されなかった。調査区中央北で検出したRD 6652土坑以外は、いずれも重複し、調査区の東西両端では遺構密度が高くなる。遺構プランが調査区外に広がる、または一部のみ検出の遺構も多く、今後の隣接する調査によって、遺構の分類に変更が生じる可能性がある。各遺構は早期主体の遺物包含層であるⅤ層を掘り込んで構築しているため、埋土に早期～前期初頭の遺物が混入する。これらの遺物は遺構外出土遺物として扱った。

RA 6515 竪穴建物跡（第6図）

位置 調査区北東（F9-H14区） **平面形** 不整楕円形
規模 北西-南東3.23m、南西-北東3.00m
重複関係 RD 6650（古）、RA 6516・RD 6657（新） **掘込面** 削平 **検出面** Ⅴb層上面
埋土 自然堆積でA～H層に大別され、B・C・E・F層はさらに2層に細分され、H層以外はスコリア粒を微量～少量含む。またC・G・H層は非常に堅く締まる。

A層-暗褐色土を主体とし、小塊状のにぶい黄褐色土とカーボン粒を少量含む。

B層-黒褐色土を主体とし、B₁層は粒～小塊状の褐色土とカーボン小塊を少量含む、B₂層は微量のカーボン粒と塊状のにぶい黄褐色土を多量含む。

C層-暗褐色土を主体とし、C₁層は少量の炭化材と粒~塊状の灰黄褐色土を含み、C₂層は小塊状の褐色土を微量含む。

D層-粘質のあるにぶい黄褐色土を主体とし、粒~小塊状の灰黄褐色土を含む。

E層-灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の混合土で、E₁層は小塊状の黒褐色土を微量含む、E₂層は粒状の褐色土を少量含む。

F層-黒褐色土を主体とし、にぶい黄褐色~黄褐色土を含む。F₁層は混入土を多く含む。

G層-にぶい黄褐色土を主体とし、粒~小塊状の灰黄褐色土を少量含む。

H層-粒状の黒褐色土を少量含む黒色土。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.36~0.56mで、外傾して立ち上がる。北東壁際には幅0.07~0.11m、深さ0.16mの周溝1、南東壁際には径0.15~0.20mの小ピットを伴う幅0.16~0.22m、深さ0.16mの周溝2がめぐる。埋土とともに建物内堆積土(G層)であるが、周溝2は微量の暗褐色土(粒状)を含む黄褐色土のJ層も堆積する。

床の状態 VI層を掘り込んで床面としている。ほぼ平坦であるが、北側に建物構築以前のRD6650土坑があり、床面の一部が沈下する。その範囲は貼床が施され硬化面が広がる。床構築土(I層)は2層に細分され、I₁層は明黄褐色土に粒状の黒褐色土を多く含む、I₂層はやや粘質のあるにぶい黄褐色土に粒~小塊状の灰黄褐色土を含む。層厚は0.02~0.04mである。炉は確認できない。

柱 穴 東壁直下にピット1口を検出している。径0.14~0.16m、深さ0.17mで柱痕跡は確認されない。埋土(K層)は2層に細分され、灰黄褐色土を主体に粒状の褐色土を少量含む。K₁層は壁中から崩れた小岩井軽石が多く含まれる。

出土遺物 (第8図1~10 第4・9表) 1~4は中期前葉の太木7b式、5は中期前葉の円筒上層C式に属する土器である。6・7は縄文施文の地文のみの土器で中期に属する。8~10は頁岩製の削器である。その他、A層から直径1.0~1.5cmのコハク原石及び小破片(計2.20g)が出土している。また、床面から被熱した自然石1点が出土している。

時 期 中期前葉(太木7b式期以前)

RA6516 竪穴建物跡(第7図)

新旧2時期があり、当初の平面形を東側に拡張しており、当初平面形をI期、拡張後平面形をII期とした。II期拡張部分はI期床面より0.10~0.15m高く、テラス状になっている。

位 置 調査区南東(F9-H15・16区) **平面形** 不整形円形

規 模 I・II期:北東-南西3.55m、I期:北西-南東2.97m、II期:北西-南東3.41m

重複関係 RA6515・6521、RD6654・6657・6658(古)、RD6656(新)

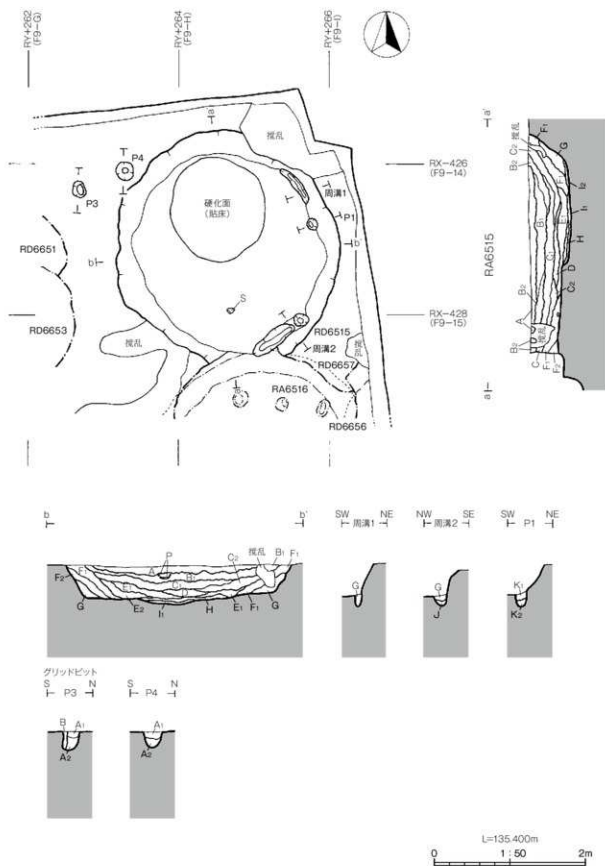
掘込面 削平 **検出面** Vb層上面

埋 土 自然堆積でA~G層に大別され、C・F層は2層、D層は3層、E層は4層に細分される。いずれの層もスコリア粒を微量含むが、E₂層のみ多く含む。

A層-黒褐色土を主体とし、粒~小塊状の暗褐色土と微量のカーボン粒を含む。

B層-暗褐色土を主体とし、赤味のある褐色土を塊状に多く含む。

C層-黄褐色土を主体とし、粒~塊状の黒褐色土を含む。いずれも微量のカーボン粒と焼土粒を含むが、C₁層は混入土を多量含む。



第6図 RA6515 竪穴建物跡、ピット

D層-黒褐色土を主体とし、粒～塊状のふい黄褐色土を含む。下層はど混入土の割合が少なくなる。D₁層は微量のカーボン小塊、D₂層は微量のカーボン粒と焼土粒を含む。

E層-にふい黄褐色土を主体とし、微量のカーボン粒と小塊状の灰黄褐色土及び粒状の黒褐色土を含む。混入土の割合は下層ほど多くなる。E₁層は焼土粒～小塊を微量含む。

F層-黒褐色土を主体とし、F₁層はにふい黄褐色土と褐色土の混合土、小塊状の粘土を含み、F₂層は小塊状の黄褐色土を多量含む、カーボン・焼土小塊を少量含む。

G層-暗褐色土と黒褐色土の混合土で、粉～粒状のにふい黄褐色土を少量含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さはⅠ期0.52～0.82m、Ⅱ期0.46～0.51mで、外傾して立ち上がる。

床の状態 Ⅰ期床面はⅦ層を掘り込み、Ⅱ期拡張部分はⅦ層上面を床面としている。中央に向かって緩やかに傾斜し、中央北には建物構築以前のRD 6658土坑があり、床面の一部が沈下する。その範囲を中心として、貼床が施され硬化面が広がる。床構築土(H層)は粘質のある黄褐色土に少量の灰黄褐色土(粒～小塊状)を含む。層厚は0.02～0.07mである。埴は確認できない。

柱 穴 Ⅰ期に属するピットはP1～7である。床面上のP1・2・5～7は、直径が小規模ながら深さ0.35～0.58mと深く、主柱穴の可能性がある。一方、壁直下のP3・4は小規模で浅い。Ⅱ期に属するピットは拡張部のテラス状高まりでP8・9を検出し、いずれも小規模で浅いものである。埋土はⅠ・Ⅱ層に大別され、Ⅰ層はP1～9に堆積し、微量のスコリア粒を含む黒褐色土である。Ⅱ層はP1・2・7下部に堆積する黒色土である。各ピットの規模・深さは、P1-径0.18～0.22m、深さ0.46m、P2-径0.15～0.19m、深さ0.35m、P3-径0.14～0.25m、深さ0.05m、P4-径0.15～0.24m、深さ0.16m、P5-径0.13～0.15m、深さ0.54m、P6-径0.15m、深さ0.46m、P7-径0.15～0.20m、深さ0.58m、P8-径0.16m、深さ0.16m、P9-径0.10～0.12m、深さ0.05mである。

出土遺物 (第8～10図11～35 第4・8・9表) 11～16は中期前葉の大木7b式、17は中期中葉の大木8a-1式、18・19は大木8b-3式、20・21は大木8b式に属する土器である。22～24は縄文施文の地文のみの土器で中期に属する。25～29は剥片石器で、25は基部にアスファルトが付着する石鎌、26・27は石錐、28は削器、29は搔器である。30・31は礫石器の敲打磨石である。32・33は石製品で、32は未成品の可能性のある石棒、33は軟らかいシルト岩の片面に線刻を施す。34・35は土製品で、34は湾曲した薄い板状で片面に原体圧痕があるもの、35は土器片を加工した土製円盤で大木8b式に属する。

時 期 中期中葉(大木8b-3式期)

RA6517竪穴建物跡(第11図)

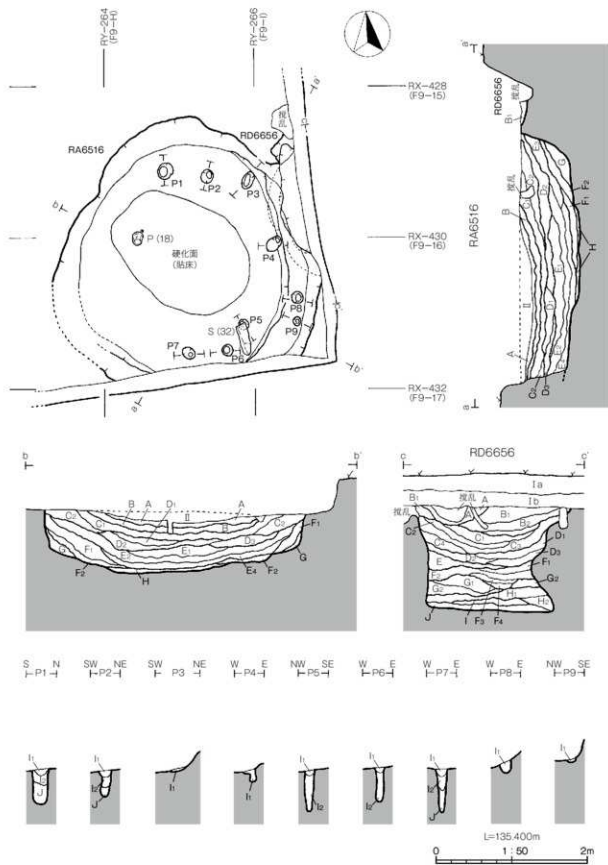
位 置 調査区西(F9-D15・16区) **平 面 形** 不整楕円形(調査区外)

規 模 北-南3.31m以上、西-東2.05m以上 **重複関係** RA 6518-6520、RD 6659-6661(古)

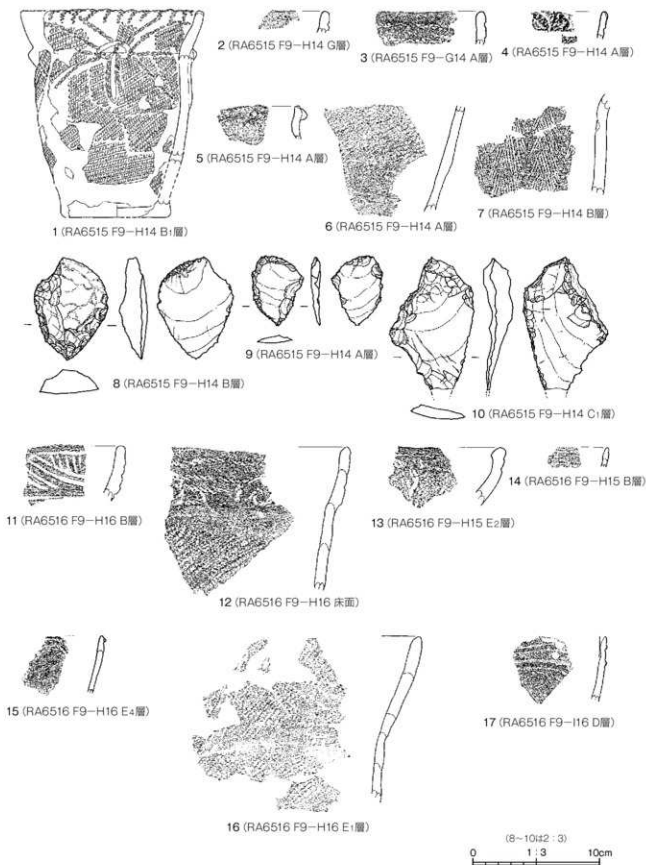
掘 込 面 削平 **検 出 面** Va層上面

埋 土 自然堆積であるが、A₂層・B₁層の層理面より土器片が集中して出土したことから、埋設過程において、遺物の廃棄行為が度々あったことが考えられる。A～F層に大別され、A・B層は3層、C・D・F層は2層に細分される。A₃層以外はスコリア粒を微量～少量含む。

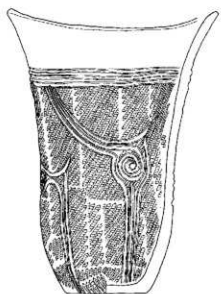
A層-黒褐色土を主体とし、赤味のある暗褐色土を含む。混入土について、A₁層は少量の粒～



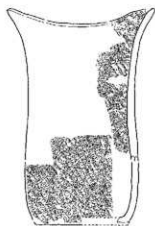
第7図 RA6516 竪穴建物跡, RD6656 土坑



第8圖 RA6515・6516竪穴建物跡出土遺物(1)



18 (RA6516 F9-H16 F2層)



19 (RA6516 F9-H16 D1層)



20 (RA6516 F9-H16 E層)



21 (RA6516 F9-H16 C1層)



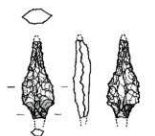
22 (RA6516 F9-H15 D層)



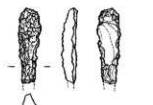
23 (RA6516 F9-H16 D1層)



24 (RA6516 F9-H15 C1層)



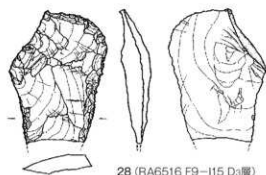
25 (RA6516 F9-H16 B層)



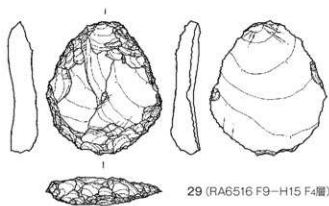
26 (RA6516 F9-H16 B層)



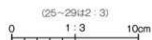
27 (RA6516 F9-H16 A層)



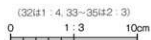
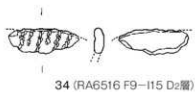
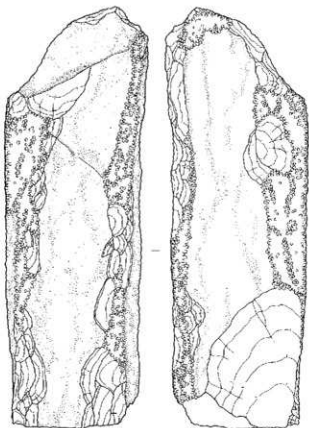
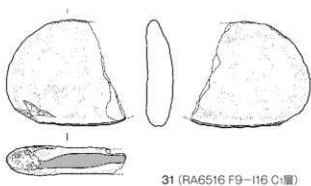
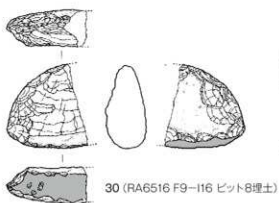
28 (RA6516 F9-H15 D3層)



29 (RA6516 F9-H15 F4層)



第9圖 RA6516 竪穴建物跡出土遺物 (2)



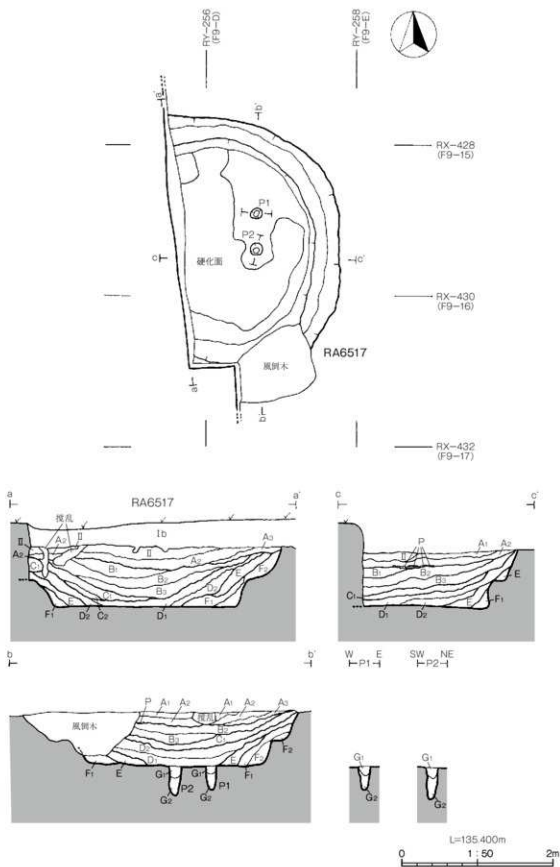
第10図 RA6516 竪穴建物跡出土遺物(3)

- 小塊状、A₂層は多量の塊状、A₃層は粒状である。A₂層は微量のカーボン粒を含む。
- B層-にぶい黄褐色を主体とし、塊状の灰黄褐色土を含む層で、下層ほど灰黄褐色土の割合が高くなる。いずれもカーボン粒～小塊を少量含み、B₃層は焼土小塊を微量含む。
- C層-黒褐色土を主体とし、C₁層は小塊状のにぶい黄褐色土を少量含み、C₂層は微量のカーボン粒と粒～塊状のにぶい黄褐色土～黄褐色土を多量含む。
- D層-小塊状の黒褐色土を含む、にぶい黄褐色土と灰黄褐色土の混合土。D₁層の方が黒褐色土の割合が少なく、微量のカーボンを含む。
- E層-粉～粒状のにぶい黄褐色土を多く含む黒褐色土で、微量のカーボン粒を含む。
- F層-灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の混合土で、黒褐色土を含む。混入土について、F₁層は微量の粉～粒状、F₂層は多量の小塊状である。

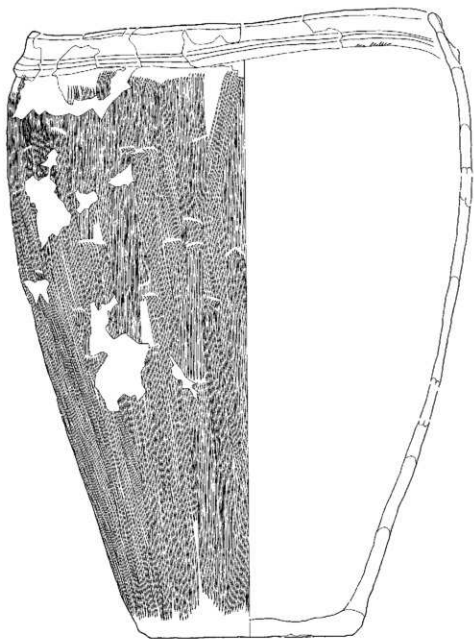
- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは0.70～0.76 mで、壁面中段に幅0.14～0.24 mの平坦なテラス（外壁部）をもつ。外壁部は大きく外傾し、下半の内壁部はほぼ垂直か外傾して立ち上がる。
- 床の状態** Ⅴ層を掘り込んで床面としている。ほぼ平坦で、ピット付近を除いて硬化面が広がる。炬は確認できない。
- 柱 穴** 床面の東でピット2口を検出している。ピットの規模・深さは、P 1-径0.14～0.17 m、深さ0.32 m、P 2-径0.17 m、深さ0.42 mで、小規模ながら主柱穴の可能性がある。ともに柱痕跡は確認されない。埋土（G層）は黒褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色土を含む。混入土の含有率で2層に細分され、G₂層の方は含有率が高い。
- 出土遺物** (第12～14図36～51 第4・9表) 37～39は中期前葉の太木7 b式に属し、37・38は同一個体である。40～43は同一個体で中期前葉の円筒上層C式に属する土器である。36・44～48は中期中葉の太木8 b式に属する土器で、45～48は同一個体である。49は背面端部にアスファルトが付着する剥片である。50・51は礫石器で、50は凹石、51は石皿の一部である。
- 時 期** 中期中葉（太木8 b式期以前）

RA6518 壁穴建物跡（第15図）

- 位 置** 調査区北西（F9-C・D14区） **平面形** 不整形円形か（調査区外）
- 規 模** 北西-南東3.48 m以上、北東-南西1.20 m以上
- 重複関係** RA 6517、RD 6659、P 1（F9-D14）（古）、RA 6519（新）
- 掘込面** 削平 **検出面** V a層上面
- 埋 土** 自然堆積でA・B層に大別され、各層はさらに2層に細分される。いずれの層もスコリア粒を少量含むが、下層ほど含有率が高くなる。
- A層-暗褐色土を主体とし、小塊状の黒褐色土を含む。A₁層の方が黒褐色土を多量に含む。
- B層-粒～塊状の黒褐色土を多く含む、にぶい黄褐色土で、B₁層の方が非常に多く含む。
- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは0.15～0.25 mで、直立気味に立ち上がる。
- 床の状態** V a層上面を底面とする。ほぼ平坦である。炬は確認できない。
- 出土遺物** A・B層から早期前葉～末葉の土器片4点と調整痕のある剥片が出土している。
- 時 期** 中期中葉（太木8 b式期以前）



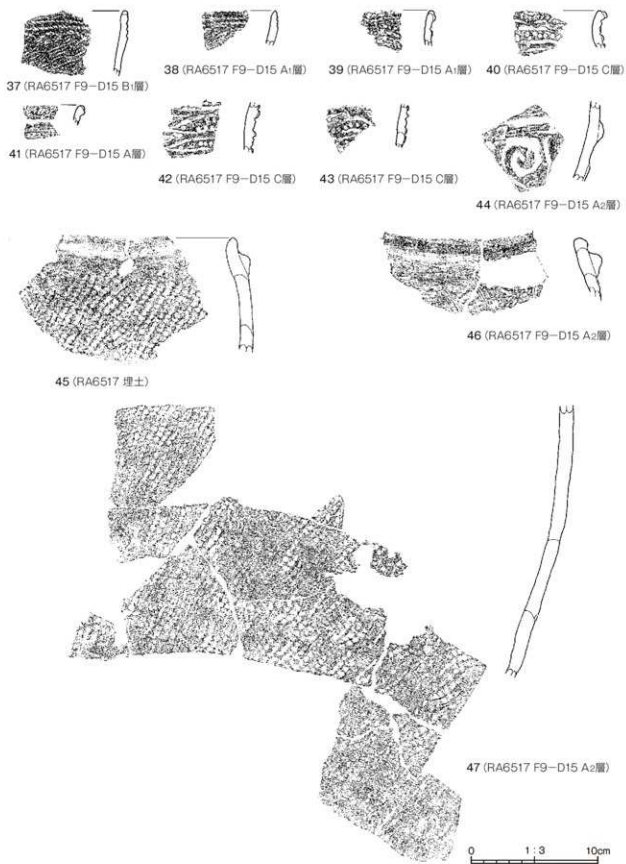
第 11 圖 RA6517 竪穴建物跡



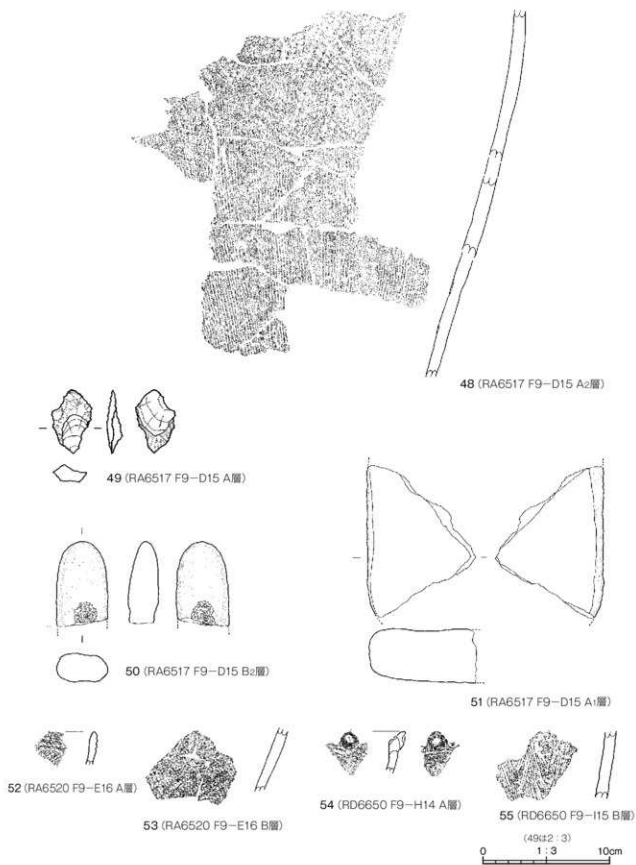
36 (RA6517 F9-D16 A層)

0 1:3 10cm

第12圖 RA6517 豎穴建物跡 出土遺物(1)



第13圖 RA6517 竪穴建物跡 出土遺物(2)



第 14 圖 RA 6 5 1 7 · 6 5 2 0 竪穴建物跡, RD 6 6 5 0 土坑, 出土遺物

RA6519 竪穴建物跡 (第15図)

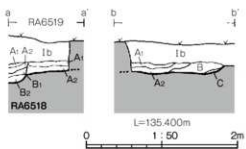
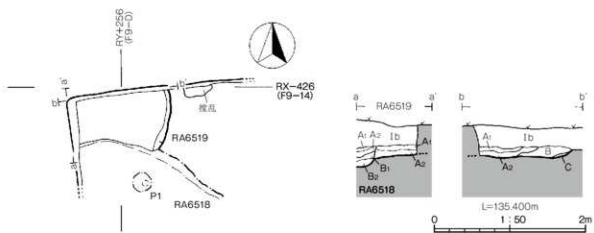
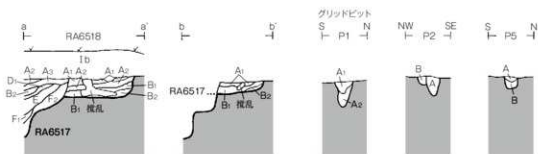
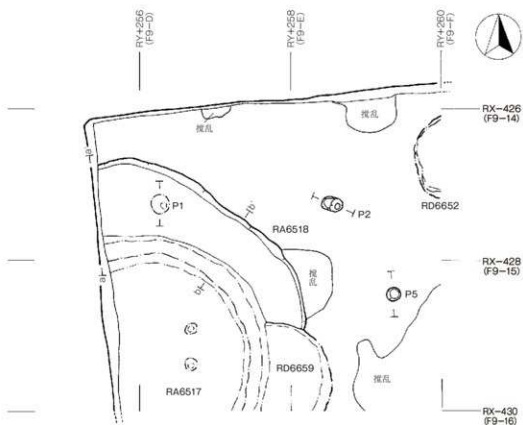
位置	調査区北西隅 (F9-C・D14区)	平面形	不整楕円形か (調査区外)
規模	西-東1.25 m以上, 北-南0.80 m以上		
重複関係	RA 6518 (新) 掘込面 削平 検出面 Va層上面		
埋土	自然堆積でA-C層に大別され, A層はさらに2層に細分される。いずれの層もスコリア粒を微量~少量含むが, A ₂ 層が一番多く含む。 A層-にぶい黄褐色土を主体とし, 黒褐色土を含む。A ₁ 層は多量の小塊状の黒褐色土とともに微量のカーボン粒を含み, A ₂ 層は少量の黒褐色土粒を含む。 B層-黒褐色土を主体とし, 微量の暗褐色土塊を含む。 C層-にぶい黄褐色土を主体とし, 粒状の黒褐色土を少量含む。		
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.12~0.16 mで, 緩やかに外傾して立ち上がる。		
床の状態	Va層上面を底面とする。南に緩やかに傾斜するがほぼ平坦である。炬は確認できない。		
出土遺物	なし 時期 中期中葉 (大木8b式期以前)		

RA6520 竪穴建物跡 (第16図)

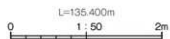
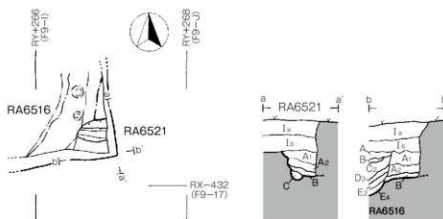
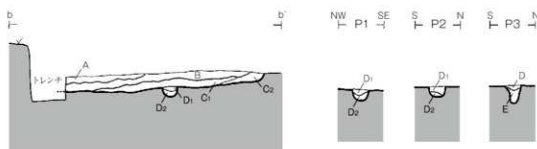
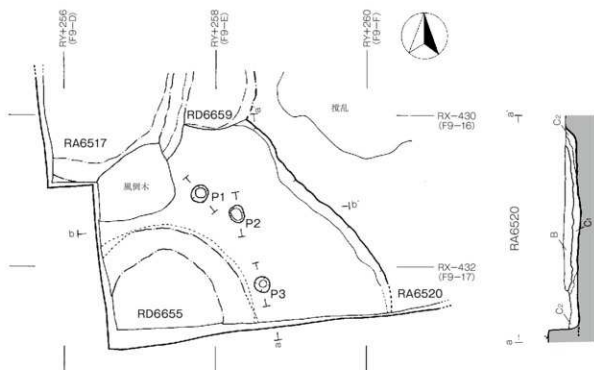
位置	調査区南西隅 (F9-D・E16・17区)	平面形	不整楕円形か (調査区外)
規模	北西-南東3.10 m以上, 北東-南西2.68 m以上		
重複関係	RA 6517・RD 6655・6659 (新) 掘込面 削平 検出面 Va層上面		
埋土	自然堆積でA-C層に大別され, C層はさらに2層に細分される。どの層もスコリア粒を微量~少量含むが, C ₁ 層が最も多く含み, 粒径も大きい。 A層-黒褐色土を主体とし, 小塊状の暗褐色土と微量のカーボン粒を含む。 B層-暗褐色土を主体とし, 塊状の褐色土を多量含む。 C層-黒褐色土を主体とする層で, C ₁ 層は塊状のにぶい黄褐色~黄褐色土を多く含み, C ₂ 層は粒~小塊状のにぶい黄褐色土を少量含む。		
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.14~0.23 mで, 外傾して立ち上がる。		
床の状態	Va層上面を底面とする。南西に緩やかに傾斜する。炬は確認できない。		
柱穴	床面上でピット3口を検出している。ピットの規模・深さは, P1-径0.20~0.24 m, 深さ0.14 m, P2-径0.17~0.23 m, 深さ0.14 m, P3-径0.20~0.22 m, 深さ0.24 mで, いずれも柱痕跡は確認されない。埋土はD-E層に大別される。D層は黒褐色土を主体とし, 粒~小塊状の褐色土を少量含む。褐色土の含有率で2層に細分され, D2層は含有率が高い。E層は暗褐色土を主体とし, 小塊状の褐色土を多く含む。		
出土遺物 (第14図 52・5 第4表)	52は中期中葉の大木7b式に属し, 53は縄文施文の地文のみの土器で中期に属する。その他, 調整痕のある剥片や石屑が出土している。		
時期	中期中葉 (大木8a式期以前)		

RA6521 竪穴建物跡 (第16図)

位置	調査区南東隅 (F9-I16区)	平面形	不明 (調査区外)
規模	北-南0.45 m以上, 西-東0.46 m		



第15図 RA6518・6519竪穴建物跡, ビット



第16図 RA6520・6521竪穴建物跡

重複関係	RA 6516 (新)	掘込面	削平	検出面	V a層上面
埋土	自然堆積でA～C層に大別され、A層はさらに2層に細分される。下層ほど堅く締まっている。どの層もスコリア粒を微量含む。 A層-にぶい黄褐色土を主体とし、A ₁ 層は小塊状の黒褐色土を含み、A ₂ 層は微量のカーボン粒と粒状の暗褐色土を非常に多く含む。 B層-黒褐色土を主体とし、粒～小塊状の褐色土を少量含む。 C層-粉～粒状のにぶい黄褐色土を少量含む、黒色土と暗褐色土の混合物。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.35～0.40mで、外傾して立ち上がる。北壁際には幅0.15～0.19m、深さ0.10mの周溝がめぐる。埋土は建物内堆積土(C層)である。				
床の状態	V b層を掘り込んで底面とする。ほぼ平坦であるが、一部南側に緩やかに傾斜する。炬は確認できない。				
出土遺物	なし	時期	中期中葉(大木8b-3式期以前)		

RD6650土坑(第17図)

位置	調査区北東(F9-H14区)	平面形	不整楕円形		
規模	長軸-上端1.39m、下端1.63m、短軸-上端1.26m、下端1.48m				
重複関係	RA 6515 (新)	掘込面	RA 6515 構築により削平	検出面	RA 6515 床構築土下
埋土	A～J層に大別され、B・G層はさらに3層に細分される。E層は壁崩壊土(V層)で、それ以外は人為堆積である。E・G層は軟らかく締まりがなく、他の層は硬く締まっている。スコリア粒は、A・B ₁₋₃ ・C・F・H・J層で微量～少量確認できる。 A・C・H層-黒色土を主体とし、褐色～黄褐色土粒を少量含む。C層はカーボン粒を含む。 B・D層-黄褐色土と灰黄褐色土の混合物で、黒褐色土を含む。混入土について、B ₁ 層は少量の小塊状、B ₂ ・D層は微量の粒状、B ₃ 層は粒～小塊状を多く含む。 F・J層-黒褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色土を含む。 G層-粘質のある明黄褐色土(V層)を主体とする。堅穴等の構築に伴い、掘削で生じた土を廃棄したと考えられ、G ₁ 層は多量の小岩井軽石(VI層)、G ₂ 層は微量のにぶい黄褐色土粒、G ₃ 層は少量の黒褐色土粒～小塊を含む。 I層-にぶい黄褐色土を主体とし、小塊状の黄褐色土を多く含む。				
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.47mで、断面フラスコ状となる。				
底の状態	V層を掘り込んで底面とする。ほぼ平坦であるが、中央付近が若干凹む。				
出土遺物(第14図54・55 第4表)	54は中期前葉の大木7b式に属し、55は縄文施文の地文のみの土器で中期に属する。その他、銅片が出土している。				
時期	中期(大木7b式期以前)				

RD6651土坑(第18図)

位置	調査区中央北(F9-F・G14区)	平面形	不整楕円形		
規模	長軸-上端0.98m、下端0.68m、短軸-上端0.77m、下端0.55m				
重複関係	RD 6653 (古)	掘込面	削平	検出面	V b層上面

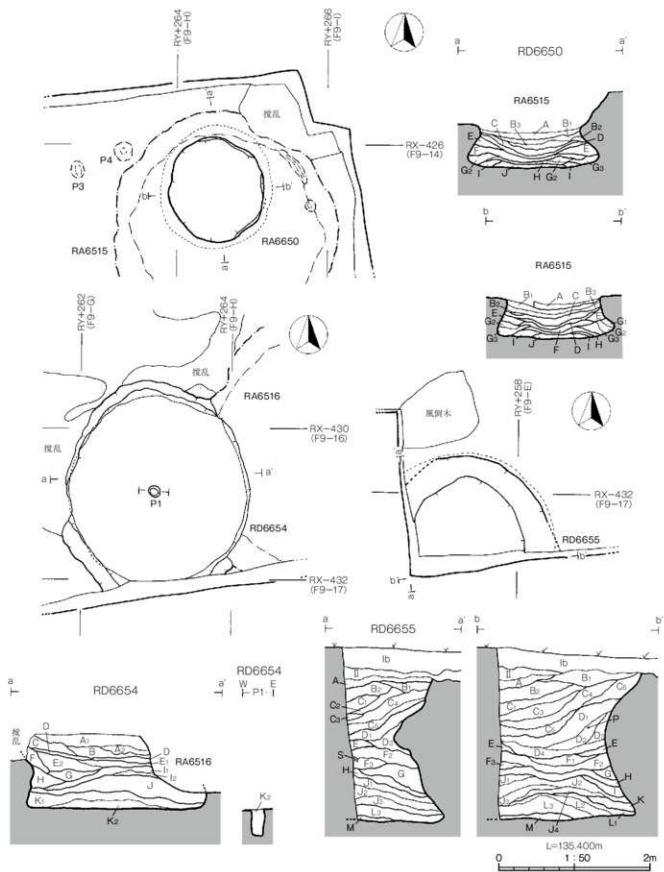
埋 土	自然堆積でA・B層に大別され、スコリア粒を微量含む。 A層-黒褐色土を主体とし、粉～粒状の褐色土を少量含む。 B層-褐色土と黒褐色土の混合土で、粒～塊状の黄褐色土を多く含む。
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.10～0.13mで、南東側は緩やかに外傾する。
底の状態	V b層を掘り込んで底面とする。ほぼ平坦である。
出土遺物	A層から深鉢の体部小破片2点が出土している。 時 期 中期中葉(大木8 b式期以前)

RD6652土坑(第18図)

位 置	調査区中央北(F9-F14区) 平面形 不整形
規 模	長軸-上端1.33m, 下端1.19m, 短軸-上端1.19m, 下端1.18m
重複関係	なし 掘込面 削平 検出面 V b層上面
埋 土	A～D層に大別され、C・D層は2層に細分される。A層以外は人為堆積である。全ての層でスコリア粒を微量含む。 A層-黒色土を主体とし、粉～粒状の黒褐色土を多量含む。 B層-褐色土を主体とし、非常に多くの黒褐色土粉～粒と微量の褐色土小塊を含む。 C層-黒褐色土を主体とし、粉～粒状の黒色土を少量含む。C ₂ 層のみ微量の褐色土粒を含む。 D層-黒褐色土を主体とし、褐色土を含む。混入土について、D ₁ 層は微量の粉～粒状、D ₂ 層は褐色土粒～小塊とともに少量の黒色土塊を含む。
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.21～0.30mで、断面フラスコ状である。
底の状態	Ⅶ層上面を底面とする。若干の起伏がある。
出土遺物	B層から早期後葉の土器片と円礫各1点が出土している。 時 期 中期

RD6653土坑(第18図)

位 置	調査区中央(F9-F・G13・14区) 平面形 不整形
規 模	長軸-上端1.95m, 下端1.82m, 短軸-上端1.75m, 下端1.82m
重複関係	RD6651(新) 掘込面 削平 検出面 V b層上面
埋 土	A～T層に大別され、E・F・J・M・Q層は2層、G・I・P層は3層に細分される。L・N・Q層は壁崩壊土(Ⅶ層)で、それ以外は人為堆積である。全ての層でスコリア粒を微量含む。A・E～G・I・K・T層は硬く締まった層で、その他は軟らかく締まりがない。C層、底面付近からまとまった土器が出土しており、埋没過程において、遺物の廃棄行為が度々あったことが考えられる。 A・D層-黄褐色土を主体とし、暗褐色土粉と粘質のあるふい黄橙色土塊を微量含む。 B・P層-黒褐色土を主体とし、褐色土を含む。混入土について、B層は微量の粉～塊状で、P ₁₃ 層は多量の粒～塊状、P ₂ 層は微量の粒状である。P層のみ僅かな黒色土粒を含む。 C層-暗褐色土と褐色土の混合土で、黄褐色土小塊を微量含む。カーボン粒を微量含む。 E層-黒褐色土を主体とし、粉～粒状の暗褐色土を多く含む。E ₁ 層はより多く含む。 F・H・J層-褐色土を主体とし、暗褐色土を含む。F・H層は粉～粒状の暗褐色土を多く含む、F ₂ 層はより多く含む、硬く締まる。J層は暗褐色土粒と小岩井軽石を微量含む。



第17图 RD6650・6654・6655土坑

- G・I層-黒褐色土を主体とし、微量の黒色土を含む。G₃・I₁層はカーボン粒を微量含む。
 K層-少量の暗褐色土粉〜塊と微量の黒色土粒を含む、黒褐色土。
 M層-黒褐色土と褐色土の混合土で、赤みのある黄褐色土塊を含む。M₁層の方が多く含む。
 O層-褐色土を主体とし、黒褐色土粒と小岩并軽石を少量含む。
 R層-暗褐色土と褐色土の混合土で、黒色土粒を微量含む。
 S層-褐色土を主体とし、暗褐色土粒〜小塊を含む。
 T層-微量の黒色土粒とにぶい黄褐色土小塊を含む、黒褐色土。カーボン粒を微量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは1.40～1.45mで、断面フラスコ状である。

底の状態 V層を掘り込んで底面とする。西に向かって緩やかに傾斜する。

出土遺物 (第19図56～62 第4・9表) 56は地文の原体及び施文方法に円筒上層式の影響が考えられる中期前葉の太木7b式併行の折衷土器、57は太木7b式に属する土器である。58は中期中葉の太木8a-1式、59は太木8b式、60・61は縄文施文の地文のみの土器で中期に属する。62は鼓石である。その他、調整痕有無の剥片や石屑が出土している。

時 期 中期前葉(太木7b式期)

RD6654土坑(第17図)

位 置 調査区中央南(F9-G16・17区) 平面形 不整円形

規 模 長軸-上端2.80m、下端2.42m、短軸-上端2.66m、下端2.34m

重複関係 RA6516(新)、RD6660(古) 掘込面 削平 検出面 Vb層上面

埋 土 人為堆積でA～K層に大別され、A・E・I・K層は2層に細分される。全ての層でスコリア粒を微量含む。C・F・I層はやや軟らかく、締まりがない。

A層-暗褐色土と黒褐色土の混合土で、褐色土を含む。混入土について、A₁層は塊状を多く含み、A₂層は微量の粒状である。A₂層はカーボン粒を少量含む。

B層-褐色土と暗褐色土の混合土で、粘質のあるにぶい黄褐色〜黄褐色土塊を多量含む。

C層-暗褐色土を主体とし、黒褐色土粒と黄褐色土粒を僅かに含む。

D層-多量の黒色土粒と微量の褐色土小塊を含む、黒褐色土。僅かに焼土含む。

E・G・H・I・K層-暗褐色土と褐色土の混合土で、E₁層は黒色土粒と粘質のある褐色土塊を微量含み、E₂層は少量の黄褐色土塊と微量の黒色土粒を含む。G層は微量の黒色土粒を含み、H層は黒褐色土を粉〜粒状に多量含む。I層はやや粘質のあるにぶい黄褐色土を含み、I₁層は小塊状、I₂層は粒状である。K₁層は黒色土粒〜小塊を多く含み、K₂層は黒色土粒とカーボン粒を微量含む。

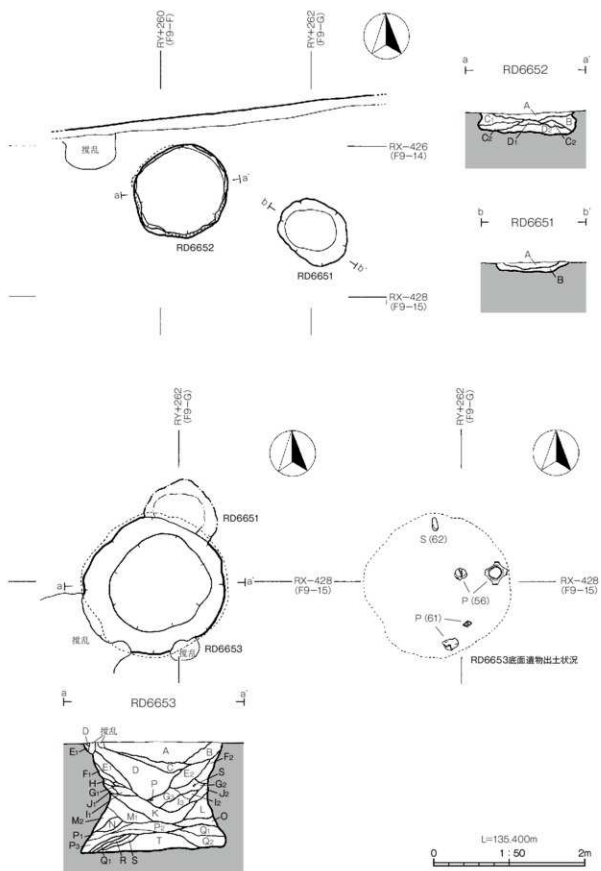
F層-暗褐色土を主体とし、多量の褐色土粉〜粒と微量の黒色土粒を含む。

J層-褐色土を主体とし、少量の暗褐色土粉〜粒と粘質のある明褐色土塊を微量含む。

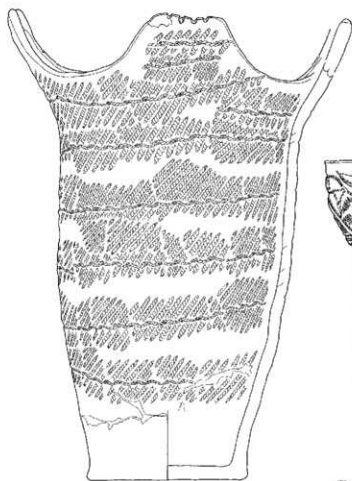
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.96～0.99mで、上部を擾乱、東側はRA6516堅穴建物跡が掘り込まれているが、本来は断面フラスコ状と考えられる。

底の状態 V層を掘り込んで底面とし、ほぼ平坦で、中央に小ピット(P1)が付属する。規模等は径0.14～0.16m、深さ0.35mで、埋土は土坑内堆積土(K₂層)である。柱痕跡は確認できない。

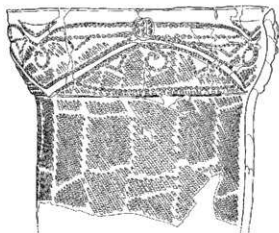
出土遺物 (第20図63～77 第4・5・9表) 63～67は中期前葉の太木7b式に属し、63・64は同一個



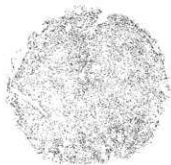
第 18 图 RD6651~6653 土坑



57 (RD6653 F9-F15 A層)



58 (RD6653 F9-F15 C層)



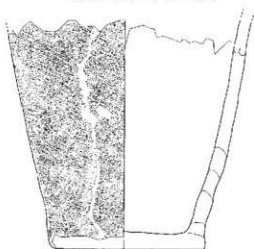
56 (RD6653 F9-G14 底面)



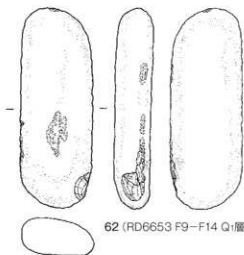
59 (RD6653 F9-F15 A層)



60 (RD6653 F9-F15 G3層)



61 (RD6653 F9-F15 底面)



62 (RD6653 F9-F14 Q1層)

0 1 3 10cm

第 19 圖 RD 6 6 5 3 土 坑 出 土 遺 物



63 (RD6654 F9-F16 E層)



64 (RD6654 F9-F16 E層)



65 (RD6654 F9-G16 A層)



66 (RD6654 F9-G16 A層)



67 (RD6654 F9-F16 E層)



68 (RD6654 F9-F16 E層)

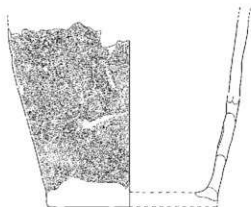
69 (RD6654 F9-G16 I層)



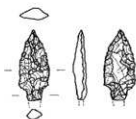
70 (RD6654 F9-G16 I層)



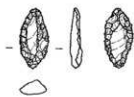
71 (RD6654 F9-G16 I層)



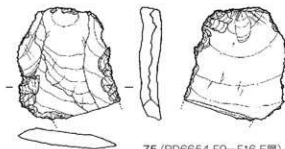
72 (RD6654 F9-G16 G層)



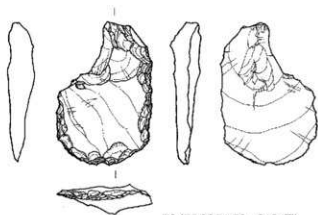
73 (RD6654 F9-G16 E層)



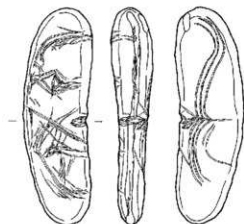
74 (RD6654 F9-F16 E層)



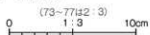
75 (RD6654 F9-F16 E層)



76 (RD6654 F9-G16 I層)



77 (RD6654 F9-G16 A層)



体である。68は中期前葉の円筒上層C式に属する土器である。69・70は同一個体で中期中葉の大木8a-2式、71は大木8aまたは8b式に属する土器である。72は縄文施文の地文のみの土器で中期に属する。73～76は剥片石器で、73・74は石鏃、73は基部にアスファルトが付着する。75・76は削器である。77は軟らかい砂岩の両面に意匠の異なる線刻を施した線刻礫である。片方の側縁端部を平滑に整え、その中央に両面を繋ぐように抉りを入れる。片面はやや太くて深い線刻で幾何学文様を描くとともに細くて浅い線刻も施す。線刻された文様は大木8a式または8b式の土器に施される文様と類似する。その他に細かな擦痕が各方向に確認される。もう片面は側縁中央の抉りを起点として延びる線刻を中心として、両側に繊細で浅い線刻により弧状の曲線が描かれる。その他、A層から直径1.0cm未満のコハク原石と小破片（計2.17g）、E層から小破片（計1.73g）が出土している。また各層から調整痕有無の剥片や石屑が出土している。

時 期 中期中葉（大木8a-2式または8b式期）

RD6655土坑（第17図）

位 置 調査区南西隅（F9-D16・17区） 平面形 不整形円形か（調査区外）
 規 模 長軸-上端1.87m以上、下端1.79m以上、短軸-上端0.97m以上、下端1.12m以上
 重複関係 RA 6520（古）、RD 6661（古） 掘込面 削平 検出面 I b層及びII層直下
 埋 土 A～M層に大別され、B層は2層、C層は5層、D・J層は4層、F・L層は3層に細分される。G・I・K層は壁崩壊土（VII層）で、それ以外は人為堆積である。A・E・G・I・K～M層以外はスコリア粒を微量含む。下層のI～L層はやや軟らかく、締まりが弱い。
 A層-黒褐色土を主体とし、暗褐色土塊を少量含む。
 B層-黄褐色土を主体とし、B₁層は多量の黒褐色土塊、B₂層は微量の灰黄褐色土塊を含む。
 C層-黒褐色土を主体とし、黄褐色土塊を含む。下層ほど混入土の割合が高くなる。
 D層-黒色土を主体とし、D₁層は褐色土粒～小塊、D₂₋₄層は褐色土粉～粒、D₃層は明黄褐色土粒～小塊を含む。どの層も微量のカーボン粒を含み、D₄層は焼土塊を含む。
 E層-やや粘質の明黄褐色土を主体とし、少量のぶい黄褐色シルト粒～小塊を含む。
 F層-黒褐色土を主体とし、黄褐色土とぶい黄褐色土を含む。下層ほど混入土の割合が高い。
 H層-黒褐色土を主体とし、微量のカーボン粒とやや粘質の明黄褐色土粒～小塊を多く含む。
 J・L層-やや粘質の明黄褐色土を主体とし、J₁₋₂層は黒褐色土、J₃層は灰黄褐色土、J₄層は暗褐色土を含む。L₁₋₂層はぶい黄褐色土、L₃層は暗褐色土を含む。
 M層-黒色土を主体とし、微量のカーボン粒と褐色土粒を少量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは1.88～1.98mで、断面プラスチック状と考えられる。

底の状態 VII層を掘り込んで底面とする。緩やかな起伏がある。

出土遺物（第22図78～84 第5・9表） 79・80は中期前葉の円筒上層C式に属する土器である。78は縄文施文の地文のみの土器で中期に属する。82・83は剥片石器で、82は石鏃、83は削器である。84は礫石器の磨石である。また、各層から剥片や石屑も出土している。その他、図示していないが、D層から隆沈線及び沈線が施文された小破片が出土している。

時 期 中期中葉（大木8a式または8b式期以前）

RD6656土坑 (第7図)

位置	調査区南東 (F9-I15区)	平面形	不整凹形か (調査区外)
規模	長軸-上端 1.60 m, 下端 1.58 m, 短軸-上端 0.30 m以上, 下端 0.45 m以上		
重複関係	RA 6516 (古), RD 6657 (古)	掘込面	削平 検出面 V b層上面
埋土	人為堆積でA-J層に大別され, B・D層は3層, C・F層は4層, G・H層は2層に細分される。軟らかく締まりの弱いG・I・J層以外はスコリア粒を微量含む。 A層-黒褐色土を主体とし, 暗褐色土塊を多量含む。 B層-灰黄褐色土を主体とし, 黒褐色土と黄褐色土を含む。下層ほど混入土の割合が高い。 C層-黒色土を主体とし, 暗褐色土とにぶい黄褐色土を含む。下層ほど混入土の割合が高い。 D・H層-黒褐色土を主体とし, にぶい黄褐色土塊を多く含む。D ₁ 層は微量のカーボン粒, D ₂ ・H ₂ 層は小岩井軽石を少量含む。 E層-黒色土を主体とし, 多量の褐色~黄褐色土粒~塊を含む。 F層-黄褐色土を主体とし, F ₁₋₃ 層は黒褐色土塊, F ₂ 層は灰黄褐色土小塊と小岩井軽石, F ₄ 層は黒色土粒~小塊と小岩井軽石を含む。 G・I層-やや粘質の明黄褐色土を主体とし, G ₁ 層は少量の褐色土粒~塊, G ₂ 層は微量の黒褐色土小塊, I層は少量の灰黄褐色土粒を含む。 J層-黒色土を主体とし, 微量のカーボン粒と褐色土粒を少量含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは 1.35 ~ 1.40 m で, 北側は直立気味に立ち上がりつつ外傾し, その他以外は断面フラスコ状となる。		
底の状態	Ⅵ層を掘り込んで底面とする。ほぼ平坦であるが, 南に緩やかに傾斜する。		
出土遺物	E層から前期初頭の摩滅した繊維土器の小破片, 底面から頁岩製の剥片が出土している。		
時期	中期中葉以降 (大木 8 b - 3 式期以降)		

RD6657土坑 (第21図)

位置	調査区東 (F9-H15区)	平面形	不整凹形か
規模	残存部長軸-上端 2.70 m, 下端 2.64 m, 残存部短軸-上端 0.31 m以上, 下端 0.21 m以上		
重複関係	RA 6515 (古), RA 6516・RD 6656 (新)	掘込面	削平 検出面 V b層上面
埋土	人為堆積でA-C層に大別され, A-C層は2層に細分される。各層のスコリア粒含有量はA ₂ ・C ₂ 層は少量, それ以外は微量である。A-C層は軟らかく締まりがない。 A層-暗褐色土と黒褐色土の混合土で, 黄褐色土を含む。混入土について, A ₁ 層は微量の粒状, A ₂ 層は少量の粉状である。A ₂ 層は焼土粒~小塊を微量含む。 B層-黒色土を主体とし, 粉~粒状のにぶい黄褐色土を少量含む。 C層-褐色土を主体とし, 黒褐色土を含む。混入土について, C ₁ 層は小塊状, C ₂ 層は多量の粒状である。C ₂ 層は微量のカーボン粒を含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは 0.37 ~ 0.44 m で, 本来は断面フラスコ状と考えられる。		
底の状態	Ⅵ層上面を底面とする。ほぼ平坦である。		
出土遺物	C ₁ 層からL R 単節縄文が施された地文のみの小破片 1 点が出土している。		
時期	中期中葉 (大木 7 b 式以降~8 b - 3 式期以前)		

RD6658土坑(第21図)

位置	調査区南東(F9-H15・16区)	平面形	不整凹円形
規模	長軸-上端1.65m, 下端2.11m, 短軸-上端1.42m, 下端1.94m		
重複関係	RA 6516(新)	掘込面	RA 6516構築により削平 検出面 RA 6516床構築土下
埋土	A~L層に大別され, F・J層は3層, K・L層は2層に細分される。H層は壁崩壊土(VI層)で, それ以外は人為堆積である。H~L層以外はスコリア粒を微量含む。F・L層は軟らかく締まりがない。 A・C層-多量の褐色土塊と少量のふい黄褐色土粒~小塊を含む, 黒褐色土。C層は微量の小岩并軽石とカーボン粒を含む。 B・E層-黄褐色土を主体とし, 暗褐色土を含む。混入土等は, B層は粒状で小岩并軽石を多く含む, E層は小塊状で, 粘土塊を少量含む。 D・I層-黒色土を主体とし, 粒~小塊状のふい黄褐色土を含む。D層はカーボン粒及び焼土粒を微量含む。 F層-やや粘質のふい黄褐色土を主体とし, F ₁ 層は微量の黄褐色土粒と多量の小岩并軽石, F ₂ 層は少量の明黄褐色土塊と少量の小岩并軽石, F ₃ 層は微量の褐色土粒~塊を含む。 G層-黒褐色土を主体とし, 微量の焼土粒と黄褐色土塊を少量含む。 J層-黄褐色土を主体とし, J ₁ 層は少量の褐色土粒と小岩并軽石, J ₂ 層はふい黄褐色土粒, J ₃ 層は微量の暗褐色土粒~小塊を含む。 K層-黒色土を主体とし, K ₁ 層は微量の暗褐色土粉~粒と焼土粒, K ₂ 層は微量のふい黄褐色土粒~小塊を含む。 L層-ふい黄褐色土を主体とし, 粒~塊状の黒褐色土を含む。L ₂ 層の方が多く含む。		

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.85~0.92mで, 断面フラスコ状である。

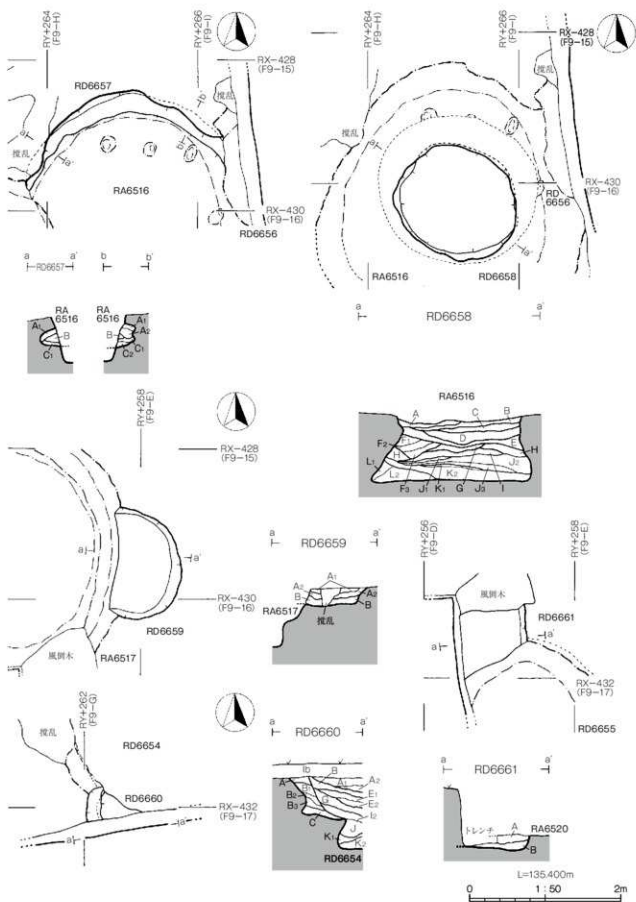
底の状態 VI層を掘り込んで底面とする。ほぼ平坦であるが, 北西側に若干傾斜する。

出土遺物(第22図85~89 第5・9表) 85は中期前葉の太木7b式, 86は中期中葉の太木8a-2式に属する土器である。87は石鏃, 88は削器, 89は礫石器の敲打磨石である。その他, 各層から剥片や石屑が出土している。

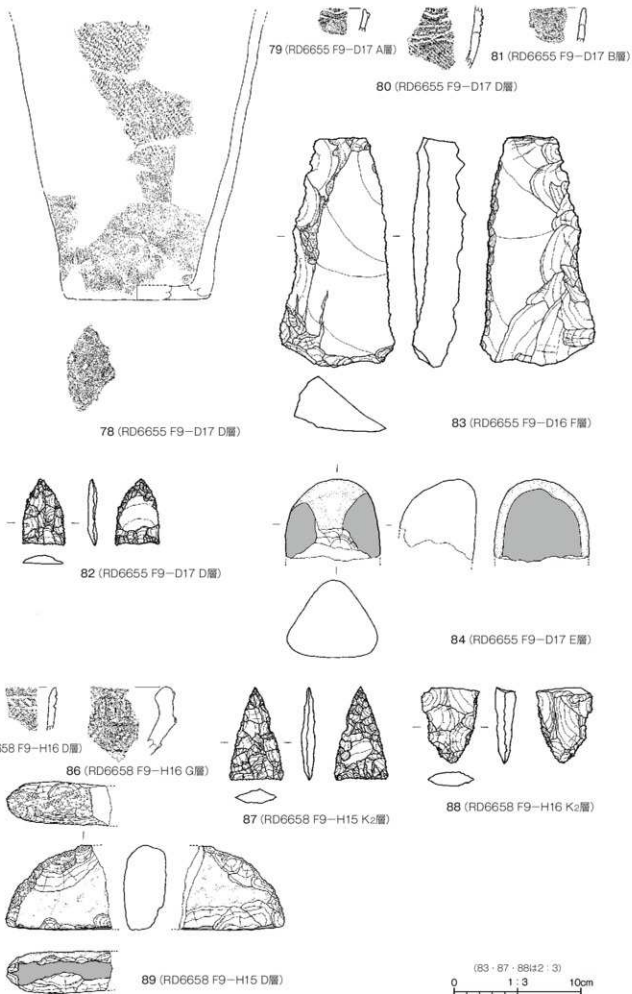
時期 中期中葉(太木8a-2式期)

RD6659土坑(第21図)

位置	調査区西(F9-D・E15区)	平面形	不整凹円形
規模	長軸-上端1.45m, 下端1.30m, 残存部短軸-上端0.87m, 下端0.72m		
重複関係	RA 6518・6520(古), RA 6517(新)	掘込面	削平 検出面 Va層上面
埋土	自然堆積でA・B層に大別され, A層は2層に細分される。どの層もスコリア粒を微量含む。 A層-暗褐色土を主体とし, A ₁ 層は褐色土粒を少量, A ₂ 層は小塊状の黄褐色土を多く含む。 B層-灰黄褐色土を主体とし, 微量のカーボン粒~小塊状と小塊状の黄褐色土を多く含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.20~0.24mで, 外傾して立ち上がる。		
底の状態	Va層を掘り込んで底面とする。若干起伏がある。		
出土遺物	A ₂ 層から太木8b式に属する, 掘目文が施された深鉢体部片が1点出土している。		



第 21 図 RD6657~6661 土坑



第22圖 RD6655・6658土坑 出土遺物

時 期 中期中葉（大木8b式期以前）

RD6660土坑（第21図）

位 置 調査区南中央（F9-G17区） 平 面 形 不整形凹形（調査区外）
規 模 残存部長軸-上端0.75m以上、下端0.60m以上、残存部短軸-下端0.36m以上
重複関係 RD6654（新） 掘込面 削平 検出面 Va層上面
埋 土 人為堆積でA-C層に大別され、B層は3層に細分される。A層以外はスコリア粒を含む。
A層-暗褐色土を主体とし、褐色土粒を含む。
B層-黒褐色土を主体とし、灰黄褐色土と明黄褐色土を含む。下層ほど混入土の割合が高く、
B₂層以外はカーボン粒を微量含む。
C層-粒状の黒褐色土を少量含む、にぶい黄褐色土。微量のカーボン粒を含む。
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.51～0.54mで、断面フラスコ状となる。
底の状態 V層を掘り込んで底面とする。東に向かって緩やかに傾斜する。
出土遺物 なし 時 期 中期中葉以前（大木8a-2式または8b式期以前）

RD6661土坑（第21図）

位 置 調査区南東（F9-D16区） 平 面 形 楕円形か（調査区外）
規 模 残存部長軸-上端0.86m以上、下端0.78m以上、残存部短軸-下端0.84m以上
重複関係 RA6520・RD6655（新） 掘込面 RA6520・RD6655構築により削平
検出面 RA6520床面
埋 土 自然堆積でA・B層に大別される。スコリア粒を微量含む。
A層-黒褐色土を主体とし、粒状のにぶい黄褐色土を含む。
B層-灰黄褐色土を主体とし、粒～塊状の黄褐色土を非常に多く含む。カーボン粒を微量含む。
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.15～0.21mで、外傾して立ち上がる。
底の状態 Va層を掘り込んで底面とする。ほぼ平坦である。
出土遺物 なし 時 期 中期中葉以前（大木8a式または8b式期以前）

ビット群（第4・6・15図）

調査区の北半から5口のビット（P1～5）が検出されている。検出面は耕作土（Ib層）を除去した直下で、P1がRA6518 堅穴建物跡検出面、P2～5はVb層上面である。柱痕跡が認められるビットはP2・3で、掘立柱建物跡や柱列等の可能性があるが、並びを明確に把握できなかった。埋土は黒色土や黒褐色土が主体となり、柱痕跡のあるビットの掘方埋土は黄褐色土や暗褐色土が主体となる。またビットからの出土遺物はなく、所属時期を明確にする資料は得られていない。

各ビットの規模及び検出面からの深さは以下のとおりである。

P1-径0.23～0.26m、深さ0.33m・P2-0.17～0.29m、深さ0.12～0.26m・P3-径0.18～0.23m、
深さ0.25m・P4-径0.23～0.25m、深さ0.20m・P5-径0.17～0.20m、深さ0.15m

(4) 遺物包含層・遺構外出土遺物

当調査区では縄文時代の遺物包含層が自然堆積で形成されており、特に早期を主体とした遺物が出土している。これらは後期完新世火山灰である小岩井軽石上部の堆積層中で確認され、以下のⅠ～Ⅴ層に大別した。

主体となるⅤ層は、ほぼ全面にわたって地形に沿うように北東から南西に緩やかに傾斜して堆積する。耕作により削平されており、特に調査区東のⅠb層直下では、Ⅴa層は残存せずⅤb層のみ確認される。確認できたⅤ層の層厚は0.01～0.15 mである。出土遺物は希薄で、縄文時代早期前葉の押型文・沈線文土器、中葉～後葉の貝殻・条痕文土器、末葉～前期初頭の縄文施文の織維土器が混在しており、Ⅴ層内での層位差による出土遺物の新旧関係は確認できない。出土した土器は小破片で、同一個体の土器片が集中することはなく、石器についても器種・同一母岩による集中地点は確認されなかった。

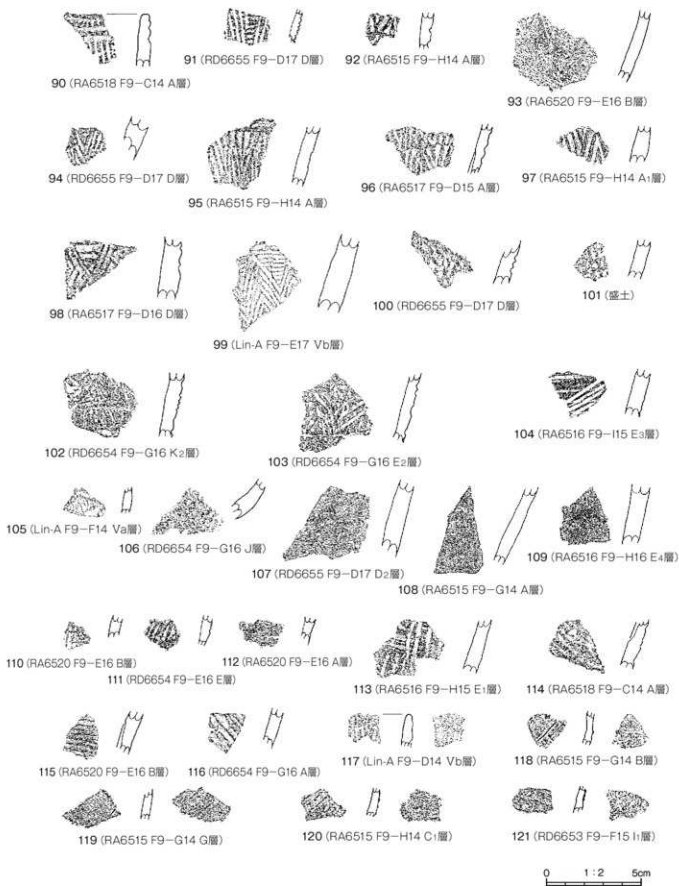
Ⅴ層上層のⅡ層は耕作により削平されており、残存するのは調査区南西隅及び縄文時代中期遺構の最終堆積層のみで、層厚0.05～0.15 mである。早期・中期の遺物を微量含む。Ⅵa層は縄文時代草創期の爪形文土器を包含する層である。当調査区では2×2 mグリッドを市松状に深掘りして遺物の有無を確認したところ、石屑1点のみが出土した。このことから面的な精査はⅥa層上面でとどめている。

この他、遺構外遺物として中期遺構及び攪乱から縄文時代早期・前期の土器・石器、調査区西の風倒木痕から弥生時代後期の甕が出土している。

- 層位**
- Ⅰ層-Ⅰa層は砕石による盛土層、Ⅰb層は耕作土層である。
 - Ⅱ層-黒～黒褐色土を主体とし、スコリア粒を少量含む、やや軟らかい。縄文時代早期・中期の遺物を微量含む。
 - Ⅴ層-黒褐色土～暗褐色土を主体とする層で、Ⅴa層は粒～塊状の褐色土とスコリア粒を少量含む。Ⅴb層は塊状の褐色土とスコリア粒を含み、Ⅴa層より包含率が高い。ともにやや硬く締まりがある。縄文時代早期の遺物を少量含む。
 - Ⅵ層-Ⅵa層は褐色土を主体とし、小塊状の暗褐色～黒褐色土を少量含む。Ⅴ層よりスコリア粒を多く含む、粒径も大きくなる。土質は全体的に締まり、かなり硬い。Ⅵb層は赤褐色～青灰色粗粒軽石層（小岩井軽石層）である。噴出時期は¹⁴C年代測定で11520 ± 730年、13470 ± 300年、16300 ± 550年という成果が得られている。
 - Ⅶ層-黄褐色～明黄褐色粘土層（済民火山灰層）で、噴出時期は33,000～34,000年前と推定される。

縄文時代の土器（第23・24図90～141 第5・6表）

早期前葉 90～103は早期前葉の押型文土器群である。90・91・98～103は日計式、92～97は日計式終末期に該当する大新町a式に属する。押型文は横位回転で施文されており、胎土に織維と石英粒を含む。なお、文様の名称については第25図の模式図に準じている。90は横線V字状文もしくは横線縦割文が施文される口縁部片で、口唇部が平頭で口縁部直下に平行沈線が伴う。91は横線V字状文、92・93はV字状文が施文され、93は無文帯が認められる。94～97は重層V字状文、98は横線X字状文、99は重層X字状文3の菱形内に横位平行線を充填するもので、重層V字状文と横線X字状文の複合とも考えられる。100は斜格子目文、101は格子目文、102・103は格子斜線縦割文1である。104は沈線文土器で大新町b式（三戸式併行）に属する。胎土に織



第 23 圖 遺物包含層・遺構外出土遺物 (1)

維を含まず、石英粒を微量含む。深い平行沈線と浅い斜行沈線が施され、沈線を観察すると鋭い工具で器面に対してやや斜め下方から施文している。105・106は押型文土器群に伴う縄文施文の土器で、胎土に繊維と石英粒を含む。105は平行沈線が1条確認される。107～109は無文土器であるが、押型文土器に共伴するもの(105・106)とは胎土・焼成等の面で差異が認められるため、別に扱った。107は器厚が厚く、胎土に繊維及び石英粒を微量含む、焼成は良好である。108は胎土に繊維を含まず、微細な砂粒を微量含む、焼成は良好で硬く焼き締まっている。109は器厚が厚く、胎土に石英粒のみを含む。

早期中葉 110～116は早期中葉の沈線・貝殻文土器群で大新町c式(田戸下層式併行)に属する。胎土に石英粒または黒色鉱物を少量～微量含む。110～112は貝殻腹縁圧痕文が施文され、110は縦位、111は斜位、112は横位である。113・114は斜行沈線が施される。115・116は貝殻等による条痕文が施文される。116は胎土に僅かながら繊維を含み、硬く焼き締まる。

早期後葉 117～124は早期後葉の条痕文土器群で榎木I式に属する。内外に細かく浅い条痕が施され、微隆起線による文様が施される。胎土に金雲母及び石英粒を含み、繊維は含まない。117は小波状と考えられる口縁部で、内外面に縦位の条痕が施される。118～121は微隆起線が施され、内外面は斜位の条痕が認められる。122は外面に斜位、内面は横位の条痕が施される。123・124は内外面に斜位の条痕が施される。125はムシリ式に伴う単軸絡条体圧痕文が施文されるもので、胎土は砂粒を少量含む、焼成は良好で硬く焼き締まる。

早期末～前期初頭 126～129は早期末～前期初頭の繊維土器群で、胎土に繊維と石英粒を少量含む。126は口唇部及び外面に横位のR L単節縄文が施文される。127～129は横位のL R単節縄文が施文され、全体的に焼成が不良で脆い。

前期初頭 130～141は前期初頭の繊維土器群で、胎土に繊維を多く含む。130・131は同一個体で、口唇部を平滑に整えており、不規則な波状口縁である。横位のL R単節縄文が施文される。132～135は同一個体で、胎土に多量の繊維を含み、内面に混和された太い繊維痕が認められる。139は横位のL R L複節縄文が施文され、焼成が良好で硬く焼き締まる。140は非結束羽状縄文(L R + R L)が施文され、胎土に多量の繊維を含み、内外面に混和された太い繊維痕が認められる。焼成が不良で脆い。141は尖底または丸底の底部付近で、L R単節縄文が施文される。

縄文時代の石器(第24図148・149 第9表)

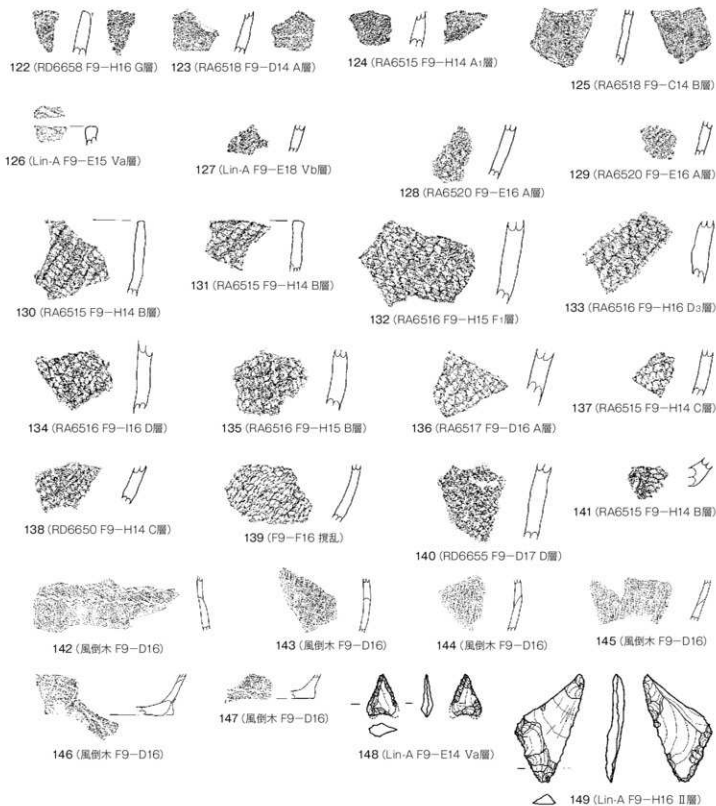
148は基部の挟りが浅い凹基の小型石鏃で、149は削器で両面二側縁に調整を施し、両刃としている。ともに頁岩製である。

弥生時代の土器(第24図142～147 第7表)

142～147は弥生時代後期末の赤穴式に属する甕の頸部下半～底部で、同一個体である。地文に単軸絡条体による縦位の捺糸文(L)が施文された後、各部位の境目には結節のある附加条縄文(R L)が横位に施文される。内外面には炭化物が付着する。

(5) 調査のまとめ

大新町遺跡第84次調査の結果、縄文時代中期の拠点集落である大館町遺跡に隣接した遺跡南西縁部での縄文時代中期前葉～中葉の集落域が確認された。検出された遺構は、縄文時代中期



(148・149は2:3)

(122-141)
1:2 5cm

(142-147)
1:3 10cm

第24図 遺物包含層・遺構外出土遺物(2)

の堅穴建物跡7棟(RA 6515～6521)、貯蔵穴をはじめとする土坑12基(RD 6650～6661)、ピット5口、さらに調査区全域から早期を主体とした遺物包含層が確認された。出土遺物の時代・時期は、縄文時代早期前葉～後葉、中期前葉～中葉の縄文土器、石器が主体である。ここでは主要な遺構・遺物について述べることにする。

遺 構 早期に属する遺構は確認できず、早期の遺物包含層(V層)は遺跡西端部でもあり、希薄な堆積層が確認された。各遺物は小破片で、同一個体の土器片や同一母岩からの石器・剥片等がまとまる遺物集中地点はない。V層は早期前葉～末葉までの時期幅の広い土器群を包含しているが、これまでの調査成果と同様にV層内での明確な層位差や出土レベル差を出土遺物から明らかにすることはできなかった。このことからV層は二次堆積によって形成された遺物包含層で、包含される最新遺物から考えて早期末葉頃に堆積が完了したと推定できる。また、本調査区は草創期の遺物が出土する遺跡中央部から離れている。このことから部分的に草創期の爪形文土器を包含するVIa層を深掘りによって遺物の有無を確認したところ、石削1点が出土したのみである。

縄文時代の遺構としては、中期前葉～中葉の堅穴建物跡7棟、土坑12基を確認しており、RD 6652以外は重複し、大新町遺跡としては遺構密度がやや高いと言える。各遺構の時期は、底面または最下層の出土遺物から大木7b式(RD 6653)、大木8a-2式(RD 6653)、大木8a-2式～8b式(RD 6654)、大木8b-3式(RA 6516)である。その他の遺構は重複関係及び出土遺物から、大木7b式以前(RA 6515、RD 6650)、大木7b式～8b-3式(RD 6657)、大木8a式または8b式以前(RA 6520、RD 6655・6661)、大木8a-2式～8b式以前(RD 6660)、大木8b式以前(RA 6517-6518-6519、RD 6659)、大木8b-3式以前(RA 6521)、大木8b-3式以降(RD 6656)となる。本調査区は遺跡南西縁辺部の小規模な段丘上、かつ大館町遺跡東端に隣接し、遺構の検出状況は本遺跡南縁部及び西部の様相とはやや異なり、中期中葉の堅穴建物跡と土坑が重複もしくは散在する。大館町遺跡第10・13・41次調査の結果に近いと言える。前述の調査では遺跡東部における住居群と土坑群が確認されており、本調査区は大館町遺跡の集落域が及んだ範囲として捉えることができよう。また、大館町遺跡では古段階に属する堅穴建物跡や貯蔵穴など大木7b式期の遺構も確認され、大館町遺跡東端部における集落の様相を窺うことができる。

精査した遺構のうち、特徴的な遺構を挙げると、平坦なテラス(外壁部)をもつRA 6517は、北西に位置する第10次調査でも同様な3棟(大木8a・8b式期)が調査されており、類似性を指摘できるが、テラス部に柱状のピットが伴わない点で異なっており、今後の調査事例の蓄積が必要である。貯蔵穴と考えられるRD 6653は人為堆積で埋められており、底面付近から大木7b式、C層から大木8a-1式、最終堆積層のA層から大木8b式に属する遺物が出土し、貯蔵穴として機能の喪失、廃絶から埋没が完了するまでの過程と時間幅を捉えられる。各層は人為堆積であるが、同時に廃棄された土器の型式から短期的な埋没ではなく、長期的な期間が経過して埋没に至っていることがわかる。

遺 物 遺物包含層のV層及び遺構外からは、縄文時代早期前葉(日計式、大新町a・b式)、早期中葉(大新町c式)、早期後葉(槻木I式、ムシリI式)、早期末～前期初頭に位置付けられるものが、それぞれ少量であるが出土した。遺構出土土器の多くは、中期前葉(大木7b式)と中期中葉(大木8a・8b式)に位置付けられるものが主体を占め、他には前期初頭の繊維土器も少量

出土した。その他、弥生時代後期終末（赤穴式）の甕破片も出土している。

石器 石器・石製品は剥片石器、剥片・石屑、礫石器類、石製品を含めると合計 987 点出土している。

石製品 V層出土の石器は、剥片と石屑が大半を占め、製品は掲載した石鏃と削器の 2 点のみである。遺構内出土石器も同様に剥片もしくは調整痕のある剥片が主体で、製品は少ない。また、出土した縄文土器の多くが中期前葉～中葉のものであることから、石器も多くは同時期と思われる。石器各類と石材の関係をみると、剥片石器には頁岩、礫石器には凝灰岩・砂岩が主に使用されている。

折衷土器 RD 6653 から大木式と円筒上層式との折衷土器（大木 7 b 式併行）が出土している。4 単位の弁状突起をもち、波頂部には 4 単位の刻みが伴う。文様は地文のみで、結節のある L R 単節縄文を横位回転し施文する。中期前葉～中葉の大木式土器の地文は大枠で縦位方向への施文であり、東北部の円筒上層式の地文が横位方向への施文が主流である点とは対極的である。当該期の盛岡周辺で確認されている大木式土器でも同様で、体部には縄文を縦位回転する個体が大半を占め、キャリパー形深鉢においては口縁部文様帯に横位回転、体部には縦位回転の縄文を施す。この土器にみられる縄文の横位回転の属性は円筒式土器に見られる要素であり、その影響を受けた可能性が考えられる。

線刻礫 RD 6654 の最終堆積層から出土した線刻礫は、遺構内の出土遺物の時期から大木 8 a 式～8 b 式に属すると考えられる。素材の礫は細長く扁平な軟質の砂岩であり、大人の親指大の大きさ（長さ 8.6cm、最大幅 2.5cm、最大厚 1.6cm）で、近隣の河川敷で採取できるものである。線刻文様は両面に異なる意匠が線刻されており、使用にあたっては上下あるいは表裏の区別がなく、両面ともに意味のある文様と推定できる。片面は浅く細かい線刻はあるものの、やや大きく断面鋭角の深い線刻が主体で描かれており、線刻部分が砂岩表面の風化面の色調と異なるため、風化面をキャンパスとして線刻した文様が表出する効果を出している。線刻される文様は、はっきりと断定できないが、直線、弧状、緩やかな S 字状、菱形に近いものである。菱形の文様は、大木 8 a 式で祖型が現れ、次型式の大木 8 b 式に特徴的な剣先状（または剣先渦巻状）に類似する。直線に近い側縁端部は風化面を削って平滑に整え、その中央に両面を繋ぐように深い抉りを入れる。そのため、側縁端部側から見ると、十字にも見える。反対面は先の線刻とは異なり、繊細な線刻で彫り込みも非常に浅く、砂岩表面の風化層内で取まるため、線刻部分が風化面の色調と近似し表出されない。側縁中央の抉りから直線状に伸びる線刻を中心として、翼を広げるように 3～5 条の S 字状、弧状の線刻が伸びる。

この線刻礫について、資料整理中に国立歴史民俗博物館名誉教授 春成秀爾氏から線刻礫及び文様等の解釈をご教示いただいたので、この紙面上でご紹介し、まとめとしたい。

「素材の礫の形状が少し曲っており、男性器を連想させる。片面の長い菱形は女性器を表現し、それに向かって伸びているのは男性器である。その反対面の中央から両端に向かって大きく拡がるのは女性器で、その中央の側面にある抉りは陰裂を表現したものと考えられる。」

男性器形に女性器を彫った事例は、縄文時代前期の群馬県富士見村陣馬遺跡出土の女性器を表した小円穴をもつ石棒、中期の北陸地方で発達した女性器を彫刻した石棒の存在があり（春成秀爾 2007『儀礼と習俗の考古学』）、男性器形に女性器の象徴を彫り込むことによって男女の交合を象徴的に表現し、人の生涯に関わりをもつ遺物であった可能性が考えられる。」

	割付基本形	文 様					
V字状文		模様V字状文1	模様V字状文2	模様V字状文3	模様V字状文4	模様V字状文5	
		模様V字状文	重層V字状文	変形V字状文1	模様複合V字状文		
X字状文		模様X字状文*	複合X字状文1*	複合X字状文2*	重層X字状文1	重層X字状文2	重層X字状文3*
Y字状文		模様Y字状文	重層Y字状文1	重層Y字状文2	変形Y字状文1	変形Y字状文2	変形Y字状文3
長菱形文		模様長菱形文1	模様長菱形文2	複合長菱形文*	<重層長菱形文>*	変形長菱形文	
格子目文		斜長格子目文	斜格子目文				
縦割割文		模様縦割文1	模様縦割文2	模様縦割文3	模様斜縦割文*	格子斜縦割文1	格子斜縦割文2
		重層山形割文*	重層山形割文*		模位平行線文	格子斜縦割文3	

< * >は大型の透かし土押型文
*は複合型文

第 25 図 大新町遺跡出土押型文土器文様模式図

国	番号	時期	遺物	出土地点	寸法 (cm)	重量 (g)	年代	出土の状況	出所	文様・図柄類型	得意号	
1	8	縄文	縄文土器	形状	口径	高さ	底径	体径	底径			
1	8	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9414	115	145	123	82	無文	白河遺・早稲作土器 (1) 海部・小沢沢 (海部-伊豆半島) 遺跡 美濃原遺跡 (1) 土文・文様付土器 (1) 海部 (1) 早稲作土器	中層 (大木7b式)
2	8	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9414	G	-	-	-			中層 (大木7b式)
3	8	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9414	A	-	-	-			中層 (大木7b式)
4	8	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9414	A	-	-	-			中層 (大木7b式)
5	8	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9414	A	-	-	-			中層 (大木7b式)
6	8	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9414	A	-	-	-			中層
7	8	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9414	B	-	-	-			中層 (大木7b式)
8	11	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9415	D	-	-	-			中層 (大木7b式)
9	12	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9415	B	-	-	-			中層 (大木7b式)
10	13	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9415	B2	-	-	-			中層 (大木7b式)
11	14	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9415	B	-	-	-			中層 (大木7b式)
12	15	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9416	B4	-	-	-			中層 (大木7b式)
13	16	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9416	B1	-	-	-			中層 (大木7b式)
14	17	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9416	D	-	-	-			中層 (大木7b式)
15	18	IA-A55	縄文土器	小型深鉢	F9416	F2	22.5	16.8	11.8	6.4	無文	中層 (大木7b式)
16	19	IA-A55	縄文土器	小型深鉢	F9416	D1	16.9	11.7	9.0	7.6		中層 (大木7b式)
17	20	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9416	E	-	-	-			中層 (大木7b式)
18	21	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9416	C1	-	-	-			中層 (大木7b式)
19	22	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9415	D	-	-	-			中層
20	23	IA-A55	縄文土器	深鉢	F9416	D1	-	-	-			中層 (大木7b式)
21	24	IA-A55	縄文土器	浅鉢	F9415	C1	-	-	-			中層
22	26	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	A	47.0 - 9.5	31.7	36.6	16.3	編物痕 (二ツ 目線) 1.1 目線 1 目線 1	外層-高化特層 内層-黒丸による調整 中層 (大木7b式)
23	17	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	B1	-	-	-			中層 (大木7b式)
24	18	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	AI	-	-	-			中層 (大木7b式)
25	19	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	AI	-	-	-			中層 (大木7b式)
26	20	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	C	-	-	-			中層 (大木7b式)
27	31	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	C	-	-	-			中層 (大木7b式)
28	41	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	C	-	-	-			中層 (大木7b式)
29	42	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	C	-	-	-			中層 (大木7b式)
30	43	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	C	-	-	-			中層 (大木7b式)
31	44	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
32	45	IA-A57	縄文土器	深鉢		11.1	-	-	-			中層 (大木7b式)
33	46	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
34	47	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
35	48	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
36	49	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
37	50	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
38	51	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
39	52	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
40	53	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
41	54	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A2	-	-	-			中層 (大木7b式)
42	55	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	B	-	-	-			中層
43	56	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9414	底面	30.9	27.2	18.7	12.2	編物痕+黒丸	内層-黒丸字平-底面 高化特層 新土層 (大木7b式 層)
44	57	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A	-	-	-			中層 (大木7b式)
45	58	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	C	17.4	21.0	17.1	-		中層 (大木7b式)
46	59	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	A	-	-	-			中層 (大木7b式)
47	60	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	G2	-	-	-			中層 (大木7b式)
48	61	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9415	底面	18.1	-	19.0	12.0	無文	編物痕 内層-炭化特層 中層
49	62	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	R	-	-	-			中層 (大木7b式)
50	63	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	R	-	-	-			中層 (大木7b式)
51	64	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	A	-	-	-			中層 (大木7b式)
52	65	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	A	-	-	-			中層 (大木7b式)
53	66	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	A	-	-	-			中層 (大木7b式)
54	67	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	R	-	-	-			中層 (大木7b式)
55	68	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	R	-	-	-			中層 (大木7b式)
56	69	IA-A57	縄文土器	深鉢	F9416	G	-	-	-			中層 (大木7b式)

第4表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 縄文土器 (1)

図号	発掘調査区画	遺物名	形制	出土地点	字法 (zou)	判定	発掘の本	発掘	文相 - 一部出典	備考		
20	70	13	K0664	縄文土器	浅鉢	P9-G06	I	-	-	1) 陶器: 平盤、縁高、厚底付直 (L1) による縁高目・底付直	中国 (大木 8a2式)	
20	71	13	K0664	縄文土器	浅鉢	P9-G06	I	-	-	1) 陶器: 平盤、縁高、厚底付直 (L1) による縁高目・底付直	中国 (大木 8a2式)	
20	72	13	K0664	縄文土器	浅鉢	P9-G06	G	(14)	(19)	(13)	1) 陶器: 平盤、縁高、厚底付直 (L1) による縁高目・底付直	中国 (大木 8a2式)
22	79	14	K0665	縄文土器	浅鉢	P9-D17	D	(2)	(1)	(1)	1) 陶器: 1.1 平直縁直、無文 2) 陶器: 1.1 平直縁直、無文	中国 (内野 冠形付直)
22	79	14	K0665	縄文土器	浅鉢	P9-D17	A	-	-	-	中国 (内野 上層C式)	
22	79	14	K0665	縄文土器	浅鉢	P9-D17	D	-	-	-	中国 (内野 上層C式)	
22	81	14	K0665	縄文土器	浅鉢	P9-D17	B	-	-	-	中国	
22	85	14	K0668	縄文土器	浅鉢	P9-F16	D	-	-	-	中国 (大木 7b式)	
22	86	14	K0669	縄文土器	浅鉢	P9-F16	G	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	90	15	K0658	縄文土器	浅鉢	P9-C14	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	91	15	K0665	縄文土器	浅鉢	P9-D17	D	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	92	15	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-F14	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	93	15	K0650	縄文土器	浅鉢	P9-E16	B	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	94	15	K0665	縄文土器	浅鉢	P9-D17	D	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	95	15	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-F14	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	96	15	K0617	縄文土器	浅鉢	P9-D17	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	97	15	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-F14	A1	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	98	15	K0617	縄文土器	浅鉢	P9-D17	D	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	99	15	L0a	縄文土器	浅鉢	P9-B17	V5	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	100	15	K0665	縄文土器	浅鉢	P9-D17	D	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	101	15	遺土	縄文土器	浅鉢	-	-	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	102	15	K0664	縄文土器	浅鉢	P9-G06	K2	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	103	15	K0664	縄文土器	浅鉢	P9-G06	K2	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	104	15	K0656	縄文土器	浅鉢	P9-F15	E3	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	105	15	L0a	縄文土器	浅鉢	P9-F14	Va	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	106	15	K0664	縄文土器	浅鉢	P9-G06	J	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	107	15	K0665	縄文土器	浅鉢	P9-D17	D2	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	108	15	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-G14	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	109	15	K0656	縄文土器	浅鉢	P9-F16	E4	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	110	15	K0650	縄文土器	浅鉢	P9-E16	B	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	111	15	K0664	縄文土器	浅鉢	P9-F16	E	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	112	15	K0650	縄文土器	浅鉢	P9-E16	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	113	15	K0656	縄文土器	浅鉢	P9-F15	E3	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	114	15	K0658	縄文土器	浅鉢	P9-C14	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	115	15	K0650	縄文土器	浅鉢	P9-E16	B	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	116	15	K0664	縄文土器	浅鉢	P9-G06	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	117	15	L0a	縄文土器	浅鉢	P9-F14	V5	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	118	15	K0645	縄文土器	浅鉢	P9-G14	B	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	119	15	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-G14	G	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	120	15	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-F14	C2	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	121	15	K0663	縄文土器	浅鉢	P9-F15	I1	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	122	15	K0669	縄文土器	浅鉢	P9-F16	G	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	123	15	K0658	縄文土器	浅鉢	P9-D14	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	124	15	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-F14	A1	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	125	15	K0658	縄文土器	浅鉢	P9-C14	B	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	126	16	L0a	縄文土器	浅鉢	P9-E15	Va	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	127	16	L0a	縄文土器	浅鉢	P9-E16	B	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	128	16	K0650	縄文土器	浅鉢	P9-E16	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	129	16	K0650	縄文土器	浅鉢	P9-E16	A	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	130	16	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-F14	B	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	
23	131	16	K0655	縄文土器	浅鉢	P9-F14	B	-	-	-	中国 (大木 8a2式)	

第5表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 縄文土器(2)

採番 号	採出 地	遺物名	形跡		出土地点		寸法 (cm) 測定部・位置・内径				底面	文様・表面調整	特徴等	
			区分	形跡	平部位置	高さ	高さ	口径	口径	口径				
24-132	16	EA616	縄文土器	深鉢	F9H15	F1	-	-	-	-	-	-	体部：L.R. 半部縄文	No.132 ~ 135；同一個体 胎土：織籠少量含む。前期初層
24-133	16	EA616	縄文土器	深鉢	F9H16	I3	-	-	-	-	-	-	体部：L.R. 半部縄文	胎土：織籠少量含む 前期初層
24-134	16	EA616	縄文土器	深鉢	F9H16	D	-	-	-	-	-	-	体部：L.R. 半部縄文	胎土：織籠少量含む 前期初層
24-135	16	EA616	縄文土器	深鉢	F9H15	B	-	-	-	-	-	-	体部：L.R. 半部縄文	胎土：織籠少量含む 前期初層
24-136	16	EA617	縄文土器	深鉢	F9D16	A	-	-	-	-	-	-	体部：L.R. 半部縄文	胎土：織籠少量含む 前期初層
24-137	16	EA615	縄文土器	深鉢	F9H14	C	-	-	-	-	-	-	体部：L.R. 半部縄文	胎土：織籠少量含む 前期初層
24-138	16	ED660	縄文土器	深鉢	F9H14	C	-	-	-	-	-	-	体部：L.R. 半部縄文	胎土：織籠少量含む 前期初層
24-139	16	-	縄文土器	深鉢	F9F16	焼丸	-	-	-	-	-	-	体部：L.R.L. 復原縄文	胎土：織籠少量含む 前期初層
24-140	16	ED665	縄文土器	深鉢	F9D17	D	-	-	-	-	-	-	体部：非粘土質縄文 (L.R. + R.L.)	胎土：織籠少量含む 前期初層
24-141	16	EA615	縄文土器	深鉢	F9H14	B	-	-	-	-	-	-	底面付否：完成または丸皿。L.R. 半部縄文	胎土：織籠少量含む 前期初層

第6表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 縄文土器 (3)

採番 号	採出 地	遺物名	形跡		出土地点		寸法 (cm) 測定部・位置・内径				底面	文様・表面調整	特徴等	
			区分	形跡	平部位置	高さ	口径	口径	口径					
24-142	16	風刺木	弥生土器	甕	F9D16	-	-	-	-	-	-	-	底面一体部上半：附有加漆縄文 (R.L. 粘着) 体部：熱赤文 (L)	No.142 ~ 147；同一個体 特徴：灰化物付着 後期 (赤六式)
24-143	16	風刺木	弥生土器	甕	F9D16	-	-	-	-	-	-	-	体部：熱赤文 (L)	内面：灰化物付着 後期 (赤六式)
24-144	16	風刺木	弥生土器	甕	F9D16	-	-	-	-	-	-	-	体部：熱赤文 (L)	内面：灰化物付着 後期 (赤六式)
24-145	16	風刺木	弥生土器	甕	F9D16	-	-	-	-	-	-	-	体部：熱赤文 (L)	内面：灰化物付着 後期 (赤六式)
24-146	16	風刺木	弥生土器	甕	F9D16	-	-	-	-	-	-	無文	体部下半：熱赤文 (L) 体部：底面地肌；附有加漆縄文 (R.L. 粘着)	内面：灰化物付着 後期 (赤六式)
24-147	16	風刺木	弥生土器	甕	F9D16	-	-	-	-	-	-	無文	底面付否：付加漆縄文 体部：底面地肌；附有加漆縄文 (R.L. 粘着)	内面：灰化物付着 後期 (赤六式)

第7表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 弥生土器

採番 号	採出 地	遺物名	形跡		出土地点		寸法 (cm)			残存状況	形跡・文様・表面調整	特徴等
			区分	形跡	平部位置	高さ	口径	口径				
10-34	9	EA616	土製品	-	F9H15	I2	(1.0)	(2.8)	φ41	-	溝・取込で湾曲する。表面：磨漆仕肌 (L.R.) 裏面：加文	中期
10-35	9	EA616	土製品	土製 内釜	F9D16	B	(2.2)	(2.6)	φ38	-	縄文土器片を加工。外面：磨漆 施文：L.R.L. 復原縄文	中期 (片木 8式)

第8表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 土製品

調査 番号	発見 場所	遺物名	形態		出土地点		法量 (cm)				石種	欠損部位			特記事項
			区分	形状	平面位置	方位	長さ	幅	厚さ	重量		左端部	側面	底面	
8-8-8	RAM15	石器	刮削	F9-B14	B	41	30	1.1	16.75		頁岩				両方 片側調整 背面 横線調整 自然面残存
8-9-8	RAM15	石器	刮削	F9-B14	A	27	21	0.4	2.43		頁岩				両方 片側調整 背面 横線調整
8-10-8	RAM15	石器	刮削	F9-B14	C1	32	32	1.0	11.77		頁岩	●			両方 側面 調整面 自然面残存
9-25-9	RAM16	石器	刮削	F9-B16	B	23	13	0.6	1.99		頁岩	●			凸底 中折角 断面 背欠欠部 高度アフレット付着
9-26-9	RAM16	石器	刮削	F9-B16	B	230	69	0.6	1.72		頁岩	●			特殊 断面欠部 一面自然面残存
9-27-9	RAM16	石器	刮削	F9-B16	A	29	20	0.9	3.69		頁岩				右側面 断面欠部 基部アフレット
9-28-9	RAM16	石器	刮削	F9-B15	D3	151	37	1.1	19.00		頁岩	●			両方 片側調整 背面 横線調整
9-29-9	RAM16	石器	刮削	F9-B15	F4	52	46	1.1	28.72		頁岩				打削を施した両面に調整 横打痕
10-30-9	RAM16	石器	刮削	F9-B16-P18	側上	66	63	3.1	167.70		砂岩	●	●	●	扁平状 全面調整 側面上面 横打痕あり
10-31-9	RAM16	石器	刮削	F9-B16	C1	84	39	2.1	181.17		砂岩	●	●	●	扁平状 断面欠部 側面上面 断面に横打痕あり
10-32-9	RAM16	石製品	石製	F9-B16	F4	444	146	126	1309.00		凝灰岩				特殊 断面欠部 横打痕 調整 横打痕 自然面残存 未製品?
10-33-9	RAM16	石製品	-	F9-B16	E	22	12	0.6	0.58		シムト岩				片側(前面) 調整
14-49-11	RAM17	石器	刮削	F9-D15	A	25	16	0.6	1.61		頁岩				片側調整アフレット付着 自然面残存
14-50-11	RAM17	石器	刮削	F9-D15	B2	16.6	4.1	2.4	99.72		砂岩	●	●	●	扁平状 断面欠部 両面にアフレット
14-51-11	RAM17	石器	刮削	F9-D15	A1	119	9.5	4.2	621.09		凝灰岩	●	●	●	断面欠部 断面欠部調整のみ 自然面
19-62-12	RM603	石器	刮削	F9-F14	Q1	138	57	2.9	492.29		砂岩				扁平状 両面に調整の欠部 断面調整 (断面) 両方の側面調整を平直にし、中央に持ちを入れた
20-73-13	RM604	石器	刮削	F9-G16	E1	28	12	0.5	1.41		頁岩			●	凸底 中折角 断面欠部 基部アフレット付着
20-74-13	RM604	石器	刮削	F9-F16	E	24	11	0.5	1.24		頁岩				凸底 中折角
20-75-13	RM604	石器	刮削	F9-F16	E	44	40	0.8	15.69		頁岩	●			両方 両側調整 両面に横線調整 片側欠部
20-76-13	RM604	石器	刮削	F9-G16	F	5.6	3.7	1.1	17.19		頁岩				両方 片側調整調整
20-77-13	RM604	石製品	調整面	F9-G16	A	86	25	1.6	32.82		砂岩				扁平状 両面に調整の欠部 断面調整 (断面) 両方の側面調整を平直にし、中央に持ちを入れた
22-82-14	RM605	石器	刮削	F9-D17	D	28	17	0.4	1.80		頁岩				調整 平直
22-83-14	RM605	石器	刮削	F9-D16	F	9.0	4.5	2.0	75.28		頁岩				片側調整調整 断面
22-84-14	RM605	石器	刮削	F9-D17	E	35.4	7.5	6.1	382.63		凝灰岩	●	●	●	調整上面 断面三角状 一面残存
22-87-14	RM606	石器	刮削	F9-B15	B2	27	21	0.5	3.47		頁岩				調整 平直
22-88-14	RM606	石器	刮削	F9-B16	B2	30	22	0.8	4.63		頁岩				両方 両側調整 両面に横線調整
22-89-14	RM606	石器	刮削	F9-B15	D	66	38.2	3.3	255.75		砂岩	●	●	●	扁平状 全面調整調整 側面上面 断面以外の両面に横打痕あり
24-148-26	LaA	石器	刮削	F9-B14	Fa	1.6	1.2	0.4	0.47		頁岩				特殊 凸底 (持ち欠) 断面欠部 左右両折角 小型
24-149-26	LaA	石器	刮削	F9-B16	E	4.5	2.2	0.5	4.21		頁岩				両方 両面に横線調整

第9表 大新町遺跡第84次調査出土遺物観察表 石器・石製品

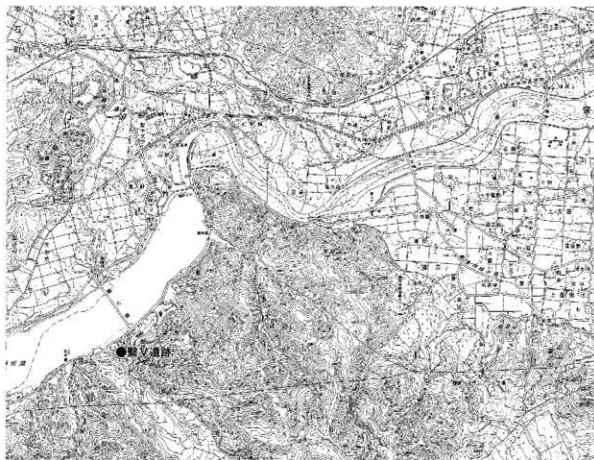
Ⅲ 繫V遺跡（第38次調査）

1 遺跡の環境

(1) 遺跡の概要

遺跡の位置 繫V遺跡は盛岡市街地から西に約10kmの盛岡市繫字館市地内に所在する（第26図）。

地形・地質 繫地区は、奥羽山脈から東流する雫石川により形成された雫石盆地東端、箱ヶ森（865 m）、南昌山（848 m）が連なる篠木・東根山山地の北麓に位置し、北辺には雫石川が流れる。周辺の地形は雫石川の北岸と南岸で大きく相違し、北岸では火砕流堆積物（小岩井泥流）を基盤とした台地が発達し、南岸では前述した東根山山地が迫り、北岸で見られるような広い平坦面は発達していない。篠木・東根山山地は主に新第三紀中新世の飯岡層・男助層・外沢層より構成され、飯岡層は輝石安山岩・緑色凝灰角礫岩、男助・外沢層は古雫石湖に堆積した緑色凝灰角礫岩や砂岩・泥岩等によって構成される。これらの岩石は雫石川河床に転石として見られ、繫V遺跡を含め雫石川流域の縄文時代遺跡では石器の石材として利用されている。なお、繫小中学校より南東約2kmの箱ヶ森北西斜面に露出する凝灰岩帯には、地元で「かざあな」と呼ばれる洞穴が位置する。



第26図 繫V遺跡の位置（1:50,000）

(2) 歴史的環境

周辺の遺跡 繫遺跡の位置する平石盆地。特に御所湖周辺には多くの遺跡が確認されており、後述するダム建設に係る発掘調査により、縄文時代を主体とした遺構・遺物が確認されている。

縄文時代 平石川南岸では、下猿田Ⅱ遺跡で縄文時代早期前半～末葉の遺物が確認され、上野遺跡では縄文時代前期初頭の堅穴建物跡が確認されている。中期中葉になると、繫Ⅴ遺跡において大規模な集落が形成されるが、中期末葉になると、繫Ⅲ遺跡、繫Ⅴ遺跡、繫Ⅶ遺跡、除Ⅱ遺跡で小規模な集落が営まれるようになる。縄文時代後期においては、下猿田Ⅰ遺跡、繫Ⅰ遺跡で堅穴建物跡が確認されている。

萩内遺跡では、山沿いの後背湿地から漁に使用する^{くわ}魚の遺構や弓などの木製品、人間の足跡などが確認されている。また、縄文時代後期～晩期の堅穴建物跡や墓坑が多く確認されており、大規模な墓域と居住域から構成される拠点集落だったと考えられる。

平石川北岸では、塩ヶ森Ⅰ遺跡で中期初頭の大規模堅穴建物跡をはじめ、中期中葉～末葉の堅穴建物跡が多く確認されている。また堂ヶ沢遺跡においても、中期末葉の堅穴建物跡が多く確認されている。

弥生時代 弥生時代以降の遺構は少ないながらも確認されており、繫Ⅵ遺跡において弥生時代前期の堅穴建物跡が2棟、弥生時代後期の墓坑が1基確認されている。また、弥生土器の正位の埋設土器も出土している。

古代 古代の遺構の確認例は少なく集落範囲等の詳しい様相はわかっていないが、平安時代の堅穴建物跡が繫Ⅴ遺跡、南ノ又遺跡、萩内遺跡などで少数であるが確認されている。繫Ⅴ遺跡で確認された堅穴建物跡の埋土からは十和田a火山灰（西暦915年降下）の堆積が確認されている。

中世 中世においては、繫Ⅲ遺跡で掘立柱建物跡や堅穴建物跡、方形周溝が廻る墓が確認されている。このほか、館市館遺跡、湯ノ館遺跡、萩内館遺跡、新城館遺跡などの城館が平石川を見下ろす山地縁辺に分布しており、それぞれの遺跡の特徴から、小規模な軍事施設、防衛的機能の強い施設、比較的居住性の高い施設といった役割があったものと推測される。これらの城館跡と繫Ⅲ遺跡で確認された中世遺構とは何らかの関係があったものと考えられる。

近世 盛岡から沢内を経由し秋田へ至る「沢内街道」にはいくつかの経路があり、このうち繫地区を通る経路は「湯坂道」とも呼ばれ、湯坂峠遺跡には湯坂峠閘門跡とされる切通しが残る。また周辺では街道の道筋が良く残されており、現在もその地形を確認することができる。

2 調査内容

(1) これまでの調査

繫遺跡は古くから土器や石器の出土があったが、一般に広く知られるようになったのは、昭和26年（1951）8月、繫小中学校（当時：岩手郡御所村大字繫字館市、御所中学校繫分校）校舎増築に伴う敷地造成工事の際に、縄文時代中期の底部穿孔土器7個体が出土したことによる。倒立した状態で発見されたと云われ、発見した7個体の土器のうち3個体は装飾性に富む文様が器

面全体に広がり、その美しさから東北地方を代表する縄文土器のひとつに数えられている。これらの土器は昭和63年に国の重要文化財に指定されている。

昭和32年の調査 昭和32年(1957)10月、校庭拡張に際して初の発掘調査が実施された。発掘調査は盛岡市教育委員会と岩手大学によって行われ、縄文時代中期の竪穴建物跡7棟と縄文時代中期から後期にかけての遺物が多量に出土した(昭和35年 草間俊一・吉田義昭〔岩手県盛岡市竪遺跡〕盛岡市公民館)。

昭和39年の調査 昭和39年(1964)4月、岩手大学の学術調査として実施された。未報告のため詳細は不明であるが、縄文時代の竪穴建物跡が数棟発見されたようであり、竪遺跡の濃密な遺構分布が知られるようになった。

御所ダム建設 昭和48年(1973)から昭和55年(1980)に至る8年間に御所ダム建設に伴う事前の緊急発掘調査が岩手県埋蔵文化財センターによって実施されたが、これに先立つ分布調査によって、盛岡市から雫石町にまたがる700ha用地内に37遺跡が確認された。

竪地区においても新たに7遺跡(竪I～VII遺跡、南ノ又遺跡)の所在が確認され、これまでの「竪遺跡」は「竪V遺跡」に変更されることとなった。御所ダム建設に伴う竪V遺跡の発掘調査は、昭和48年8月に行われ、縄文時代中期の竪穴建物跡11棟、土坑58基が発見された。出土遺物は縄文時代中期から晩期にかけての土器・石器が多量に出土しており、特に中期初頭から中葉にかけての遺物が主体的であった。

第1～37次調査 昭和58年(1983)より個人住宅など各種開発に伴う事前の緊急発掘調査を盛岡市教育委員会が行い、竪遺跡群(竪I～VII遺跡)全体で平成22年度までに37次に及ぶ緊急発掘調査を実施している。

発掘調査は主に遺跡南東部の住宅地で行われ、縄文時代中期から後期の竪穴建物跡と土坑が確認されている。特に平成4～6年度の第13・15次発掘調査、平成8年度の第21次発掘調査では、竪V遺跡の集落を知る上で重要な成果が得られた。

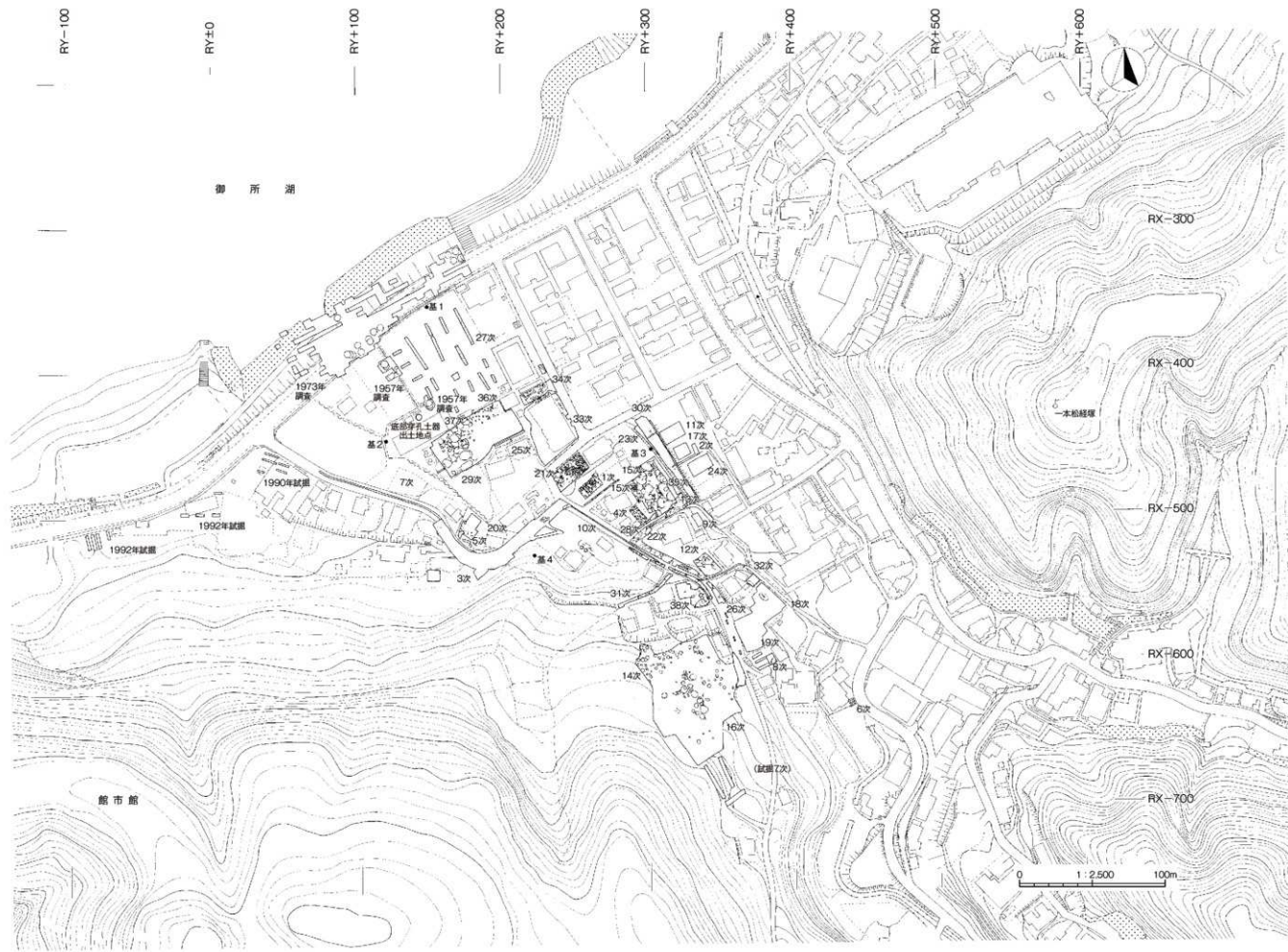
第13・15次発掘調査では縄文時代中期中葉～末葉、後期初頭の竪穴建物跡が重複した状態で72棟発見されたことから、長期間集落が継続していたことが明らかになり、約46,000㎡の台地全体が縄文時代中期の大規模集落であることが確認された。

遺跡の北東段丘縁辺に調査区がある第21次発掘調査では、第13・15次調査区と近接していながらも様相が異なり、縄文時代中期の土坑が134基確認された。土坑の多くは楕円形を呈し、内部よりヒスイ製玉類など、特殊な遺物が出土したことから土坑墓群であることが考えられる。また、第34次調査区においても第21次調査と同様に土坑墓と考えられる土坑が88基発見されたことから、第13・15次調査区より北西に位置する第21次調査区付近から第34次調査区付近にかけての北東段丘縁辺に墓域が広がることが明らかにされた。竪穴建物跡は昭和48年度調査区北東部、第12・13・15・36次調査区の竪穴建物跡発見状況を見る限り、墓域を中心とした扇状の住居域が展開していることが確認されつつある。

また、第29・33・34・36・37次調査では竪穴建物跡内外より多量の石器類が出土しており、磨製石斧や断面三角形を呈した所謂「石冠」の未完成品や破損品もあることから、集落内で加工されていたと推測される。竪地区は石材採取が容易な立地であることから、周辺遺跡への石材供給や遺跡内での石器製作が盛んに行われていた集落であったと考えられる。

次数	所在地	調査原因	面積 (㎡)	期間	検出遺構・遺物
昭和32年	-	学校建築	-	1957.10.12-1957.10.15	縄文竪穴建物跡7
昭和39年	-	学術調査	-	1964.04.10-1964.04.15	縄文竪穴建物跡
昭和48年	磐字館市地内	ダム建設	5,500	1973.08.01-1973.12.29	縄文中期竪穴建物跡11、土坑58
昭和52年	磐字館市地内	ダム建設	6,600	1977.04.18-1977.07.21	縄文集落、弥生後期土器
1	磐字館市76-7	個人住宅建築	123	1983.06.12-1983.07.23	縄文中期竪穴建物跡2、土坑36、大型柱穴10
3	磐字館市内沢地内	市道改良	800	1983.10.03-1983.10.15	縄文中期竪穴建物跡1、土坑3、遺物包含層
4	磐字館市75	個人住宅建築	75	1985.11.07-1985.12.05	縄文中期竪穴建物跡5、縄文後期竪穴跡2、土坑13
6	磐字館市1-1	個人住宅建築	17	1986.04.15	縄文中期遺物散布
7	磐字館市地内	公共下水道整備	130	1988.05.24-1988.05.30	遺構・遺物なし
8	磐字館市60-6	個人住宅建築	76	1989.04.27-1989.05.02	縄文中期竪穴建物跡1
9	磐字館市70-3	共同住宅建築	48	1990.04.09-1990.04.21	縄文中期遺物包含層
10	磐字館市97外	温水管敷設	40	1990.10.01-1990.10.06	縄文中期竪穴建物跡3、土坑3、遺物包含層
12	磐字館市70-1	個人住宅建築	172	1991.08.26-1991.10.17	縄文中期竪穴建物跡8、遺物包含層、古代竪穴建物跡1、土坑2
13	磐字館市75-1	共同住宅建築	320	1992.06.15-1992.09.30	縄文中期竪穴建物跡32、土坑13、古代以降竪穴跡1
15	磐字館市76-1外	個人住宅建築	649	1993.04.26-1993.10.20	縄文中期竪穴建物跡46、土坑32、獨立柱建物跡1、縄文早期～後期遺物包含層
15(補足)	磐字館市75-1	上下水道管敷設	25	1994.04.18-1994.04.23	縄文中期竪穴建物跡7、土坑5
16	磐字館市内沢93-1	旅館建築	1,705	1993.07.05-1993.09.20	縄文中期竪穴建物跡8、土坑59、近世以降土坑1
18	磐字館市60-1	擁壁改良	144	1994.07.21-1994.08.01	縄文中期竪穴建物跡1、縄文前期～弥生遺物包含層
19	磐字館市60-1	個人住宅建築	645	1995.07.03-1995.07.28	縄文中期以降ピット群、縄文中期～晩期遺物包含層
21	磐字館市121-2	個人住宅建築	153	1995.09.04-1995.09.14	縄文中期竪穴建物跡1、竪穴跡1、弥生前期竪穴建物跡2、土坑2、焼土遺構1、縄文中期～弥生前期遺物包含層
22	磐字館市地内	歩道補修	210	1997.02.03-1997.03.12	縄文中期竪穴建物跡12(検出のみ)、縄文遺物包含層
23	磐字館市78外	道路建設	523.3	2002.06.24-2002.08.09	縄文早期～中期遺物包含層、土坑、埋設土器(検出のみ)
25(試掘)	磐字館市114-1外	学校増改築	73.5	2002.11.11-2002.11.13	縄文中期竪穴建物跡6、遺物包含層、近世供養跡1(検出のみ)
26	磐字館市78	道路建設	535	2003.05.09-2003.12.12	竪穴建物跡38、土坑15、竪穴跡2、焼土遺構2、溝跡2、土取り跡1、遺物包含層
27(試掘)	磐字館市114-1	学校建築	299	2003.10.06-2003.10.14	竪穴建物跡、遺物包含層
28	磐字館市78外	道路建設	200	2004.04.12-2004.10.20	竪穴建物跡29、土坑7、ピット53、遺物包含層
29	磐字館市114-1	学校建築	17	2004.09.07-2004.10.20	縄文竪穴建物跡2、竪穴跡1、土坑2、ピット18、遺物包含層
30	磐字館市78地内	道路建設	619	2005.04.11-2005.09.22	縄文中期土坑2、埋設土器2、縄文前期～中期遺物包含層、近世墓坑2
32	磐字館市6-20	車庫建築	25	2006.09.01-2006.09.12	縄文竪穴建物跡1
33	磐字館市114-1	学校建築	2,144	2006.10.02-2006.10.31	縄文土坑19、ピット44
34	磐字館市114-1	学校建築	288	2007.09.18-2007.11.30	縄文竪穴跡1、土坑88、ピット284
35	磐字館市75-1	個人住宅建築	16	2008.05.13-2008.05.28	遺物包含層
36	磐字館市114-1外	学校建築	2,480	2008.09.25-2008.12.24	縄文竪穴建物跡66、竪穴跡1、土坑64、埋設土器7、ピット388、平安竪穴建物跡1
37	磐字館市114-1外	学校建築	18	2010.07.05-2010.07.13	竪穴建物跡1、ピット1
38	磐字館市内沢94-1	個人住宅建築	198	2018.07.19-2018.09.19	縄文竪穴建物跡2、竪穴跡2、土坑3、焼土遺構2、ピット6、遺物包含層

第10表 磐V遺跡調査一覧



第27図 繫V遺跡全体図

(2) 平成 30 年度の調査

繫V遺跡における平成30年度の調査は、国庫補助事業として実施した第38次調査で、個人住宅新築工事に伴う調査である。平成30年3月、本報告の当該箇所における個人住宅建築工事に関する事前協議が持たれた。当該箇所周辺は、過去に隣接する道路拡幅工事に係る発掘調査（第26次）により、縄文時代中期の竪穴建物跡が複数確認されていることから、当該箇所にも縄文時代の遺構・遺物が存在していることが予想され、工事着手前の発掘調査が必要と判断し、平成30年度に本調査を実施した。

発掘調査 本調査の範囲は当初、住宅部分のみの計画であったが、現地協議にてガレージ部分の基礎が遺構検出面まで達することが判明したため、調査範囲に含めた。また、住宅部分北側の地形は傾斜しており、遺物包含層が深く入り込んでいたが、住宅の基礎部分が上層の盛土中で取まることから、掘削制限を設けて保存措置とした。

調査期間は平成29年7月29日～9月19日で、調査面積は198.3㎡である。

位 置 繫V遺跡第38次調査区は、繫V遺跡の中央部付近よりやや南東側の、北東に向かって傾斜する段丘斜面部に位置する（第27図）。調査区南東側以外は遺物包含層（Ⅱ層）に覆われており、縄文時代中期前葉から中葉の遺構検出面は、遺物包含層よりも下層に堆積するⅢ層上面である。遺構検出面の標高値は、198.400 m～199.400 mである。

基本層序 基本層位は、色調や混入土等の違いによってⅠ～Ⅳ層に大別される。

Ⅰ層は表土で、現代までの斜面掘削時の盛土あるいは畑の耕作土である。

Ⅱ層は黒褐色土を主体とし、混入土の含有率と密度の状況によりa・b層に細分される。Ⅱa層は硬く締まりがあり、地山由来の黄褐色土が混入する。Ⅱb層は黄褐色土がⅡa層よりも多く混入し、やや黒色土の割合も多くなる。Ⅱa・b層ともに縄文時代中期中葉を主体とする土器・石器の遺物を多量に含むが、各層ともに後期～晩期に属する土器も少量ながら含んでいることから、概期の遺物包含層である。

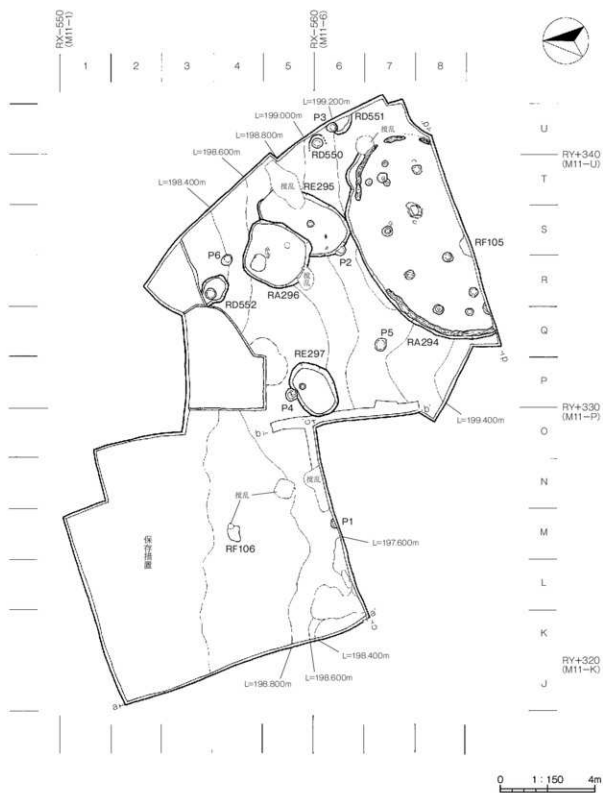
Ⅲ層は黒色土を主体とし、締りのない所謂黒ボク土に近い様相を呈する層である。前期初頭および中期前葉の土器を含む。

さらに、Ⅳ層は粘性の高いにぶい黄褐色土を主体とする層である。なお、少量であるが前期初頭の土器が出土している。

検出状況 第38次調査区南東部以外は基本層序のⅡ層に覆われており、この層を掘下げた後のⅢ層上面で検出作業を行った。

検出遺構 第38次調査で検出された遺構は、縄文時代の竪穴建物跡2棟（RA 294・296）、竪穴跡2棟（RE 295・297）、土坑3基（RD 550・551・552）、焼土遺構2基（RF 105・106）、ピット6口である（第28図）。

出土遺物 遺物の時代・時期は縄文時代中期前葉～中葉の土器・石器が主体で、前期初頭、後期初頭・中葉、晩期の遺物が少量出土している。



第 28 図 藪 V 遺跡第 38 次調査 全体図

(3) 発見した遺構と遺物（竪穴建物跡・竪穴跡）

縄文時代の竪穴建物跡2棟と竪穴跡2棟が発見されている。竪穴建物跡が集中するのは調査区の南東部で、背後の山地から続く斜面が若干緩くなる箇所である。竪V遺跡全体でみると、遺跡の南東側縁辺部にあたる。

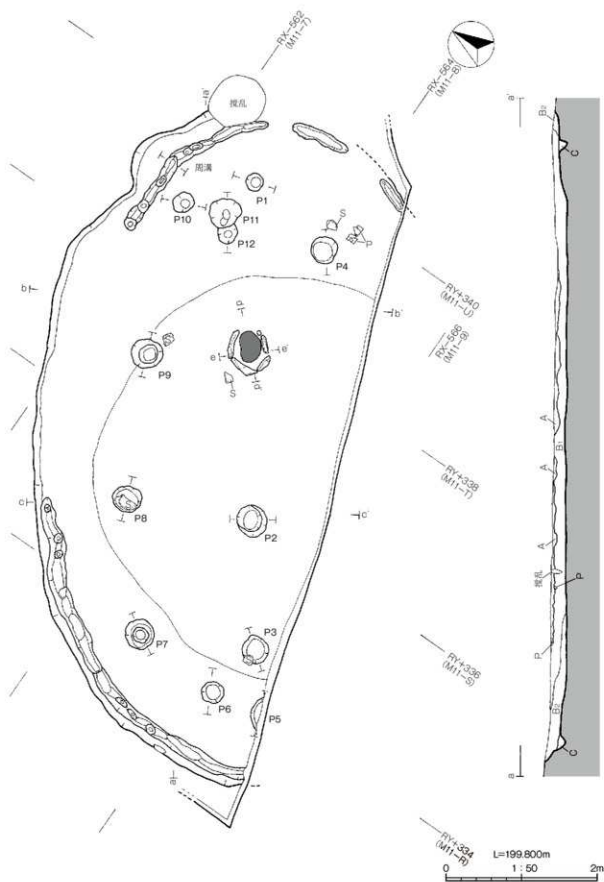
RA294竪穴建物跡（第29・30・31・32図）

時期	縄文時代中期中葉	位置	調査区南東部	平面形	楕円形
規模	長軸約9.0m、短軸約5.8m、深さ0.10～0.26m				
主軸	東北東～西南西	重複遺構	RE295に切られる		
検出面	Ⅲ層上面	床面の状態	ほぼ平坦		
石囲炉	底部を欠いた粗製の深鉢が正立の状態でも埋設される（第31図1）				
柱穴等	24口が発見されている。このうち柱穴はP2・4・5・6・7・8・11・12で、P5・11と石囲炉が中軸を構成すると考えられる。また、P1・3はピットである。				
埋土	住居の埋土はA・B層に大別され、さらに周溝のみに堆積するC層があり、さらに、処理土や柱穴・ピットの埋土に分かれる。竪穴の埋土は自然堆積で、A層は上部だけに堆積し、粉～粒状の黒褐色土をわずかに含む黒色土。埋土の大半を占めるB層は粒状の褐色土粒を含むしまりのよい黒褐色土で、B ₂ 層は混入土がやや多い。				

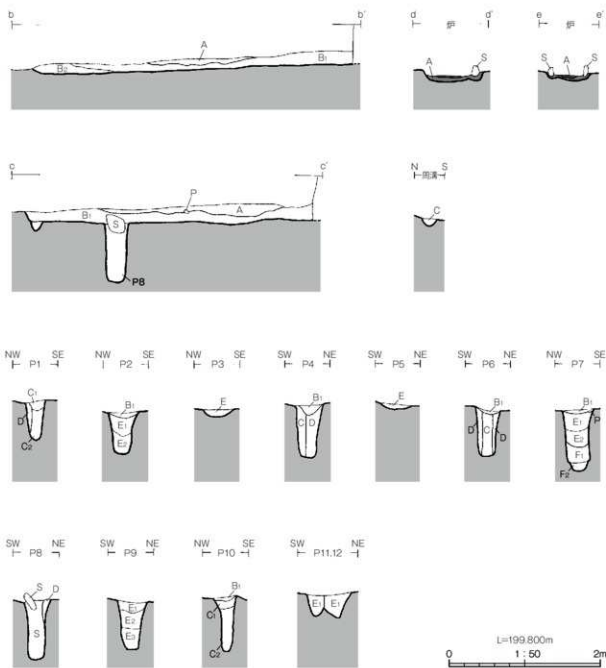
また、周溝にだけ堆積するC層は黒褐色土粒をわずかに含む褐色土で壁の崩壊土とも考えられる。炉の内部は0.4～0.8cmの熱浸透層が認められた。柱穴のうち柱痕跡が認められたのはP2・6・8・11で褐色土をわずかに含む黒褐色土。掘方埋土やピットは褐色土である。

土器・土製品（第31図1～12） 住居に伴う遺物は、炉に埋設された土器のほかに床面中央から然糸を施した深鉢の口縁部の小片がある。1は炉に埋設された深鉢である。体部上半・下半を欠き、器面には縦位の単節縄文を施し、体部と頸部の境には隆線でごく区画して頸部下半には隆沈線でごく文様帯を施す。2～6はB層、7～10はA層から出土している。2は口縁部の隆線に刻目を連続させる深鉢で、頸部には横位の沈線を施す。3は口縁部から頸部にかけて隆線でごく区画し、その内部に原体圧痕を施す深鉢。4は単節斜縄文の体部に隆線を貼り付け、その縁に原体を圧痕する深鉢土器の体部の破片である。5は横位の隆線を貼り付けて施文する深鉢の口縁部。6は頸部に隆線を貼り付け、その隅縁に原体を圧痕する深鉢の体部破片。7は体部に複節斜縄文を施して隆線を貼り付け、さらにその上に縄文を施す間に半截竹管を連続する深鉢。8は横位の沈線に原体圧痕を施す深鉢の口縁部の破片。9は体部破片。10は口縁部が無文帯となる口縁部の破片。11は深鉢の体部破片で、複節斜縄文の体部に横位の沈線を施す口縁部の破片。12は深鉢の体部破片を打ち欠いた土製円盤で、体部には複節斜縄文が施される。

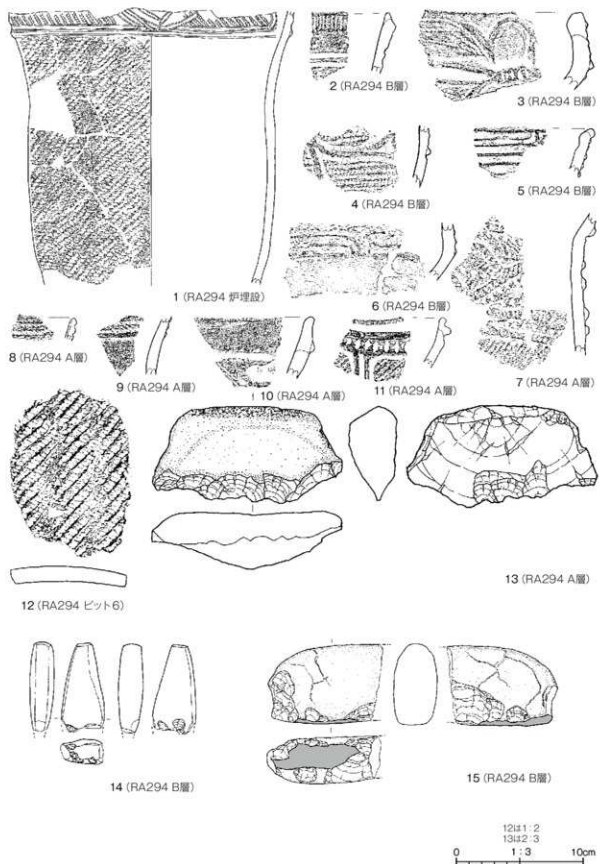
石器（第31・32図13～16） 13は両面に大きな剥離で調整した頁岩製の両面調整石器で、自然面と主要剥離の打面を残す。14は緑泥片岩製の磨製石斧で刃部は使用により欠損している。15は敲打磨石。16はピット6の埋土から出土した石皿である。



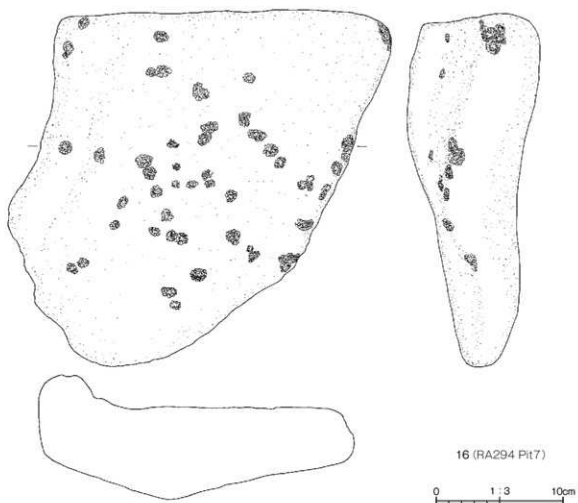
第29図 RA 294 壑穴建物跡 (1)



第 30 圖 RA 294 豎穴建物跡 (2)



第31図 RA294 竪穴建物跡出土土器・土製品



第32図 RA294 豎穴建物跡出土石器

RE295 竪穴跡 (第33・35図)

時期	中期中葉	位置	調査区東部中央	平面形	不整形円形
規模	長軸3.78 m、短軸2.26 m、深さ0.14～0.22 m	主軸	北東～南西		
重複遺構	RA 296 に切られる	検出面	Ⅲ層上面	床面の状態	平坦
柱穴等	床面中央に1口(P1)を発見した				
埋土	層相の違いによりA～D層に大別され、A～C層は自然堆積の竪穴埋土、D層はピット埋土である。A層は粒～粉状のふい黄褐色土をわずかに含む黒褐色土。B層は細かい粒状のふい黄褐色土と暗褐色土を含む黒褐色土である。平面形の北側だけに堆積するC層は、粉～粒状の黒褐色土と暗褐色土を含む黒色土。ピットの埋土D層は、粒～塊状の黄褐色土をやや多く含む黒褐色土である。				

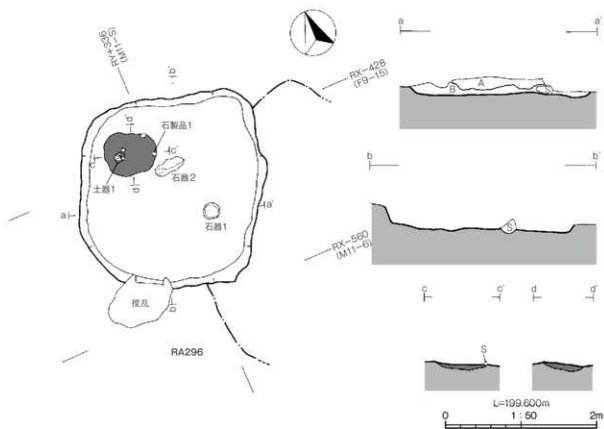
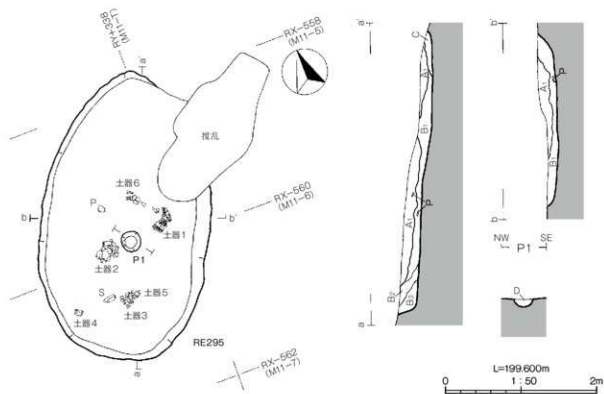
遺物の出土状況 床面から6個体が集中して出土している。

土器 (第34図1～5、35図6～12) 1～6は床面、12はA層、他はB層から出土している。1は床面東側から出土した深鉢で、体部から直線的に口縁部が開くキャリバー形土器である。単節斜縄文を施した体部には口縁部には4個の小突起を持ち、口唇部から体部には鋸歯状や字状の曲線や直線を意識した隆線で区画する。2もキャリバー形土器で、体部の地文は複節斜縄文で施文した後にS字状の隆線を貼り付ける。頸部から口縁部には直線や曲線の隆線の中に縦方向の原体を圧痕する。3は小型のキャリバー形深鉢で口縁部には弁状突起を持つ。焼成不良のためか地文が摩滅しているが、複節斜縄文を施す。頸部から口唇部にかけて曲線の隆線を貼り付け、この下端には原体圧痕文を施す。4も小型の深鉢で、頸部から上部を欠損する。体部には単節斜縄文に隆線を貼り付け原体を圧痕する。5は口唇部に小突起を持つ小型の深鉢で、体部には単節斜縄文を施し、頸部から口縁部には2条の隆線を貼り付け、その下端は沈線で縁取る。6～12は拓本である。6は粗製の深鉢で、体部に単節斜縄文を施す。7・8は小型深鉢の体部で、ボタン状の貼り付けに刻目を付け、地文に隆線線で区画する。9・10・11は原体圧痕文を施す小型深鉢の口縁部で、10の平縁の口唇部には小突起を持つ。11はC字状の沈線がある。12は単節斜縄文を施す深鉢の体部で、直線と曲線による沈線で区画する。

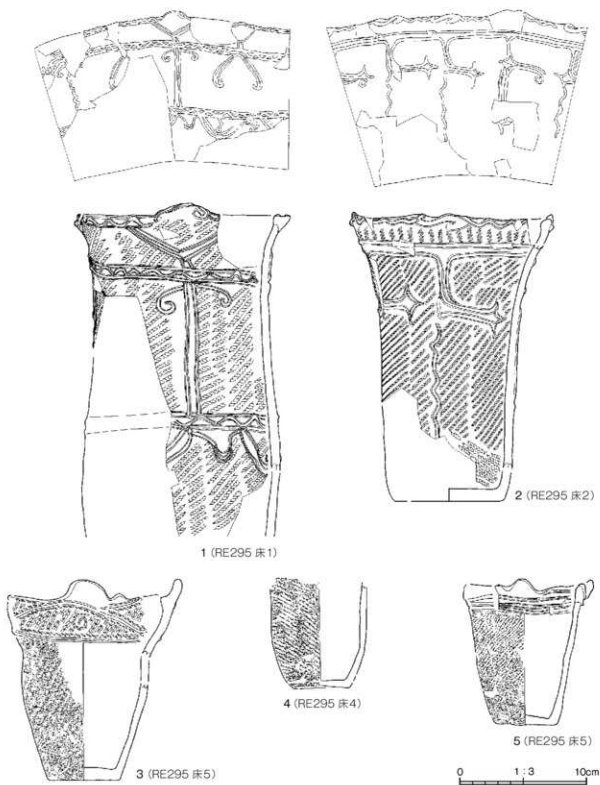
石器 (第35図13・14) 13は床面から出土した調整の単位が大きい頁岩製の両面調整石器である。14は片面だけに細かい擦痕を持つ砂岩製の砥石破片である。

RA296 竪穴建物跡 (第33・35図)

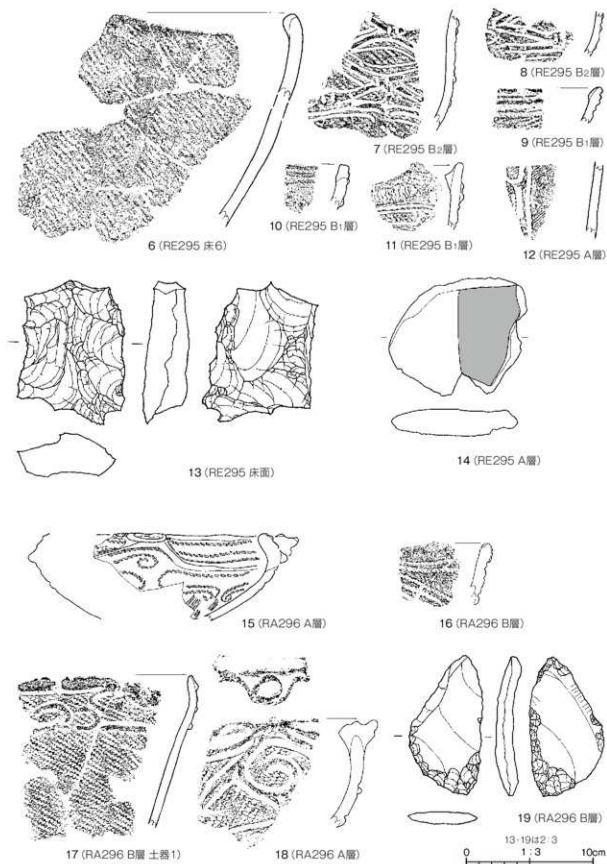
時期	中期中葉	位置	調査区中央	平面形	不整形円形
規模	長軸2.94 m、短軸2.47 m、深さ0.08～0.24 m	重複遺構	RA 295 を切る		
検出面	Ⅲ層上面	床面の状態	ほぼ平坦	地床炉	不整形 柱穴等 なし
埋土	住居埋土は、A層とB層に大別される。A層は粉～粒状の黄褐色土をやや多く含むシルト質の暗褐色土で、B層は粉～粒状の暗褐色土を若干含む黒褐色土でカーボン粒を少量含む。なお、地床炉の規模は55～69 cmで熱浸透層の厚さは最深部で8 cm程である。				
出土土器	(第35図15～19) 15・18はA層、16・17はB層から出土している。15は口唇部に4個の弁状突起を有する浅鉢で、体部には地文に逆J字状に原体圧痕文、肉厚な頸部から口縁部にかけても圧痕を施す。16は原体を圧痕する小型深鉢の口縁部である。				



第33図 RE295竪穴跡, RA296竪穴建物跡



第 34 圖 RE 2 9 5 豎穴跡出土土器 (1)



第35圖 RE295竪穴跡出土土器(2)・石器, RA296竪穴建物跡出土土器

17はキャリバー形深鉢で、体部には単節斜縄文を施し頸部にはC字状に隆線を貼り付けて、その下端を沈線で調整する。また、口唇部には刻目が連続する18は肉厚な口縁部には弁状突起を設け、弧状や円形の隆線を貼り付ける深鉢の口縁部で、体部は複節斜縄文に渦巻の隆沈線で区画する。

出土石器 (第35図 19) 19は両面の側縁から下端にかけて細かい刻離調整する頁岩製の削器である。

RE297 堅穴跡 (第36・38図)

時期 中期中葉 **位置** 調査区中央 **平面形** 楕円形

規模 長軸2.30m, 短軸1.55～1.62m, 深さ0.26～0.68m

重複遺構 なし **検出面** Ⅲ層上面 **床面の状態** ほほ平坦

埋土 堅穴の埋土は、基本的に自然堆積で層相の違いによりA～C層に大別される。A層は紛・粒～塊状の黄褐色土を若干含むやや硬質な暗褐色土である。B層は堅穴の東側だけに偏して堆積する層で、塊状の黄褐色土をわずかに含む黒褐色土。C層は堅穴床面から下半部に堆積する層で、粒～塊状の黒褐色土をやや多く含む黒色土である。なお、カーボン粒を微量に含む。D層はピット埋土で、粒～塊状の黒褐色土をやや多く含む褐色土である。

出土石器 (第38図 1～8) 図示した土器はすべてC層から出土している。1は口縁部から体部にかけて横位から垂下する原体瓦痕文により大きく8区画し、さらにその間に小さな原体瓦痕文で区画する浅鉢である。体部は斜縄文が施される。2は口唇部に小さな4個の小突起を有する小型のキャリバー形深鉢で、全体に斜縄文を施し体部と頸部を隆沈線で区画する。頸部は蕨状の沈線で施文する。3・4は同一個体の小型深鉢の口縁部から体部上半部で口縁部下には2条の原体を押圧して巡らせ、体部には単節斜縄文を施す。5も口縁部下に2条の原体瓦痕文を押圧するが、さらに体部の単節斜縄文の上に隆線を貼り付け、その側縁に原体を押圧する小型深鉢。6は横位2条の原体瓦痕文。7は縦位2条の原体瓦痕文を施す小型深鉢の口縁部。8は体部に隆沈線で区画し、その側縁に原体を押圧する小型深鉢である。

出土石器 C層から剥片が1点出土している。

(4) 発見した遺構と遺物 (土坑)

RD550 土坑 (第36・37図)

時期 中期中葉 **位置** 調査区東端中央 **平面形** 楕円形

規模 直径0.60m, 深さ0.38m

重複遺構 なし **検出面** Ⅲ層上面 **底面の状態** 揺鉢状

埋土 層相の違いによりA・B層に大別される。A層は紛～粒状の褐色土をわずかに含む黒色土。B層は紛～粒状の褐色土を含む黒褐色土で、さらにしまりが良いB₂層に分かれる。出土遺物はない。

RD551 土坑 (第36・37図)

時期 中期中葉 **位置** 調査区東端中央 **平面形** 楕円形

規模	長軸 0.96 m 以上、短軸 0.54 m 以上、深さ 0.38 m
重複遺構	なし 検出面 Ⅲ層上面 底面の状態 掘鉢状
埋土	自然堆積で、褐色土粒をわずかに含む暗褐色土で、混入土がやや多いA ₂ 層とに分かれる。
出土遺物	A ₂ 層から頁岩製の剥片が1点出土している。

RD552土坑 (第36・37図)

時期	中期中葉	位置	調査区北東部	平面形	楕円形
規模	長軸 1.49 m 以上、短軸 1.01 m、深さ 0.62 m				
重複遺構	なし	検出面	Ⅲ層上面	底面の状態	壁際に段差をもって平坦
埋土	自然堆積で、層相の違いによりA・B層に分かれる。A層は褐色土粒を多く含む黒褐色土。B層が黄褐色土をわずかに含む褐色土である。				
出土土器	体部に斜縄文を施し胎土に繊維を含む深鉢の体部がA層から2点出土している。				

(5) 発見した遺構と遺物 (焼土遺構)

RF105焼土遺構 (第36・37図)

時期	時期不詳	位置	調査区南端中央	平面形	不整楕円形
規模	長軸 1.12 m 以上、短軸 0.36 m 以上				
重複遺構	なし	検出面	I層下面のRA 294	発見面	
熱浸透層	厚さ 6～12 cm	出土土器	なし		

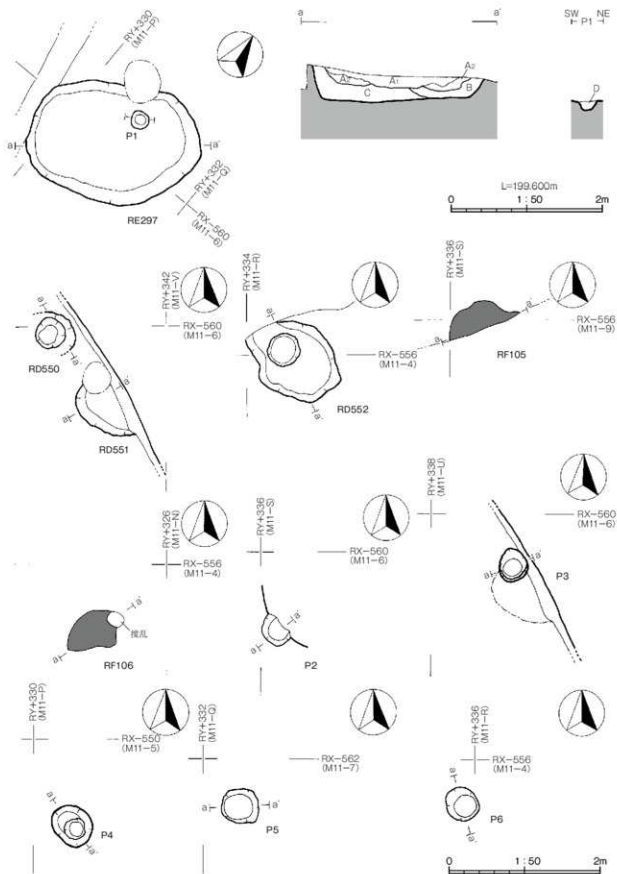
RF106焼土遺構 (第36・37図)

時期	時期不詳	位置	調査区北西部中央	平面形	不整楕円形
規模	長軸 0.84 m、短軸 0.54 m	重複遺構	全体形の北東を攪乱される		
検出面	Ⅲ層上面	熱浸透層	厚さ 7 cm	出土遺物	なし

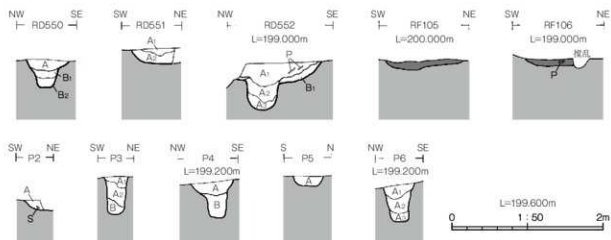
(6) 発見した遺構と遺物 (ピット)

調査区内からピット6口発見している。(第28・36・37・39図)

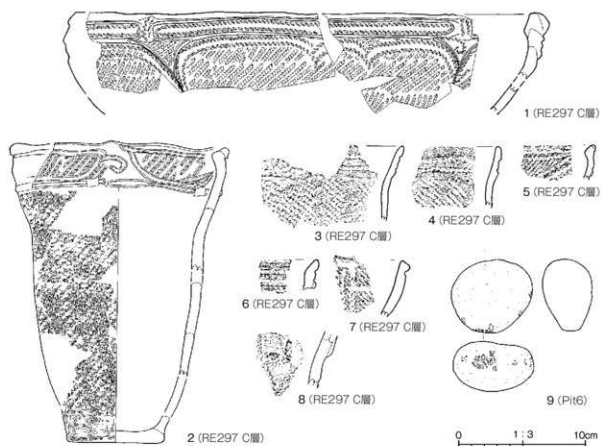
時期	不詳	位置	調査区南東部に集中	平面形	円形
規模	P1 - 直径 0.28 m、深さ 0.49 m、P2 - 直径 0.42 m、深さ 0.10 m、P3 - 直径 0.42 m、深さ 0.48 m、P4 - 直径 0.58 m、深さ 0.48 m、P5 - 直径 0.53 m、深さ 0.11 m、P6 - 直径 0.44 m、深さ 0.47 m				
重複遺構	なし	検出面	Ⅲ層上面		
埋土	黒色土～黒褐色土を主体とするものが多い。				
出土土器 (第38図9)	ピット6の埋土から敲石が出土している。				



第36図 RE297 竪穴跡, RD550・551・552土坑(1), RF105・106焼土遺構(1), ビット(1)



第37図 RD550・551・552土坑(2), RF105・106焼土遺構(2), ピット(2)



第38図 RE297竪穴跡出土石器, ピット6出土石器

(7) 遺物包含層等

遺物の出土状況 (第 28・39 図) 整V遺跡第38次調査では、縄文時代前期から弥生時代にかけての遺物が確認された。発見した竪穴建物跡・竪穴跡・土坑の年代は、出土した土器からいずれも縄文時代中期前葉から中葉の遺構である。これらの遺構を発見した層位は、遺物が縄文時代前期の遺物が含層されるⅢ層上面であるが、この下層のⅣ層には前期前葉の遺物が包含されている。また、上層のⅡb層とⅡa層には縄文時代前期から晩期にかけての遺物が包含されている。また、調査区北西部で確認した自然の落込みや表土であるⅠ層や遺構外からは縄文時代前期から弥生時代の土器が出土している。

出土した土器を時期ごとに小グリッドの地点(例言《遺物の表現について》参照)をみると、Ⅳ層からの胎土に繊維を含んだ所謂前期の土器2点は、RD 552南側のH 11(以下略)・R 4に集中し、Ⅲ層では同じく前期前葉の土器は、L 4・M 4・R 4・S 4に各1点とM 5から2点の計6点が出土しており、特に集中箇所は見出せない。このことからⅣ・Ⅲ層は縄文時代前期前葉の遺物包含層に位置付けられる。

Ⅱb層では、前期前葉の土器30点の出土地点は、RD 552南側のR 4やO 4・O 5から4～5点が集中して出土するが、他は南北3～6ラインの各グリッドで1～3点が出土している。同じくⅡb層での中期前葉の大木7a式土器7点は、調査区西半部に集中し、さらに中期中葉の円筒上層式の土器11点は、調査区中央のO 4・O 5にやや集中している。また、同じく大木8a式の土器28点は、調査区中央から西半部にかけて散在し、特にK 4・L 4からは各10点が出土している。さらに、大木8b～9式の土器6点は、L 4から3点、O 5から2点、S 4から1点出土している。また、縄文時代後期の土器3点は、L 4から2点、P 5から1点。さらに縄文時代晩期の土器3点はいずれもK 5から出土している。

Ⅱa層から縄文時代前期前葉の7点の土器は、調査区内から均一に出土しており偏在は認められない。また、中期初葉の大木7a・7b式の土器9点は、南半部調査区西側のP 6の4点、Q 4の3点に集中し、N 3からは2点出土しており、円筒上層式の土器2点もP 6とM 3から出土している。また8a～8b～9式の土器20点は、いずれも調査区中央部のO 5からR 5付近から出土している。このことからⅡa層とⅡbはともに縄文時代晩期に形成された遺物包含層とみられる。

石器は、R 4のⅣ層から1点。Ⅲ層からはN 4・R 4から2点。Ⅱb層からは調査区中央部のO 5・P 5・Q 5付近とK 4・L 4に集中して出土し、Ⅱa層からは、Q 5・R 5に集中している。

以上のように、遺物の集中から調査区中央部のP 6を中心とする4m四方の区域内には、縄文時代中期前葉から中葉の遺構。調査区西半部南西隅には縄文時代晩期の遺構が存在した可能性がある。

Ⅳ層出土土器 (第40図1・2) 1は口唇部が平縁に作り出される深鉢の口縁部で、2は個体の異なる体部の破片である。ともに体部には斜縄文を施し、胎土には繊維を含む。

Ⅲ層出土土器 (第40図3～8) いずれも胎土には繊維を多量に含む。3～7は深鉢の体部、8は小型深鉢の体部である。特に5・8は地文には条と節が整然と表出する所謂「びっちり縄文」である。

II b 層出土土器 (第 40 図 9～45, 第 41 図 46～76, 第 42 図 77～79, 第 43 図 80～84, 第 44 図 85～96) 9 から 36 は、いずれも胎土には繊維を多量に含む縄文時代前期に位置づけられる深鉢で、9～11 は口縁部、他は体部の破片である。地文には条と節が整然と表出する所謂「びっちり縄文」が施される。37・38 は小型深鉢の口縁部と体部で、斜縄文を施した後に原体を圧痕する。胎土に繊維は含まない。

39 から 90 は縄文時代中期に位置づけられる土器である。39 は深鉢の体部に網目状隆線が貼り付けられる。

40 から 44 は大木 7 a 式の土器で、44 までが深鉢の口縁部である。40 の口唇部には小突起があり、体部は隆線と原体が圧痕される。41 は沈線に原体を圧痕し、42 は連続する短い沈線と隆線で施文する。43・44 は地文に原体を圧痕する。

45 から 52 は円筒上層 C 式の影響が見られる深鉢である。45 は体部に羽状縄文を施文し、46 から 49 は口縁部で波状隆線を貼り付け、原体を圧痕して施文する。50・51 は体部で、地文に隆沈線を貼り付け、原体を圧痕する。52 は口縁部の破片である。

53 から 56 は円筒上層 C 式と大木 8 a 式の影響が認められる深鉢の口縁部である。53 は波状隆線、54 は波状隆線に刻目、55・56 は C 字状突起を持つ深鉢で、地文に隆沈線を貼り付けて施文する。57 から 76 は口縁部である。57 は口縁部に刺突列を施す深鉢で、体部は地文に沈線で施文する。58 は口唇部に刻目を施し隆線で施文する。59 は口縁部に刺突列で地文に沈線で施文する。60 は隆線に原体を圧痕する。61 は浅鉢の口縁部で、地文に原体を圧痕する。62 は深鉢の口縁部で、地文に隆線を貼り付けて原体を圧痕する。63 は浅鉢の口縁部で地文、原体を圧痕する。64 から 79 は深鉢の口縁部で、64 は地文に原体圧痕。65 は波状隆線に刻目、66 は S 字状突起を持ち、隆沈線で施文する。67 は地文に隆沈線、68 は地文に沈線で施文し、渦巻状の把手を持つ。69 は地文や沈線による渦巻文を施す。70 から 72 は地文に隆沈線で施文、73 は連続する短い沈線で施文、74 は地文に沈線による渦巻文、75 は地文に渦巻状の隆沈線で施文、76 は波状隆線に渦巻文、77・80・81 はキャリパー形深鉢で、地文に隆沈線の渦巻で施文する。78 は深鉢の体部で、地文に隆沈線で施文、79 は体部に隆線渦巻を施文する体部、83 は浅鉢の口縁部で地文に隆沈線で施文する。

84 から 88 は大木 8 b 式に相当する土器である。84 は深鉢の口縁部で、裝飾把手を持ち、隆沈線で施文する。85・86 は深鉢の体部で、地文に沈線で施文、87 は深鉢の体部から底部で地文に沈線で施文、88 は深鉢の体部で、地文に隆沈線の渦巻で施文する。89 は大木 9 式の深鉢の口縁部で、地文に隆沈線渦巻で施文する。90 は深鉢の口縁部から底部である。

91 から 93 は縄文時代後期に位置づけられる土器である。91・92 は深鉢の口縁部で、隆線に刺突列、92 は平行沈線で施文する。93 は深鉢の体部で、やはり平行沈線で施文する。

94 から 96 は縄文時代晩期の鉢口縁部で、しだ状文で施文する。

II a 層出土土器 (第 45 図 97～126, 第 46 図 127～141) 97 から 103 は縄文時代前期の深鉢で、いずれも胎土に繊維を含み体部には条と節が整然と表出する所謂「びっちり縄文」が施される。97 は尖底部でその他は体部である。

104 から 106 は縄文時代前葉大木 7 a 式の深鉢形土器の口縁部である。地文に平行沈線や刺突列、原体圧痕で施文する。

107 から 112 は大木 7 b 式の深鉢で 109 は体部でその他は口縁部である。竹管刺突、原体圧痕、

隆線に刻目、刺突押しで施文する。なお、112の口縁部には小突起を貼り付ける。

113から114は円筒上層C式の深鉢形土器で、113の口縁部には隆線に刻目を施し、さらに原体を圧痕する。114は体部で、羽状縄文に原体を圧痕する。

115から132は中期中葉の大木8a式の土器で、123・124・130・131は深鉢形土器の体部から底部、その他は口縁部である。115は地文に隆沈線で施文し、隆線には刺突を施す。116も口縁部に刺突、117は口縁部に渦巻の隆線で施文し、原体圧痕を施す。118の口縁部にはC字状突起を設け、原体を圧痕する。119は地文に隆沈線渦巻を施文し、原体を圧痕する。120は隆沈線渦巻で施文し、原体を圧痕する。121は渦巻沈線、122の浅鉢の口縁部は隆線で区画し、原体を圧痕する。なお、122には炭化物の付着が認められる。123は波状の隆沈線で区画する。124の体部から底部は縦の隆線で区画し、網代底である。125は地文に波状と渦巻の隆線で区画する。126は地文に平行の沈線で施文し、127の口縁部は地文にS字状の隆沈線で区画する。128の口縁部にはS字状の突起を設け、刻目を施す。129は装飾把手を設け、平行や渦巻の沈線で区画する。130の体部は地文に渦巻の沈線で区画する。131は浅鉢の体部から底部で、地文に沈線で施文する。132の口縁部は地文に波状隆沈線で区画する大木8b式の深鉢である。

133・134は大木9式の深鉢の口縁部と体部である。133には渦巻の把手、134には地文に渦巻の沈線で区画する。135から137縄文時代後期の深鉢の体部で、いずれも地文に沈線で施文する。また、141は粗製の深鉢の体部～底部である。

138から140は縄文時代晩期の深鉢口縁部で、地文に沈線で区画する。138・140の口唇部に刻目、139にはカーボンが付着している。

遺構外、落込み、表土出土土器（第47図142～163） 142から145は縄文時代中期の遺構から出土した縄文時代前期の深鉢形土器の体部で、142はRA 296、143がRE 297、144・145はRD 552から出土した。いずれも胎土に繊維を含み、地文には条と節が整然と表出する所謂「びっちり縄文」が施される。146はRF 105の熱浸透層から出土した縄文時代中期の深鉢形土器の体部で、地文に2条の平行沈線で施文する。

147から154は西側調査区南西隅の落込みから出土した土器で、147は縄文時代前期の土器で胎土に繊維を含む。

148から151は縄文時代中期の大木8a式の深鉢の口縁部で、C字状突起を設け、地文に隆沈線で区画する。

152から154は縄文時代晩期の深鉢の体部で、摺糸の地文に沈線で施文する。155から164は表土（I層）から出土した深鉢の口縁部と体部の破片である。155から158は胎土に繊維を含む縄文時代前期の土器である。

159と160は縄文時代中期の大木7b式土器と8a式の土器で、159の口縁部には小突起を設け、原体を圧痕する。160の体部は地文に平行や渦巻の隆線で施文する。

161から163は弥生時代の深鉢の口縁部と体部である。いずれも小波状の沈線で施文する。

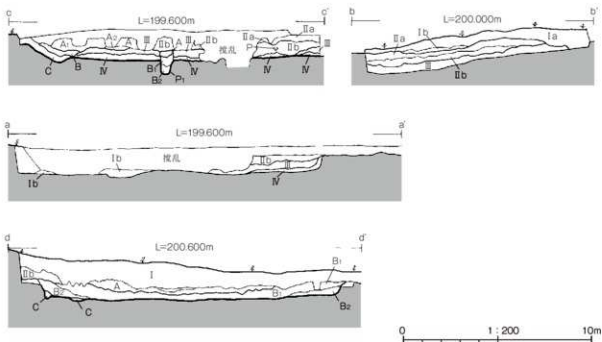
土製品（第47図164） 165は土製円盤で、縄文時代中期の深鉢土器の体部破片を円盤形に打ち欠いている。

Ⅳ・Ⅲ層出土石器（第48図1・2） 1はⅣ層から出土した背面面に細かい剝離調整をする頁岩製の石筥である。2はⅢ層から出土した頁岩製の搔器で背面の両縁に剝離調整している。

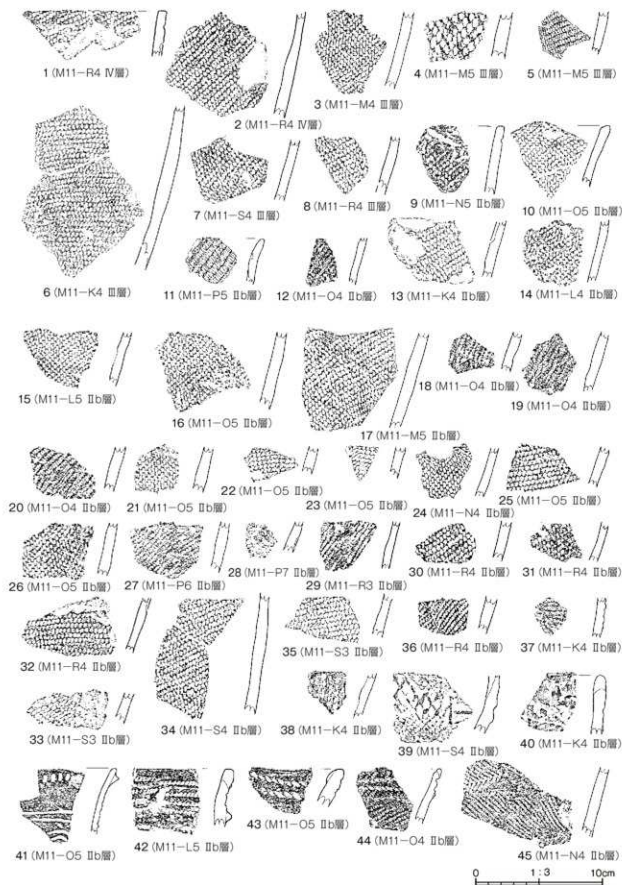
II b 層出土石器 (第 48 図 3~8, 第 49 図 9~11, 第 50 図 12・13) 3・4 は石錐である。3 は無茎で両面に細かい剥離調整する。4 は有茎の石錐で、茎の一部にアスファルトが付着している。5~8 は削器である。5 は背腹両面調整。6 は背面側縁剥離調整。7 は腹面左側縁に細かい剥離調整し、腹面には自然面を残す。8 は背面の周縁に細かい剥離調整と腹面縁の両側縁に剥離調整する。9・10 は石筥で、ともに背面全体を剥離調整し、腹面には主要剥離面を残している。11 は石杖で背面左側縁部と基部に剥離が認められる。以上はいずれも頁岩製である。12 は敲打磨石で両端部に打痕と摩擦痕がある。13 は凹石で両面中央に打痕が認められる。

II a 層出土石器 (第 50 図 14~19, 第 51 図 20~22, 第 52 図 23~26, 第 53 図 27) 14 は先端を折損する石錐で背面上部左側縁を剥離調整し、腹面下端両側縁には細かい剥離を施す。15 から 19 は削器である。15 は背面右側縁剥離調整。16・17 背面左側縁と腹面右側縁を細かい剥離調整する。18 は背面左側縁剥離調整。19 は両面右側縁に剥離調整する。20 は石筥で腹面左側縁を剥離調整する。21 は剥離だけであるが使用痕がある。22 は石杖で剥離方向 2~4 面に調整打面がある。以上はいずれも頁岩製である。23 は敲打磨石で、背腹全体に敲打痕と磨面が認められる。24 は敲石で円礫の両面片側に敲打痕が残る。25 は大半が欠損する磨石。26 は背面に凹みがある凹石で、全体の 2/3 を欠損している。27 は石皿である。

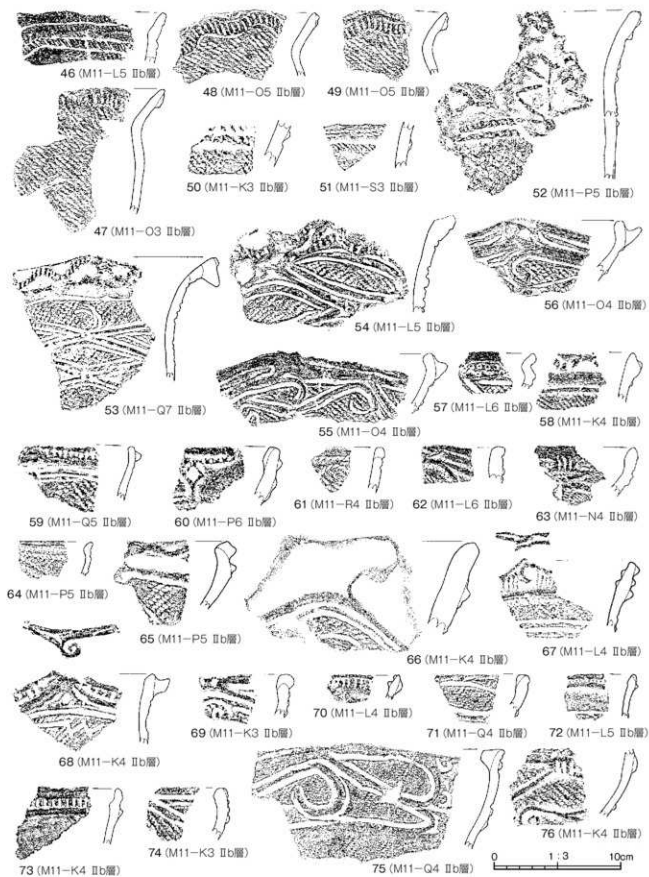
落込み、表土出土石器 (第 54 図 28~32) 28 は、調査区西半部南西隅の落込みから出土した石筥で、片側の縁を剥離調整する。29 から 31 は東側調査区の表土から出土している。29 は石筥で両面全体を細かい剥離調整する。30 は削器で背面の側縁全周に細かい剥離調整する。31 は片面調整石器で背腹面に部分的な細かい剥離が認められるが、ユーフレの可能性を残す。以上はいずれも頁岩製である。32 は全体の 1/2 を欠損する敲石である。



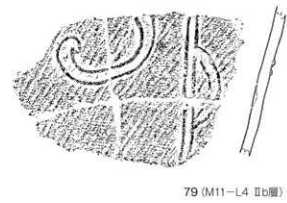
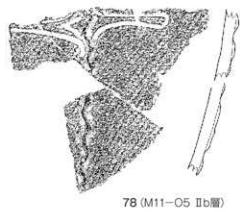
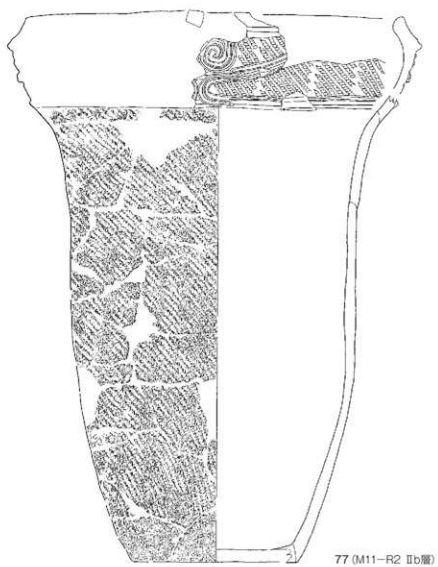
第 39 図 遺物包含層土層断面



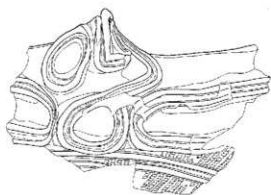
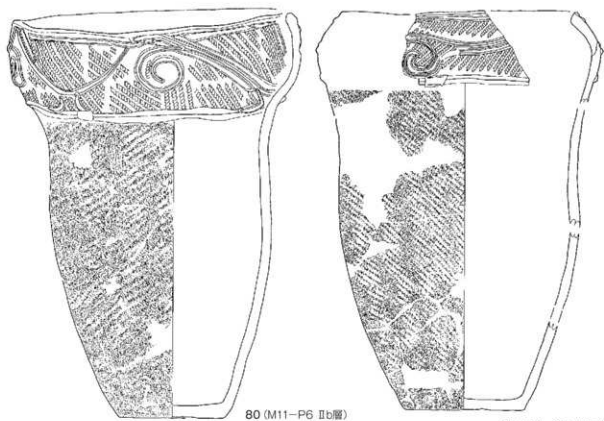
第40図 遺物包含層IV層, III層, IIb層出土土器(1)



第41図 遺物包含層IIb層出土土器(2)



第42図 遺物包含層IIb層出土土器(3)



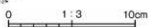
82 (M11-L4 IIb層)



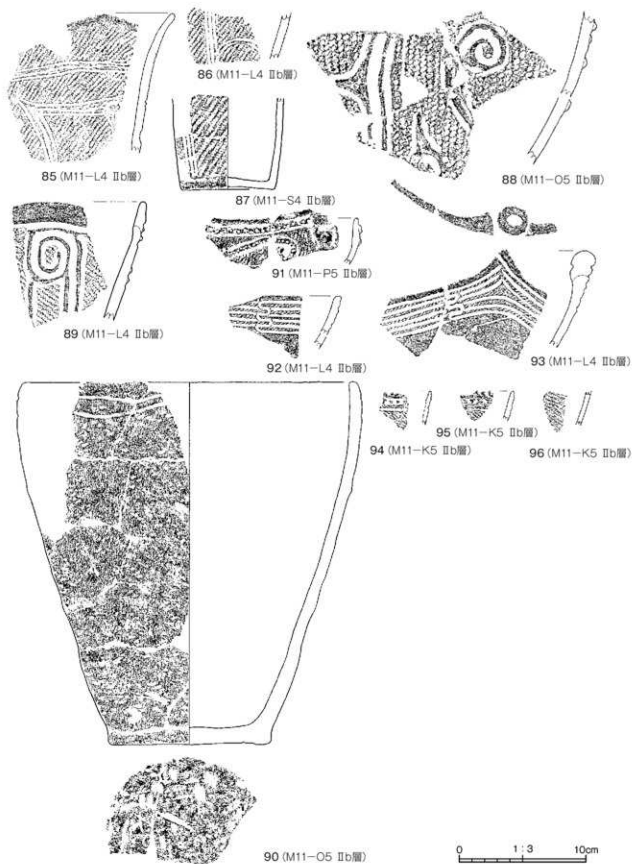
83 (M11-O5 IIb層)



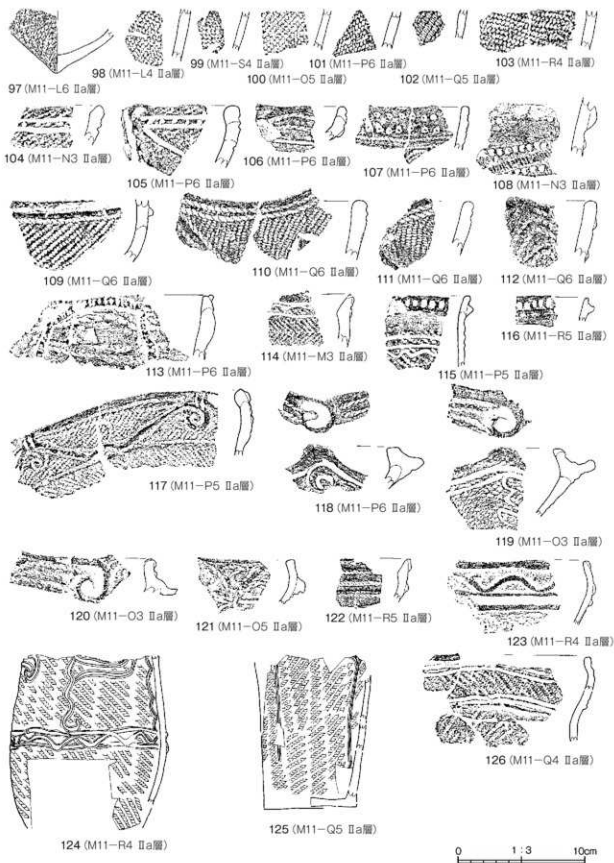
84 (M11-L4 IIb層)



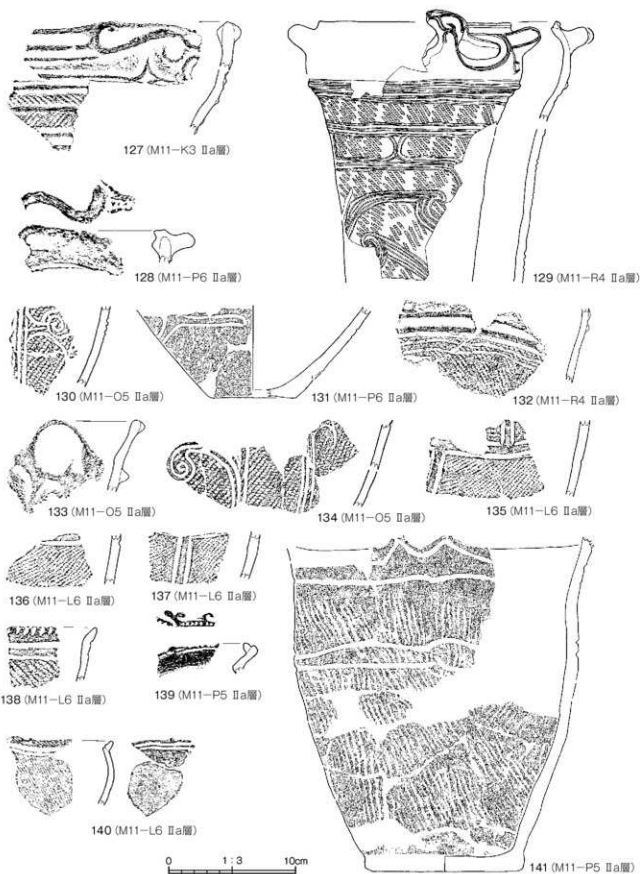
第43圖 遺物包含層IIb層出土土器(4)



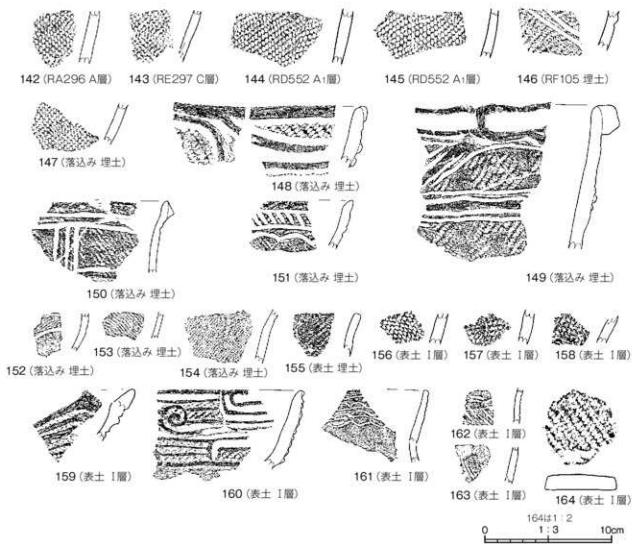
第44図 遺物包含層IIb層出土土器(5)



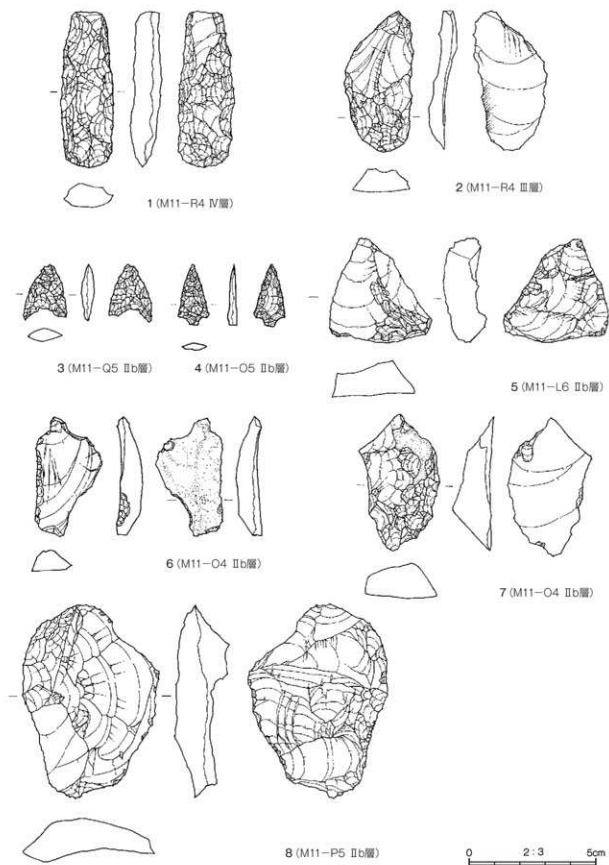
第 45 図 遺物包含層 II a 層出土土器 (1)



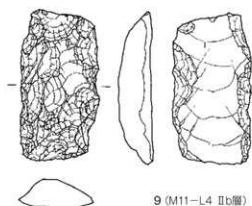
第46図 遺物包含層IIa層出土土器(2)



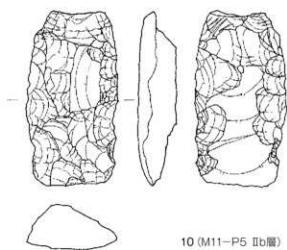
第 47 図 遺構外，落込み，表土出土土器，土製品



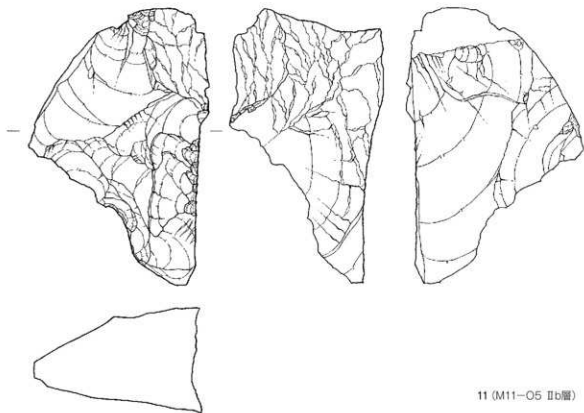
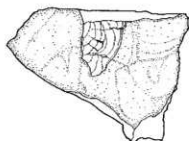
第48圖 遺物包含層IV層、III層出土石器、IIb層出土石器(1)



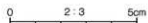
9 (M11-L4 IIb層)



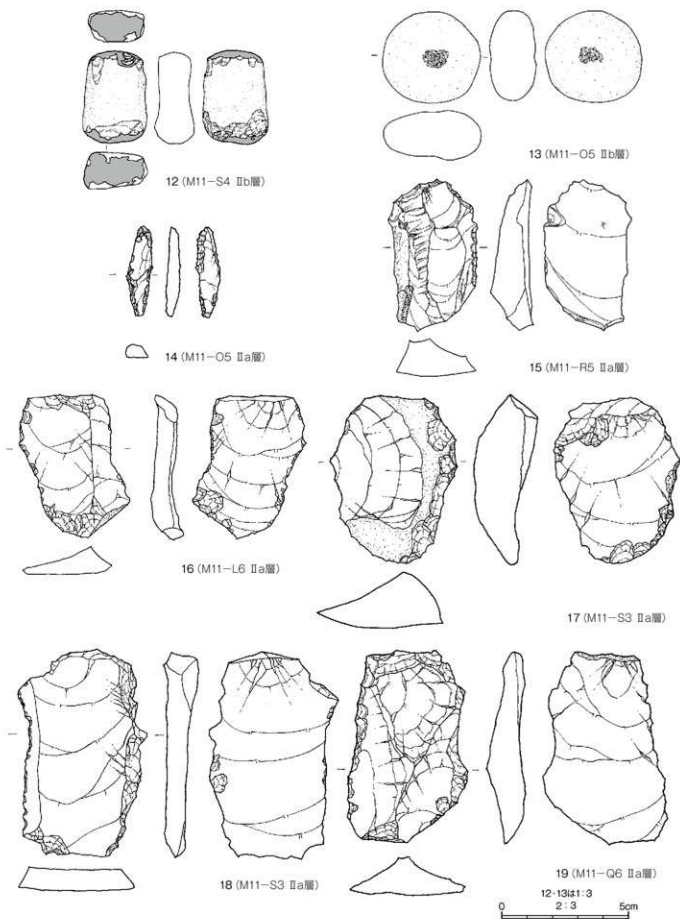
10 (M11-P5 IIb層)



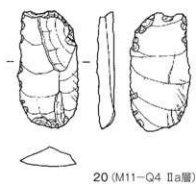
11 (M11-O5 IIb層)



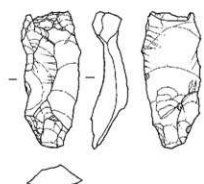
第49圖 遺物包含層IIb層出土石器(2)



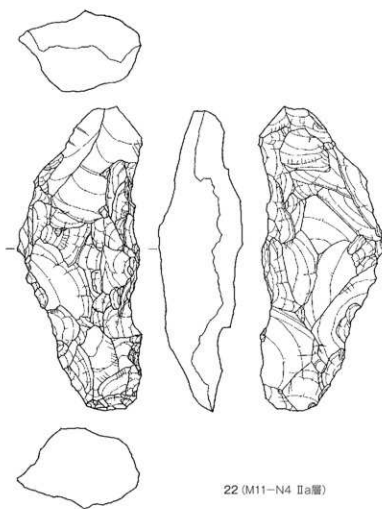
第 50 図 遺物包含層 II b 層出土石器 (3)、II a 層出土石器 (1)



20 (M11-Q4 IIa層)



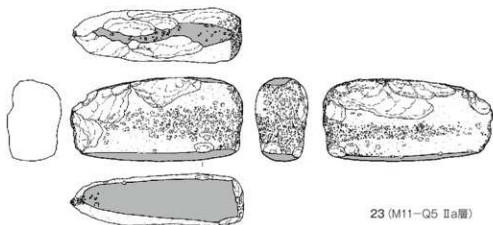
21 (M11-J2 IIa層)



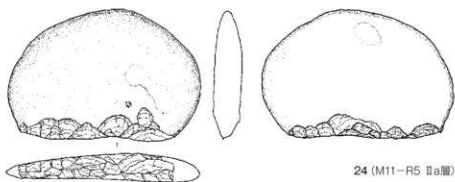
22 (M11-N4 IIa層)



第 51 図 遺物包含層 II a 層出土石器 (2)



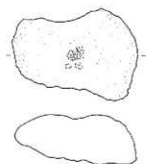
23 (M11-Q5 IIa層)



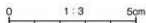
24 (M11-R5 IIa層)



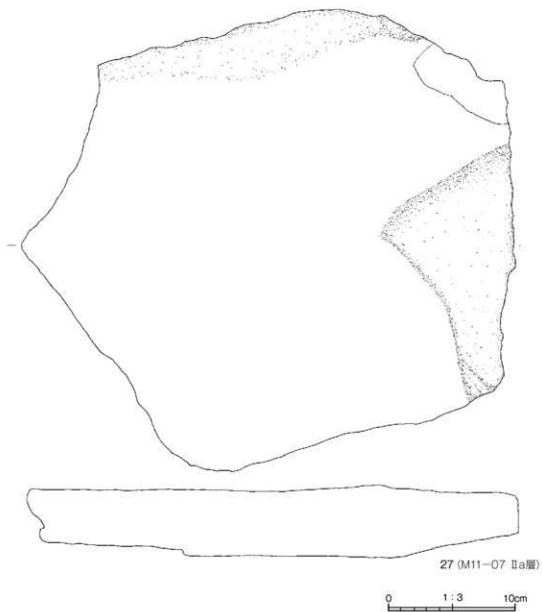
25 (M11-N4 IIa層)



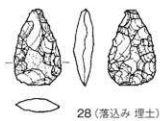
26 (M11-Q6 IIa層)



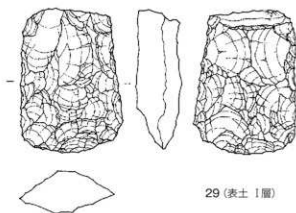
第52図 遺物包含層IIa層出土石器(3)



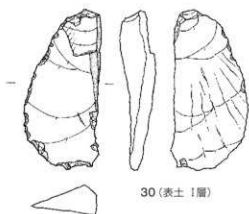
第 53 図 遺物包含層 II a 層出土石器 (4)



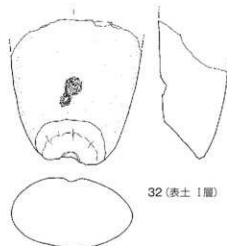
28 (落込み埋土)



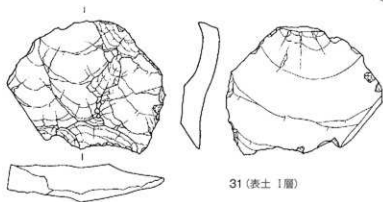
29 (表土1層)



30 (表土1層)



32 (表土1層)



31 (表土1層)



第54図 落込み、表土出土石器

(8) 調査のまとめ

繋V遺跡第38次調査の結果、縄文時代中期の遺構を確認した。今次調査区は繋V遺跡全体の中で南東側縁辺部に位置し、堅穴建物跡が集中するのは調査区南東部の背後の山地から続く斜面が若干緩くなる箇所である。発見された遺構数は縄文時代の堅穴建物跡2棟（RA 294・296）、堅穴跡2棟（RE 295・297）、土坑3基（RD 550・551・552）、焼土遺構2基（RF 105・106）、ピット6口、さらに調査区全域から中期を主体とした遺物包含層が確認された。ここでは主要な遺構・遺物について述べることにする。

遺 構 堅穴建物跡、堅穴跡のうちRE 297は縄文時代中期前葉の土器が主体を占め、その他の3棟（RA 294・296、RE 295）は、出土した土器の特徴から中期中葉の段階と思われる。RA 294は調査範囲の関係で全体は見えていないが、支柱列を考慮すると長軸を東北東・西南西に持つ約9.0m以上の大型で楕円形を呈し、周溝や石囲炉を伴う。RE 295に切られていると判断したが、床面出土遺物から判断するとRA 294は大木7b～8a-1式併行、RE 295は大木8a-2式併行となり、わずかな時間差で存在していた可能性がある。また、RE 295は北側の壁をRA 296に切られているが、出土土器はどちらの堅穴建物跡からも中期中葉の土器が主体を占めている。RA 296の出土土器が大木8a-2～8b-1式併行と、これも時間差の少ない重複関係にある。RE 297に関しては中期中葉（大木7b式併行）の土器が主体を占めており、他の堅穴建物跡よりも時期が古い。これらの堅穴建物跡は、調査区層序に当てはめるとⅢ層から掘り込まれており、当該層が当時の生活面と捉えることができる。さらにⅢ層及び遺構の上面には、縄文時代前期初頭の繊維土器から、中期の大木7b～9式期、後期初頭、晩期の土器など時期の異なる遺物を多く含むⅡa・Ⅱb層が堆積している。これらの層は遺物の時期と出土状況から二次堆積と考えられるが、その要因として今次調査区の上に位置する段丘面からの流れ込みが考えられる。今次調査区は北東に面した段丘斜面部の中腹に位置し、段丘上面の調査（第14・16次）において中期中葉の複式炉を伴う堅穴建物跡やフラスコ状土坑が多数確認されている。遺物は沈降による逆U字状の区画文に単節斜縄文を施す土器（大木9-1～9-2式併行）等が出土している。この遺跡群から流れ出した遺物が、今次調査区の上面に二次堆積したと考えられる。図示はしていないがⅡb層中から炭化した栗類が出土しており、これらが上方のフラスコ状土坑に貯蔵されていた栗類と想定すると、二次堆積の流出源が段丘上面の遺跡群であることを裏付けるのではないだろうか。

遺 物 繋V遺跡ではこれまでの調査により縄文時代早期から晩期、弥生時代前期から後期、古墳時代
土 器（続縄文）、平安時代の遺物が出土している。今回の調査では縄文時代前期初頭、中期中葉～中葉、後期初頭、晩期、弥生時代後期末（赤穴式）にかけての土器が出土し、特に中期中葉（大木7b式併行）と中期中葉（大木8a式併行）に位置付けられるものが主体的であった。縄文時代前期の土器は遺構に伴うものはないが、調査区全域に広がる遺物包含層の各層より出土している。地文に条と節が整然と表出する所謂「びっちり縄文」が多数出土した。Ⅱa層から出土した突底部（第45図97）は胎土に繊維を含み、乳頭型を呈している。縄文時代中期は、中期中葉の大木7a式併行から中期中葉の大木9式併行と思われる土器、円筒上層c式に類似する土器が出土している。遺構に伴うものではRE 297出土土器が縄文時代中期中葉に属し、口縁部に平行2条

の原体圧痕を施す大木7b式期併行の土器が主体として出土している。その他のRA 294・296、RE 295から出土した遺物は中期中葉の大木8a式期併行の土器が主体を占めている。キャリパー形を呈し、口縁部文様帯に波状隆線とそれに伴う原体圧痕を施す土器、口縁部文様帯を縮めて隆沈線文に集約する土器などがある。遺物包含層II a層から出土している深鉢（第46図141）は頸部から口縁部にかけて外反し、口唇部に二山突起を4単位で付す。器面を周回する沈線文が施され、この沈線は山形突起の下部に対応する形で山形を呈している。これらの特徴は青森県八戸市牛ヶ沢（4）遺跡で出土している後期初頭の深鉢に類似する部分がある。このことから当該土器も後期初頭の可能性を指摘できる。今回の調査では後期の土器の出土量が少なかったが、第36次調査区北（繫小中学校校庭）では多量の後期初頭の土器を含む包含層が確認されている。

石 器 石器・石製品は剥片石器、剥片、礫石器、石製品を含むと合計334点出土している。遺構内出土石器は個体数が多くないが、出土土器の多くは中期前葉～中葉のものであることから、石器も同時期と考えられる。石器の石材は、剥片石器が頁岩、礫石器には凝灰岩・砂岩・泥岩が使用されている。これまでの繫V遺跡の発掘調査と比べると石器の出土量が少なく、所謂一般的な集落から出土する器種・数量である。このことから、第30・36次調査等で確認されている磨製石斧や石冠の工房跡のような特色ある石器製作の拠点ではないようである。

大木式土器 RE 295の床面より出土した深鉢（第34図1）は頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する深鉢である。単節斜縄文を施した口縁部に4単位の小突起を持ち、口縁部・頸部・体部下半の3段階で隆線による区画文が施されている。区画文には鋸歯状やY字状の曲線や直線を意識した隆線を施し、文様帯から波状垂下隆帯での小渦巻文を付す。施文方法だけみれば、これまでに市内で発見されているような大木8a式期併行の土器と同様であるが、文様帯が口縁部周辺だけでなく体部下半から下部へと文様を展開させている。このような土器の類例は少なく、文様帯の変化を地域差や時期差で考えるべきなのかは、今後の類例の増加を待ち、検討を重ねる必要がある。

結 語 過去の調査において繫V遺跡の北東段丘縁ではヒスイ製玉類などの特殊な遺物が出土した土坑墓が多数確認されており、その墓域を中心とした扇状に縄文時代中期の住居域が展開されていることがわかってきている。第38次調査区と北東で隣接する第26次調査4区では中期の堅穴建物跡7棟・土坑2基、さらに北西での第31次調査では高低差が約6mある斜面に中期中葉の堅穴建物跡10棟・土坑6基が発見されており、今回の調査と合わせても繫V遺跡では段丘斜面の転換点まで広く集落を展開させていることがわかった。

（引用・参考文献）

八戸市教育委員会 1996 『牛ヶ沢（4）遺跡I～石灰石採掘表土堆積場設置事業に伴う第1次発掘調査～』

岩手県立博物館 2005 『縄文北緯40°～前・中期の北東北～』

早瀬亮介ほか 2006 『東北大学文学研究科 考古学陳列館所蔵大木圓貝塚出土基準資料一山内清男編年基準資料一』[Bulletin of the Tohoku University Museum No.5]

Ⅳ 里館遺跡(第65次調査)

1 遺跡の環境

(1) 遺跡の概要

遺跡の位置 里館遺跡は、盛岡市街地より約3kmの天昌寺町地内に所在する(第55図)。かつては水田や畑などの農地が主体を占めていたが、現在では宅地化が進んでおりその姿はうかがえない。遺跡の範囲は、南北約250～380m、東西約650mと推定され、標高は129～132m前後である。(第56図)

地形・地質 里館遺跡は、北上川の西岸、雫石川の北岸の低位段丘の南端に位置する。この低位段丘は、本遺跡から北西約19kmの岩手山(標高2,038m)の火山噴出物で形成された火山灰砂台地(滝沢台地)であり、岩手山麓の滝沢市滝沢柳沢付近から、盛岡市青山町・大館町・大新町・前九年付近まで張り出している。この段丘は、東は北上川、南は雫石川によって形成された段丘崖によって区画されている。この段丘は、いわゆる自然堤防であり、縄文時代の土器片を含む黒色土層を基底とし、その上層に砂礫、シルト、粘土層、表土によって覆われている。

(2) 歴史的環境

周辺の遺跡 里館遺跡の位置する段丘の縁辺には、縄文時代～平安時代にかけての集落遺跡が多く分布する。

縄文時代 本遺跡の北に位置する大新町遺跡、大館町遺跡からは、縄文時代草創期の爪形文土器、大新町遺跡では早期の押型文や貝殻文土器、大館堤遺跡、館坂遺跡、前九年遺跡、宿田遺跡からも早期



第55図 里館遺跡の位置(1:50,000)

の土器が出土している。大館町遺跡は、中期に大規模な集落が営まれたことを確認している（岩手県指定史跡）。

弥生～古墳時代 弥生時代～古墳時代は、遺物は散見されるが、明確な遺構はほとんど確認されていない。安倍館遺跡では、弥生時代末期の赤穴式土器、後北C 2-D式の土器が少量出土している。宿田遺跡では、北大I式や南小泉式併行の土師器など、統縄文時代や古墳時代中期～後期の土器が散見される。

古代 奈良時代には、大館町遺跡、大新町遺跡、小屋塚遺跡において、堅穴建物を主体とした小規模な集落が営まれる。宿田遺跡では、終末期古墳と呼ばれる北東北独特の墳丘墓群が営まれ、主体部墓坑から鉄製直刀をはじめとした武器類などが出土した。律令政府によって蝦夷と呼ばれた北東北の人々が、独自の文化を持ちつつ、律令政府と交流を持っていたことがうかがえる。

平安時代初頭、本遺跡の南約3kmの場所に、律令政府によって古代城権志波城（市内下太田他）が造営されてもなお、本地域の集落様相に大きな変化はみられない。律令政府による統治体制の変化に伴い、志波城から移転した徳丹城（矢巾町）が廃絶する9世紀半ば以降、古代の集落は増加、拡散するようである（小屋塚遺跡、大新町遺跡、里館遺跡、他）。

北東北の統治体制が律令政府から、胆沢城鎮守府の権力を掌握した安倍氏・清原氏・奥州藤原氏へと変化する10～12世紀の遺構や遺物の出土例は多くない。大新町遺跡、上堂頭遺跡などから10世紀後半頃の掘立柱建物跡、堅穴建物跡とともに土器が出土している。赤裳遺跡からは土器焼成土坑が見つかった。本遺跡の西約800mの稲荷町遺跡では、12世紀後半の掘立柱建物跡と堅穴建物跡が確認され、当該時期の拠点の一つだったと考えられている。

中世戦国期 中世・戦国期の集落様相はよく分かっていないが、市内各所に城館が営まれている。多くは室町時代から戦国時代のもと考えられ、南下してきた南部氏と斯波氏の衝突が激しかったことを物語る。本遺跡北東約1kmの安倍館遺跡は、大規模な堀跡が残存し、七つの曲輪によって構成される16世紀の工藤氏の粟谷川（厨川）城跡である。

里館遺跡や安倍館遺跡は、近世以降、古代末の安倍貞任の拠点とされ、前九年合戦で安倍氏が滅んだ厨川橋や姥戸橋の擬定地とされてきたが、これまでの発掘調査において当該期の明確な遺構遺物の検出はない。

2 調査内容

(1) これまでの調査

現況 現在の里館遺跡周辺は、密集した住宅地が広がる。遺跡付近は、江戸時代には岩手郡粟谷川村の里館、勾当館と呼ばれていた。明治時代以降は岩手郡厨川村に属し、昭和15（1940）年に盛岡市に編入され、現在に至る。

里館遺跡の範囲は、南北約250～380m、東西約650mと想定される。南辺は比高差約3～5mの段丘崖で、雫石川の旧河道で画されている。西は南北に流れる幅2～5mの水路、東は比高1m以下の緩斜面の下端、北辺は滝沢台地との境の後背湿地としている。

現在では市街地化が進み、旧地形をうかがうことは難しい。里館遺跡に所在する天昌寺に残る

近世の古地図や古い航空写真、地図等によれば、いくつかの堀跡と考えられる地形が確認できる。

これまでの発掘調査成果から、14～16世紀の遺構遺物を主体とし、特に東部は15～16世紀の城館跡を主体とした遺跡といえる。安倍館遺跡も15～16世紀の城館跡であることから、これら2つの遺跡は、栗谷川工藤氏の城館跡であり、里館遺跡が先行し、戦国時代に栗谷川城（安倍館遺跡）が築かれたと考えられている。

調 査 昭和32（1957）年、岩手大学の板橋源教授が、遺跡の東側において、旧国鉄盛岡客貨車区建設に伴う発掘調査を実施した。その後、盛岡市教育委員会によって、住宅建築などに伴う発掘調査を65次にわたって実施した。

遺跡の中央南寄りにおける第1次調査では、堀跡2条のほか掘立柱建物跡、竪穴建物跡等を確認した。また、2、25、45、54、56、64次の各調査において、遺跡南東部を中心とした遺構群のあり方、そのほかの調査においても各地点の様相が確認され、大きく7つの曲輪によって構成される城館跡であることが判明してきている。

（2）平成30年度の調査

里館遺跡における平成30年度の調査は、第64・65次調査の2件である。このうち国庫補助事業として実施したのは、個人住宅新築工事に伴う第65次調査の1件である。第64次調査は民間開発に伴う調査である。

第65次調査は、個人住宅建設とそれに伴う擁壁設置、駐車場造成の事前調査として実施した。堀跡や建物跡等の存在が予想され、平成30年6月6日から同年6月26日まで、敷地面積341.81㎡のうち、136.5㎡（A区住宅部107㎡、B区擁壁部23.8㎡、C区駐車場部5.7㎡）を対象に本調査を実施した。（第57図）

位 置 本調査区は、遺跡の中央南寄りに位置し、堀跡と掘立柱建物跡等が検出された第29次調査区の西側に位置する。本調査区に、現況の比高差が約2mの段丘があり、堀跡が合流する地形と予想された。

**検出遺構
出土遺物** 調査の結果、戦国時代（約600年前）の堀跡1条、江戸時代以降の柱穴跡8口を検出し、縄文時代後期（約3500年前）の縄文土器2点、平安時代（約1200年前）土器（土師器）2点、年代不明鉄製品1点が出土した。

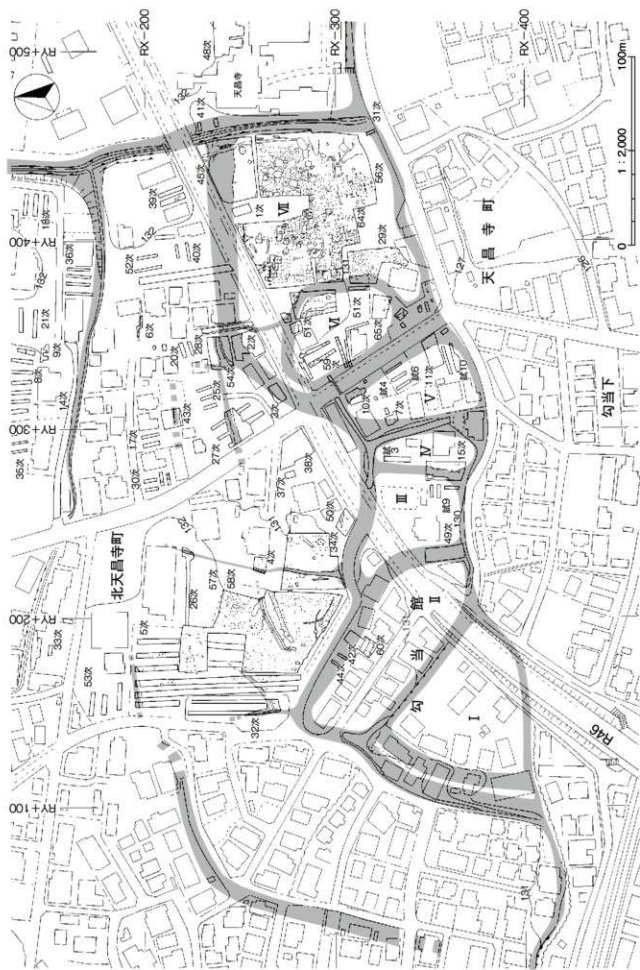
住宅建設部（A区）は過去の住宅によって大きく攪乱されていた。想定された戦国期の建物跡は検出されなかった。

擁壁部（B区）では、戦国時代の堀跡（SD305）を確認し、擁壁工事によって壊される部分のみ詳細な調査を実施した。埋土の状況から、空堀だったと考えられる。敷地の北東の第29次調査区のSD300に連続するものと想定される。埋土中位から、縄文土器や平安時代の土器、鉄製品が出土した。堀跡に伴うものではなく、周辺から流れ込んだものと考えられる。

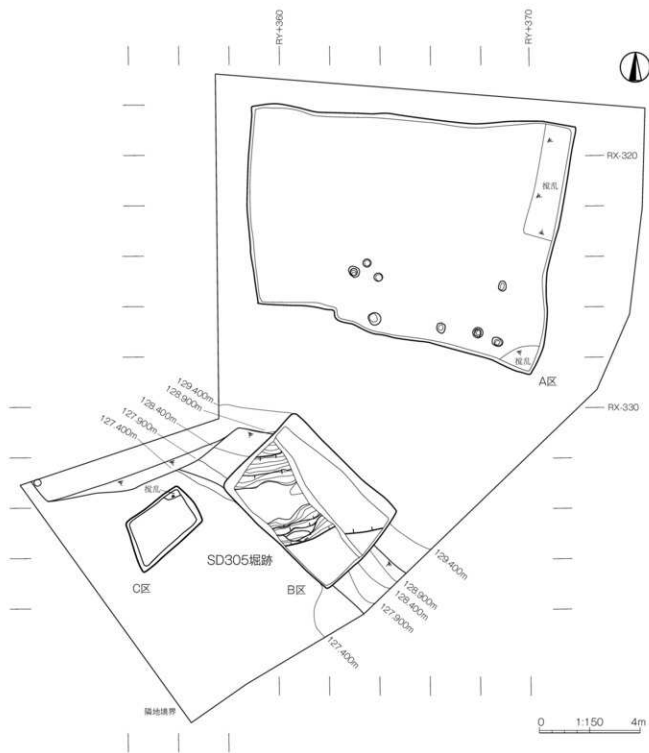
駐車場部（C区）では、現地表面から約1.0m下まで盛土されていることを確認した。また、その盛土下部より、古い建物のコンクリート基礎が見つかった。堀跡の中央に位置することが想定されるが、駐車場工事は盛土内に収まり、地下遺構が壊されることはない判断し、地下遺構保存とし精査を実施しなかった。

次數	所在地	調査年度	面積 (㎡)	用途	検出遺構・遺物
昭和32年	横濱区役所	宮原地区建設	-	1972.06.06 - 05.11	中世漆塗 柱列、古瓦、灰土
昭和39年	大宮市町 222-2	復興建設	-	1974.06.12 - 06.23	時期不明漆塗
昭和51年	新九一丁目21	店舗補修	4,600	1976.05.17 - 10.16	縄文・弥生期居住層跡1棟、平安前期漆塗1棟、漆塗25条
1	大宮市町 7-137-24	店舗補修	1,967	1987.07.28 - 11.17	中世銅釘1条、漆塗3条、建物跡28枚、柱列跡12列、漆塗2列、壁穴17枚、土坑11基
試験1	大宮市町 28-4	住宅跡	45	1981.10.27 - 10.31	遺構・遺物なし
2	大宮市町 184-1	共同住宅新築	310	1981.11.18 - 12.05	中世銅釘1条、漆塗1条
3	大宮市町 150-4	店舗跡	43	1982.04.06 - 05.14	中世銅釘1条、土坑1基
試験2	大宮市町 175-1	住宅跡	300	1982.04.07 - 04.17	平安時代土坑1穴、近世銅釘若干枚
試験3	大宮市町 424-4	店舗跡	45	1982.06.28	遺構・遺物なし
試験4	大宮市町 426-9	貸事務所新築	8	1982.08.17	遺構・遺物なし
試験5	大宮市町 422-2	住宅跡	82	1982.09.02	遺構・遺物なし
試験6	大宮市町 425-2	住宅跡	59	1983.03.15 - 05.14	遺構・遺物なし
7	大宮市町 113	住宅跡	49	1983.05.16 - 05.18	遺構・遺物なし
試験7	大宮市町 1-6	店舗跡	227	1984.07.02 - 07.07	漆塗3条
試験8	大宮市町 125-1	店舗跡	37	1985.01.23	遺構・遺物なし
試験9	大宮市町 426	物産館新築	41	1985.07.15	遺構・遺物なし
10	大宮市町 10-1	福祉センター新築	798	1985.07.25 - 08.03	漆塗2条、土坑1基、柱穴90穴
試験10	大宮市町 423-3	住宅跡	59	1985.08.29 - 08.30	遺構・遺物なし
6	大宮市町 152-13	住宅跡	22	1986.09.06 - 09.22	漆塗3条
7	大宮市町 420-10	住宅跡	61	1986.09.29 - 10.09	中世銅釘1条
8	大宮市町 153-35	住宅跡	220	1987.04.21 - 04.24	漆塗1条
9	大宮市町 4-2	住宅跡	23	1987.05.01 - 05.07	漆塗1条
10	大宮市町 428-2	住宅跡	61	1987.06.01 - 06.05	中世銅釘1条
11	大宮市町 21-2	駐車場造成	145	1987.06.13	中世銅釘1条
12	大宮市町 1-2	私道整備	61	1987.07.13 - 07.18	中世銅釘1条、土坑1基
13	大宮市町 1-2	住宅跡	62	1987.09.14	遺構・遺物なし
14	大宮市町 154-3	私道整備	284	1987.11.13 - 11.16	遺構・遺物なし
15	大宮市町 428-2	住宅跡	34	1988.04.11 - 04.25	平安時代土坑1穴、漆塗2条、土坑1基、銅柱柱列跡1列
16	大宮市町 158-33,153-54	住宅跡	60	1988.04.11 - 04.12	遺構・遺物なし
17	大宮市町 152-34	営業用	23	1988.09.01	古代以降漆塗4条、風刺木跡
18	大宮市町 143	営業用	112	1988.10.11 - 10.13	遺構・遺物なし
19	大宮市町 419-4	市営娯楽	33	1988.10.18 - 10.21	中世銅釘
20	大宮市町 2-11	個人住宅	4	1989.11.27	遺構・遺物なし
21	大宮市町 3-4	事業営業	134	1990.10.22 - 10.23	漆塗1条
22	大宮市町 286-4,274,288-1	住宅跡	11	1990.12.19 - 12.20	中世銅釘1条、土坑1基
23	大宮市町 4-15	個人住宅	30	1991.05.16	遺構・遺物なし
24	大宮市町 2-8	本道建設	50	1991.05	遺構・遺物なし
25	大宮市町 153-1	個人住宅	49	1991.09.09	古代以降漆塗1条
26	大宮市町 8-8,10,11,12,13	店舗跡	91	1992.04.13 - 04.15	縄文時代土坑1基、平安遺構漆塗1条、柱穴2穴
27	大宮市町 151-1	住宅跡	214	1992.04.27 - 05.07	中世銅釘遺跡1条
28	大宮市町 142-17	個人住宅	31	1992.06.09	遺構・遺物なし
29	大宮市町 246-1	営業用	384	1992.06.15 - 07.17	中世銅釘1条、銅柱建物跡6棟、柱列跡4列、柱穴210穴、壁穴建物跡1棟、土坑6基
30	大宮市町 152-41	店舗跡	27	1993.01.12	遺構・遺物なし
31	大宮市町 245-1	住宅跡	30	1993.04.15 - 04.26	中世銅釘1条、漆塗跡1所、近世遺物包含層
32	大宮市町 10-5,11,12,12-2	店舗跡	120	1993.04.19 - 04.23	平安時代以降漆塗1条、時期不明漆塗1条、柱穴3穴
33	大宮市町 7-1	個人住宅	73	1994.03.17	堀水跡1条
34	大宮市町 16-1 他	店舗跡	1,094	1994.06.06 - 07.04	堀穴建物跡1棟、壁穴建物跡1棟、漆塗2条、欄干跡1条、土坑2基、柱穴2穴、堀跡跡空堀、近現代道路1基
35	大宮市町 153-1	事業営業	123	1995.05.17	遺構・遺物なし
36	大宮市町 143-7,143-12	個人住宅	82	1995.06.06 - 06.07	遺構・遺物なし
37	大宮市町 15-3	住宅跡	26	1995.06.14	古代穴穴2穴
38	大宮市町 15-8	駐車場造成	337	1995.10.17 - 11.21	遺構・遺物なし
39	大宮市町 132-34,132-35	教団施設	72	1995.11.06	漆塗1条
40	大宮市町 142-15,144-10,144-11	事務所新築	29	1996.04.18	柱穴2穴
41	大宮市町 224	機庫新築	24	1996.07.01 - 07.08	欄干1条
42	大宮市町 286-20	駐車場造成	60	1996.09.09	漆塗1条
43	大宮市町 152-11	住宅跡	137	1996.10.14 - 10.16	銅釘1条
44	大宮市町 17-89	事務所新築	22	1996.12.11	中世銅釘1条
45	大宮市町 7-13	店舗跡	695	1998.06.08 - 07.03	中世銅釘建物跡3棟、土坑2基、欄干跡2条、柱穴4穴、近世溝3条
46	大宮市町 8-3,8-6	住宅跡	68	1998.09.01	遺構・遺物なし
47	大宮町 132-6,50	住宅跡	64	1998.11.26	古代以降漆塗1条
48	大宮市町 6-16	家庫新築	325	1999.04.12 - 04.16	中世銅釘漆塗2条、柱穴1穴
49	大宮市町 417-3	住宅跡	119	1999.06.24 - 06.28	遺構・遺物なし
50	大宮市町 15-12,16-4	駐車場造成	79	2000.03.13 - 03.14	漆塗1条、柱穴5穴
51	大宮市町 247-1,249-2	住宅跡	112	2000.06.08 - 06.12	中世銅釘1条、中世柱穴2穴
52	大宮市町 7-4	事務所新築	42	2003.12.24	遺構・遺物なし
53	大宮市町 7	住宅跡	69	2005.04.28	遺構・遺物なし
54	大宮市町 142-18	住宅跡	513	2006.06.05 - 06.13	中世銅釘4条
55	大宮市町 4-19	土留設置	14	2007.03.05	遺構・遺物なし
56	大宮市町 242-5,245-1	商業施設建設・駐車場整備	2,130	2011.08.22 - 11.25	古代穴位跡1棟、中世銅釘建物跡21棟、土坑52基、中世銅釘建物跡10棟以上、柱穴1,652穴、近世銅釘11条、漆塗2条、土坑・古代穴跡1基、時期不明漆塗1条、穴状土坑1基
57 (調査)	大宮市町 10-1,11,12,12-2	住宅跡	2,209	2013.10.15 - 12.26	中世銅釘建物跡10棟、銅柱柱列跡18列、欄干跡1列、壁穴建物跡1棟、漆塗1条、江戸時代穴状土坑2基、漆塗2条
58	大宮市町 249-2	店舗跡住宅新築	91	2013.10.09	中世銅釘1条、漆塗1条、壁穴建物跡5基、柱穴28穴、土坑7基
59	大宮市町 12-6,28-20	村営施設	105	2016.07.04 - 08.01	古代・中世銅釘1条、土坑2基、柱穴2穴、柱穴1跡
60	大宮市町 8-10	店舗跡	336	2017.03.13 - 03.16	縄文時代編み土坑1基、古代以降柱穴1穴
61	大宮市町 13-1	住宅跡	87	2017.05.26	中世銅釘漆塗2条、壁穴建物跡6棟、柱穴16穴、土坑5基、中V穴遺構1基
62	大宮市町 242-5,242-32,245-1,245-6	保育園新築	218	2017.09.06 - 09.07	中世銅釘建物跡11棟、柱穴216穴、欄干1条
63 (試験)	大宮市町 242-5,242-32,245-1,245-6	保育園新築	1,000	2018.04.02 - 06.22	中世銅釘建物跡6棟、銅釘1条、中世銅釘柱建物跡10棟以上、土坑5基、柱穴1,600穴、壁穴遺構3条
64	大宮市町 247-4,247-5	住宅跡	137	2018.06.06 - 06.26	戦国時代欄干1基、江戸時代以降柱穴8穴
65 (調査)	大宮市町 24-1,24-14	堀跡地造成	55	2019.07.16	遺構・遺物なし

第 11 表 里館遺跡調査一覧



第 56 图 里桥遗跡全体图



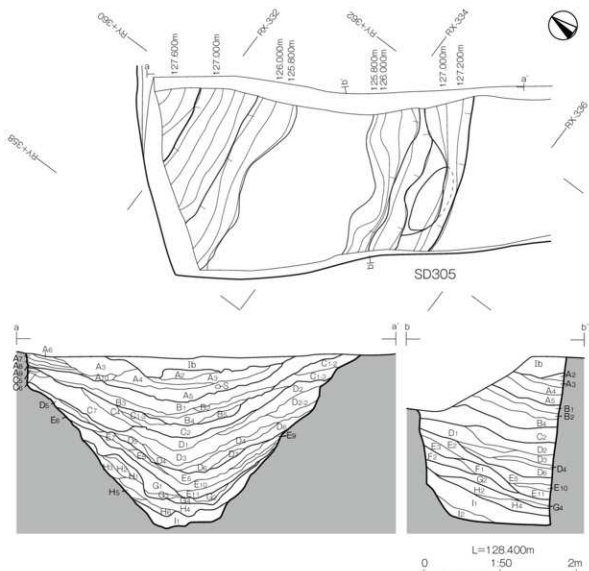
第 57 図 里館遺跡第 65 次調査 全体図

(4) 戦国時代の遺構

SD305 堀跡 (第 58 図, 第 13, 14 表)

位置 調査区中央付近・B区 平面形 北東から南西に延びる。
 断面形 逆台形・箱葉研 堀込面 削平

- 規模** 検出延長25m, 上端幅4.9m, 下端幅1.0～1.63m, 検出面から底面の深さ245m
- 埋土** 自然堆積。7層に分層(第12・13表)。黒色、黒褐色、褐色のシルト質堆積土を主体とし、火山灰砂質土、白～黄褐色粘土を含む。堆積状況から新旧2時期認められ、ある時期に掘り直しがなされたと考えられる。A 6～10層は掘削土を版築状に盛り上げ構築された土塁の崩壊土の一部と考えられる。新期の底面はG層下面と考えられる。底面は火山灰砂土を掘り込み、白色～黄褐色粘土や酸化鉄が沈着している。
- 土塁** 埋土状況から、北西上端に沿った土塁を伴っていた可能性がある。
- 出土遺物** 埋土の中ほど(D層)から、縄文土器(後期)、土師器(9世紀代)、年代不明の鉄製品(刀子か?)が出土した。周辺から流入したものと考えられる。



第58図 SD305堀跡

層名	主要土			含有土				硬軟	密度	その他	
	土色 (JIS)	土性 (略号)		土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%				
流表 乱土	I b	10YR3/3 暗褐色	SiCL	10YR4/4 褐色	SiCL	粉～粒	10	中～硬	中～密	焼土粒含	
		10YR2/1 黒褐色		SiCL	粉～粒	10					
流入 堆積	A ₁	10YR2/2・3 黒褐色	SiCL	10YR4/4 褐色	SiCL	粉～粒	20	中～硬	中～密	焼土粒含	
		10YR5/4・6/4		粘土	粒	3					
	A ₂	10YR2/3 黒褐色	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～粒	20	中～硬	中～密	焼土粒含	
		10YR5/4		粒～塊	15						
	A ₃	10YR2/3・2 黒褐色	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～粒	20	中～硬	中～密	焼土粒含	
		10YR5/4・6/4		粘土	粉～粒	1					
A ₄	10YR4/4・6 褐色	SiCL	10YR3/3・2/3 黒褐色	SiCL	粉～粒	30	中～硬	中～密			
	10YR2/1 黒褐色		SiCL	粉	5						
崩土 境界	A ₅	10YR2/3 黒褐色	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～粒	20	中～硬	中～密		
		10YR4/4・6 褐色		SiCL	10YR2/3 黒褐色	SiCL	粉～粒				20
流入 堆積	A ₆	10YR2/3・3 黒褐色	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～粒	10	中～硬	中～密		
		10YR4/4・6 褐色		SiCL	10YR2/3・2 黒褐色	SiCL	粉～粒				10
	A ₇	10YR4/4・6 褐色	SiCL	10YR2/3・2 黒褐色	SiCL	粉～粒	10	硬	密		
		10YR2/1 黒褐色	SiCL-SiL	SiCL	粉	3					
	A ₈	10YR4/3・3 褐色	SiCL-SiL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉	3	中	中		
流入 堆積	B ₁	10YR2/2・3	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～塊	10	中～硬	中～密		
		10YR2/3・3 黒褐色		SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～塊				30
	B ₂	10YR2/2 黒褐色	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～塊	30	中～硬	中～密		
		10YR5/4・6/4		粘土	粉～塊	30					
	B ₃	10YR2/2 黒褐色	SiCL	10YR4/4 褐色	SiCL	粉	10	中～硬	中～密		
		10YR4/4・6 褐色		SiCL	粉～塊	20					
B ₄	10YR3/3・2 暗褐色	SiCL	10YR2/1 黒褐色	SiCL	粉～塊	10	中～硬	中～密			
	10YR5/4・6/4		粘土	粉～塊	3						
B ₅	10YR3/3・2 黒褐色	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～塊	30	中	中			
流入 堆積	C ₁	10YR4/6 褐色	SiL	10YR2/3・2 黒褐色	SiCL	粉～粒	5	中	中	酸化鉄含	
		10YR5/4・6/4		粉	1						
	C ₂	10YR4/4・6 褐色	SiCL	10YR2/3・2 黒褐色	SiCL	粉～粒	5	中～硬	中～密		
		10YR2/3・2 黒褐色		SiCL	粉～粒	10					
	C ₃	10YR4/6・5 褐色	SiCL	10YR5/4・6/4		粘土	粒	3	中	中	
		10YR2/1 黒褐色	SiCL	SiCL	粉	5					
	C ₄	10YR3/3・2 黒褐色	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉	3	中	中		
		10YR5/4		粘土	粉～粒	1					
	C ₅	10YR3/3 暗褐色	SiCL	10YR4/4 褐色	SiCL	粉	5	中	中		
		10YR2/1 黒褐色		SiCL	粉～塊	10					
C ₆	10YR4/4 褐色	SiCL	10YR2/3 暗褐色	SiCL	粉～塊	10	硬	密			
	10YR5/4		粘土	粒	10						
C ₇	10YR4/4 褐色	SiCL	10YR2/3・2 黒褐色	SiCL	粉～粒	20	中～硬	中			
	10YR4/4 褐色		SiCL	粉～粒	10						
C ₈	10YR4/4 褐色	SiCL	10YR2/3・3 黒褐色	SiCL	粉	5	中～硬	中			
	10YR2/1 黒褐色		SiCL	粉	5						
崩土 境界	C ₉	10YR5/4・6/4	粘土	10YR2/3・2 黒褐色	SiCL	粉	5	硬	密		
流入 堆積	D ₁	10YR4/4・6 褐色	SiL	10YR2/3・2 黒褐色	SiCL	粉～塊	30	中	中		
		10YR2/1 黒褐色		SiCL	粉	5					
		10YR5/4・6/4		粘土	粉～塊	10					
	D ₂	10YR2/1 黒褐色	SiCL	10YR4/4 褐色	SiCL	粉	5	中	中		
		10YR5/4・6/4		粘土	粉～塊	10					
	D ₃	10YR2/1-17/1 黒	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～粒	5	中	中		
		10YR5/4・6/4		粘土	粉～層	30					
	D ₄	10YR2/2・3 黒褐色	SiCL	10YR4/4 褐色	SiCL	粉	10	中～硬	中～密		
		10YR4/3・2 褐色	SiCL	10YR6/4・5/4		粘土	粉～塊				30
D ₅	10YR4/3・2 褐色	SiCL	10YR2/3・3 黒褐色	SiCL	粉～粒	10	中	中			
	10YR4/4・6 褐色		SiCL	粉～粒	20						
D ₆	10YR3/3 暗褐色	SiCL	10YR2/1・2 黒褐色	SiCL	粉～粒	10	中	中			
	10YR5/4・6/4		粘土	粒～塊	3						
D ₇	10YR2/2・3	SiCL	10YR4/4・6 褐色	SiCL	粉～粒	5	中	中			
	10YR2/1 黒褐色		SiCL	粉～粒	3						

第 12 表 SD305 堀跡 埋土観察表 (1)

層名	主要土			含有土			硬軟	密度	その他
	土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
流入堆積	E ₁	10YR4/4	SL	10YR2/1 黒褐色	SiCL	粉・層	5	中	中
	E ₂	10YR2/2-2/1 黒褐色	SiCL	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL	粉～粒	20	中～硬	中～密
	E ₃	10YR2/2-2/1 黒褐色	SiCL	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL	粉～塊	30	中～硬	中～密
	E ₄	10 Y R 2/2-2/1 黒褐色	SiCL	10YR3/3-3/3 黒褐色	SiCL	粉	20	軟～中	疎～密
	E ₅	10YR4/4-3/3 褐色	SiCL	10YR5/4-4/4	粘土	粉～粒	30	中	中
	E ₆			10YR2/2-2/3 黒褐色	SiCL	粉	3		
	E ₇	10YR4/4-4/3 褐色	SiCL	10YR5/4-4/4	粘土	粉～塊	50	中	中
	E ₈	10YR5/6-5/8	SL	10YR2/1-2/2 黒褐色	SiCL	粉・層	20	中	中
	E ₉	10YR4/3-3/3 褐色	SiL	10YR2/2 黒褐色	SiCL	粉～粒	20	中	中
	E ₁₀	10YR4/3-3/3 褐色	SiL	10YR5/6-5/8	SL	粉～塊	20		
流入堆積	F ₁	10YR2/2 黒褐色	SiCL	10YR2/1-1/7/1 黒	SiL	粉～粒	10	中	中
	F ₂	10YR4/3-3/3 暗褐色	SiCL	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL	粉	3		
	F ₃	10YR2/1-2/2 黒褐色	SiCL	10YR2/3 暗褐色	SiCL	粉	30	中	中
底1前期	F ₄	10YR2/2-2/3 黒褐色	SiCL	10YR5/4-4/4	粘土	粒	1		
流入堆積	G ₁	10YR4/3-3/3 褐色	SiCL	10YR3/3-4/3 褐色	SiCL	粉～粒	20	軟～中	中
	G ₂	10YR4/3-3/3 褐色	SiCL	10YR2/2-2/2 黒褐色	SiCL	粉～粒	10	中	中
前壁壊面	G ₃	10YR5/8-5/6	SiL	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL	粒	10	中	中
流入堆積	G ₄	10YR4/3-3/3 褐色	SiCL	10YR6/4 黄褐色	SiL	粒～塊	30	中～硬	中～密 風化土
	G ₅	10YR4/3-3/3 褐色	SiCL	10YR2/1-2/2 黒褐色	SiCL	粉～粒	5	中	中
				10YR4/4-4/6 褐色	SiCL	粉～粒	5		
				10YR2/2-2/1 黒褐色	SiCL	粉～粒	20		
G ₆	10YR4/3-3/3 褐色	SiCL	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL	粉～粒	5	中	中	
			10YR5/4-4/4	粘土	粒	1			
前壁壊面	H ₁	10YR2/1 黒色	SiL	10YR2/3-3/3 黒褐色	SiCL	粉～粒	20	中	中
				10YR5/4-4/4	粘土	粒～塊	20		
堆流積入	H ₂	10YR17-2/1 黒	SiCL	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL	塊	20	中～硬	密
				10YR4/3-3/3 褐色	SiL	粉・層	30		
				10YR6/8 黄褐色	SL	粉・層	20	硬	密

第13表 SD305堀跡 埋土観察表(2)

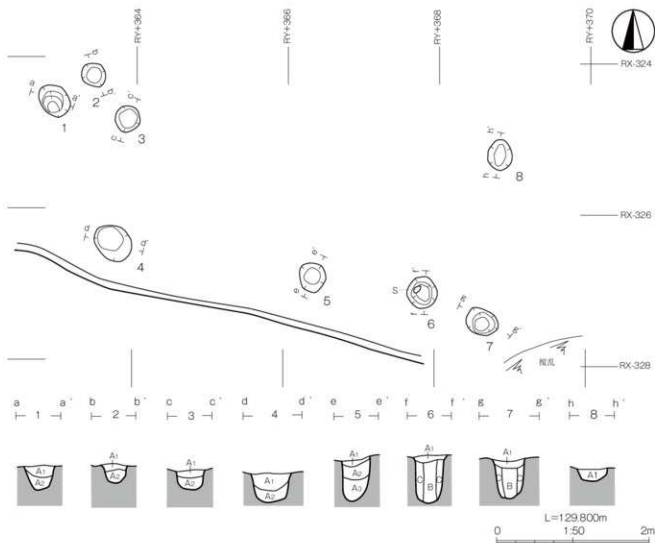
(5) 近世以降の遺構

小ビット1～8 (第60図・第14表)

A区南寄りに、8口検出した。埋土は黒～黒褐色土を主体とし、褐色砂質土を含むものであった。規模等は第14表のとおり。

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ (cm)
1	45	40	33	5	45	32	51
2	39	35	56	6	54	45	29
3	43	34	16	7	34	31	24
4	41	35	53	8	34	33	26

第14表 小ビット観察表



第59図 A区小ピット

(6) 調査のまとめ

今回の調査では、戦国時代の堀跡と考えられるSD 305と、近世以降の小ピットを検出した。

- A 区 調査範囲北側の平坦面（A区）では、近世以降のものと考えられる小ピット8口のみを検出した。戦国時代は堀の内側隣接地にあたり、遺構が希薄な地帯だった可能性が考えられる。
- B 区 中央部（B区）では、第29・51次調査区のSD 300堀跡と同一の堀跡と考えられるSD 305堀跡を検出した。過去の調査区と隣接した調査が未実施のためSD 300との連続状況は不明だが、北東側から続く戦国時代の曲輪の南端を検出した。埋土堆積状況から、ある時期に掘り直しがなされたと考えられる。また、堆積状況から、北西側上端に沿った曲輪内部に当たる場所に土塁を伴っていた可能性がある。
- C 区 調査区西側の道路が北西から南東に延びる堀跡と考えられ、C区付近はSD 300・305との合流点である可能性が高いが、盛土造成などにより確認できなかった。

里館遺跡は、近世直前に南部氏が盛岡に南下してきた際に、周辺を統治していた工藤氏の居館跡と考えられている。盛岡の近世初頭の歴史を知る上で重要な遺跡である。今次調査においては、その構造の一端が解明されたといえる。

写 真 图 版



第5次調査区全景（南東から）



第5次調査区全景（南西から）



RD03土坑全景（南から）



RD19土坑全景（東から）



RD20土坑全景（東から）

第2図版



第84次調査区全景 V層上面遺構精査完了（東から）



第84次調査区全景 遺物包含層Vb層精査完了（南東から）



調査着手前状況（南西から）



RA 6515 竪穴建物跡全景（南から）



RA 6515 竪穴建物跡 B₁層
縄文土器出土状況（南西から）



RA 6515 竪穴建物跡 C₁層
炭化材出土状況（北西から）



RA 6515 竪穴建物跡 A₁層
コハク出土状況（東から）



RA 6516 竪穴建物跡全景（東から）



RA 6516 竪穴建物跡 F₂層
縄文土器出土状況（南から）



RA 6516 竪穴建物跡 F₄層
石棒出土状況（東から）

第4図版



RA 6517 竪穴建物跡全景 (東から)



RA 6517 竪穴建物跡 A層
縄文土器出土状況 (北西から)



RA 6518 竪穴建物跡全景 (北東から)



RA 6519 竪穴建物跡全景 (南から)



RA 6520 竪穴建物跡全景 (南から)



RA 6521 竪穴建物跡全景 (南から)



RD 6650 土坑全景 (東から)



RD 6651 土坑全景 (南西から)



RD6652土坑全景(南から)



RD6653土坑全景(南から)



RD6653土坑 C層
縄文土器出土状況(西から)



RD6653土坑 底面付近
縄文土器出土状況(北西から)



RD6653土坑 底面
縄文土器出土状況(南西から)



RD6653土坑 底面
縄文土器出土状況(北から)



RD6654土坑全景(南から)



RD6654土坑 A₁層
コハク出土状況(南西から)

第6図版



RD6655土坑全景（南から）



RD6656土坑全景（西から）



RD6657土坑全景（南から）



RD6658土坑全景（南西から）



RD6658土坑 K₂層
石鏃出土状況（南から）



RD6659土坑全景（東から）



RD6660土坑全景（南から）



RD6661土坑全景（西から）



調査区南壁 基本層序（北から）



遺物包含層 V a層
遺物出土状況（南西から）



遺物包含層 V a層
縄文土器出土状況（南から）



遺物包含層 V a層
石鏃出土状況（北西から）



遺物包含層 V b層
遺物出土状況（南から）



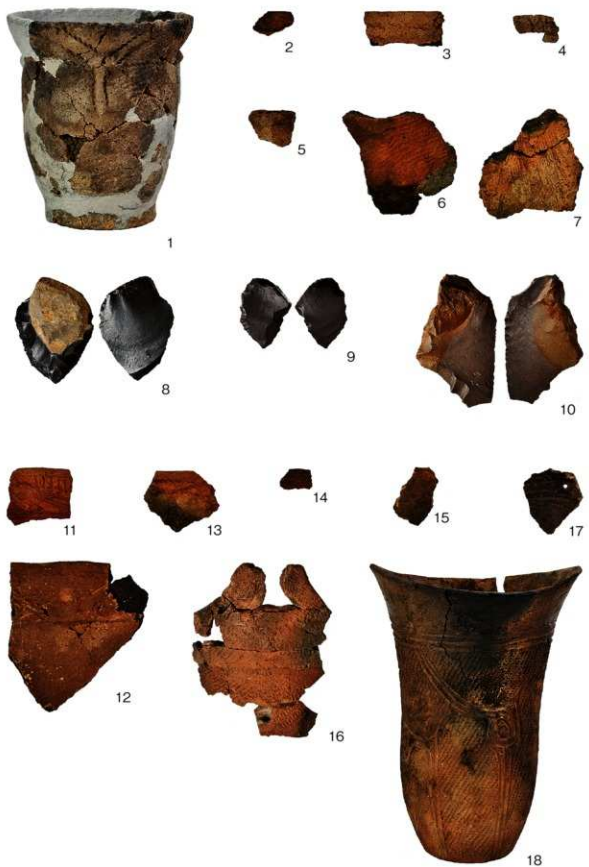
遺物包含層 V b層
縄文土器出土状況（西から）



遺物包含層 VI a層
遺物出土状況（南から）

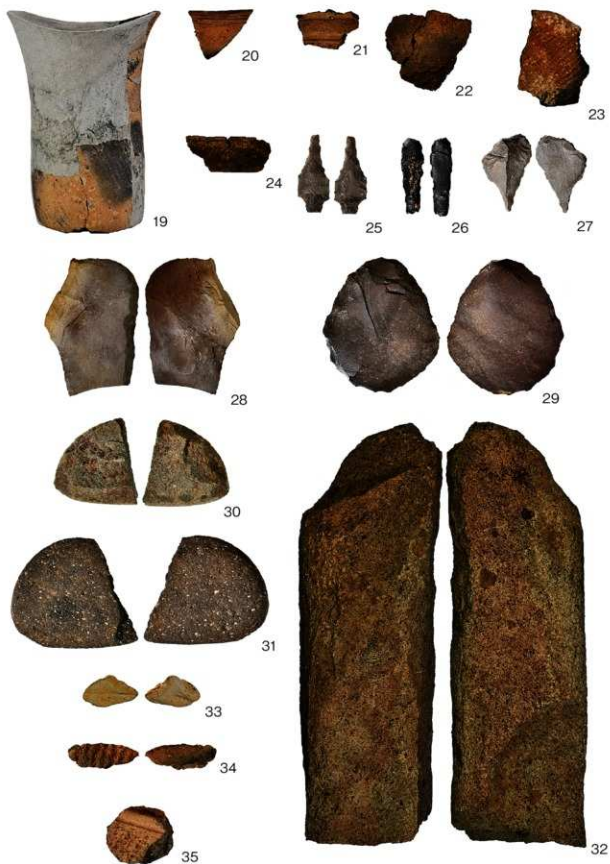


遺物包含層 VI a層
石屑出土状況（南から）



1~7, 11~18 (1:3) 8~10 (2:3)

RA 6 5 1 5 · 6 5 1 6 豎穴建物跡出土遺物

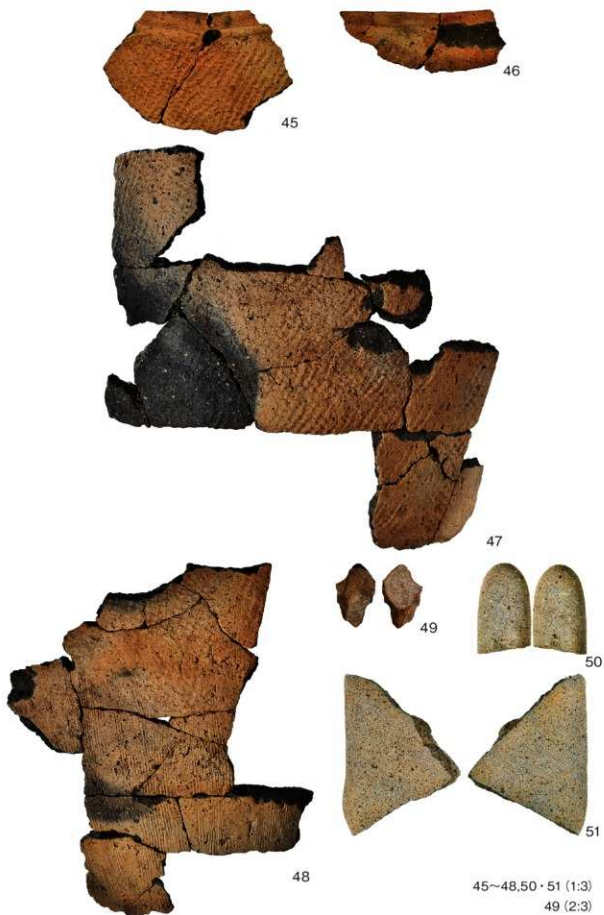


19~24,30・31 (1:3)
32 (1:4) 25~29,33~35 (2:3)



(1:3)

RA6517 竪穴建物跡出土遺物 (1)



RA 6 5 1 7 竪穴建物跡出土遺物 (2)



(1:3)

RA 6520 雙穴建物跡, RD 6650・6653 土坑出土遺物



63~72 (1:3)

73~76 (2:3)

77 (1:1)



78



79

80

81



83



82

84



85

86



87



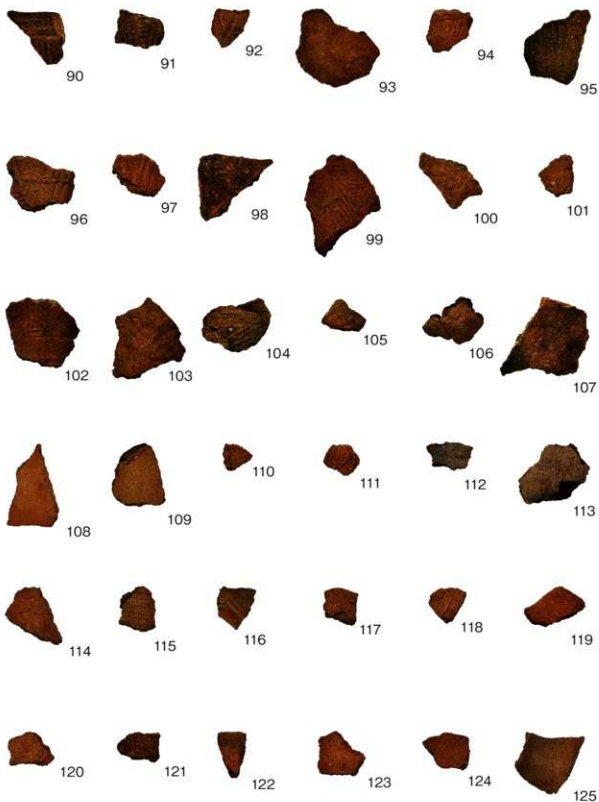
88



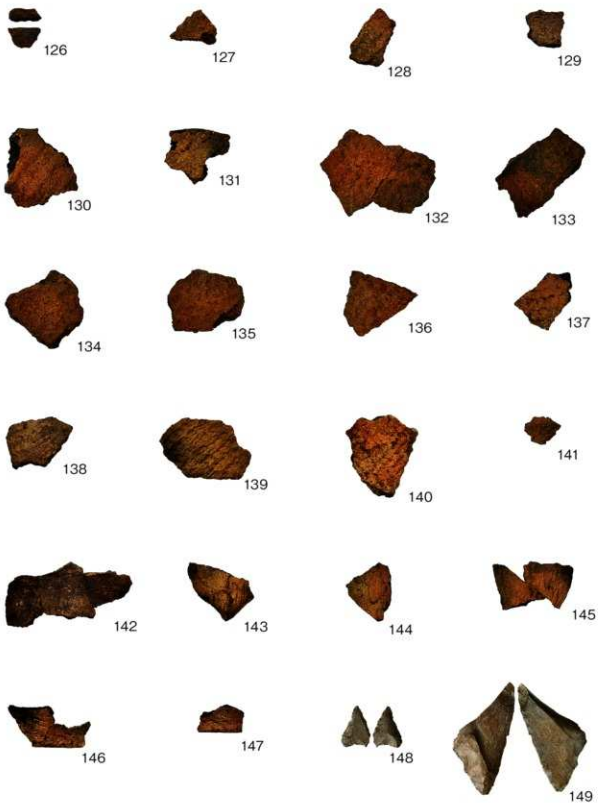
89

78 ~ 81, 84 ~ 86, 89 (1:3)

82 · 83, 87 · 88 (2:3)



(1:2)



126~141 (1:2)

142~147 (1:3)

148・149 (2:3)



第 38 次調査区全景（東から）



第 38 次調査区全景（北から）



RA 294 竪穴建物跡全景 (北西から)



RA 294 竪穴建物跡全景 (南西から)



RE295 豎穴跡・RA296 豎穴建物跡全景（北から）



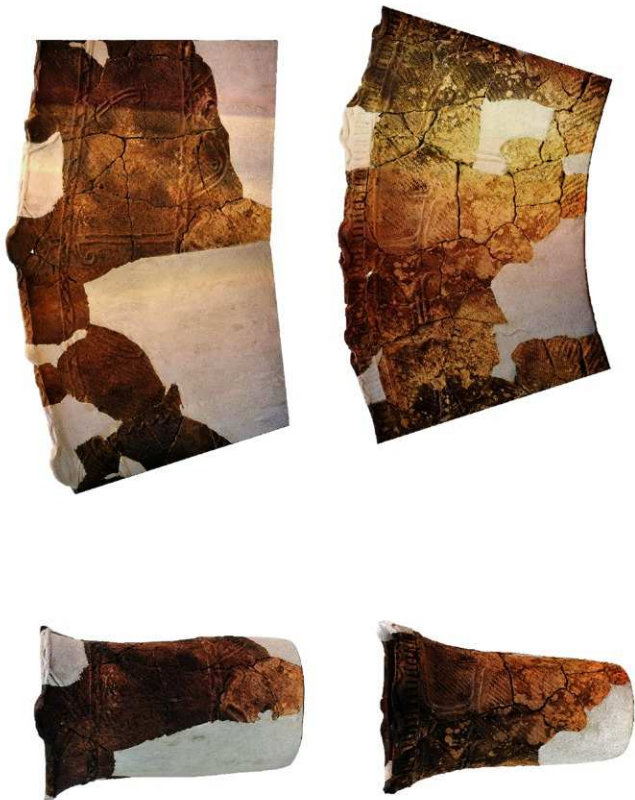
RE297 豎穴跡（北西から）



RE 295 竪穴跡 縄文土器出土状況 (南東から)



遺物包含層 II b 層 縄文土器出土状況 (南から)



RE295 雙穴跡出土土器 (左: 土器No.1, 右: 土器No.2)



RA 294 豎穴建物跡出土土器・土製品



RE 295 豎穴跡出土土器



RA 296 豎穴建物跡出土土器



RE 297 豎穴跡出土土器



遺物包含層出土土器



SD305堀跡土層断面（南西から）



A区全景（北東から）



A区小ビット（東から）



B区全景（東から）



C区全景（北から）

報告書抄録

ふりがな	もりおかしないいせきぐん							
書名	盛岡市内遺跡群							
副書名	平成29・30年度発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ番号								
編著者名	鈴木俊輝, 花井正香, 似内啓邦, 今野公顕, 今松佑太							
編集機関	盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600 Fax 019-635-6605							
発行機関	盛岡市教育委員会							
発行年月日	2020年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
赤袋遺跡	岩手県盛岡市 西青山一丁目 21番	03201	LE05-0397	39° 43' 20"	141° 06' 26"	2017.06.28	94.3	個人住宅建築
大新町遺跡	岩手県盛岡市 大新町13-18		LE06-1075	39° 42' 55"	141° 06' 58"	2018.04.09 ～ 2018.05.28	74	
繫V遺跡	岩手県盛岡市 稗内沢94-1		LE24-0030	39° 40' 26"	141° 01' 09"	2018.07.19 ～ 2018.09.19	198.3	
里館遺跡	岩手県盛岡市 北天昌寺町 247-4, 247-5		LE06-2027	39° 42' 43"	141° 07' 10"	2018.06.06 ～ 2018.06.26	136.5	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
赤袋遺跡 第5次	集落	時期不詳	土	坑 3基	遺物なし			
大新町遺跡 第84次	集落	縄文時代	堅穴建物跡	7棟	縄文土器, 石器, 石製品, 琥珀			
		時期不詳	土	坑 12基 遺物包含層				
繫V遺跡 第38次	集落	縄文時代	堅穴建物跡	2棟	縄文土器, 土製品, 石器			
		時期不詳	堅穴跡	2棟 土				
里館遺跡 第65次	城館	戦国時代 江戸時代以降	堀跡	1条	縄文土器, 土師器, 鉄製品			
			柱	穴 8口				

盛岡市内遺跡群

—平成 29・30 年度発掘調査報告書—

2020 年 12 月 28 日 発行

- 編 集 盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館
〒 020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地 1
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605
- 発 行 盛岡市教育委員会
- 印 刷 株式会社 杜陵印刷
〒 020-0122 岩手県盛岡市みたけ 2 丁目 22-50
TEL 019-641-8000